南城型エコミュージアム
実施計画（各論１）報告書

平成30年2月
南城市

目 次

第1章 本業務の概要
1－1. 業務の目的と内容……1
1－2. 基礎資料の整理……3

第2章 サテライト候補地の状況
2－1. 地域入り懇談会の実施概要……11
2－2. サテライト候補地の将来像……14
2－3. 地域が抱える課題と提案……42

第3章 ディスカバリートレイルの検討
3－1. ディスカバリートレイルの考え方……49
3－2. ディスカバリートレイルの整理……51

第4章 ブランディングの検討
4－1. 南城型エコミュージアムの呼び方……65
4－2. 行うべき事業の検討……69
4－3. プロモーションのあり方の検討……74
4－4. モデル事業の検討……78

第1章

本業務の概要

1－1. 業務の目的と内容

（1）業務の目的

南城市では、平成28年度に観光における地域ストーリーの明確化、市内回遊性の向上、魅力が観光客の琴線に響く仕組みづくり、関係事業のベクトル統一等を目的として南城型エコミュージアム実施計画（総論）を策定した。本業務では、実施計画をさらに深掘りすることで、市民や市内観光関連事業者における計画の理解が深化し、主体性が生まれ、南城観光の担い手意識を向上させ、南城市の魅力を十分に活かしたコミュニティビジネスの創造や観光まちづくりが促進されることを目的とする。

（2）業務の内容

1）与件の整理

基礎資料（南城型エコミュージアム実施計画報告書、南城市観光コア施設整備基本構想報告書）を整理・把握し、事業の位置づけを明確にする。

2）関連計画等の調査と位置づけの整理

関連計画（総論で整理したもの除く）について把握し、整合や連携が必要な内容、ふまえるべき前提条件などを整理し、業務に反映する。

3）地域入り懇談会の実施

27のサテライト候補地のうち、今年度は小谷、佐敷、久手堅、安座真、知名、久高、垣花、仲村渠、前川で実施する。地域入り懇談会では、実施計画（総論）の説明を行い、総論で取りまとめた地域の概要（マップ含む）や将来像（案）について確認を行った。

また、県内の大学等に呼びかけて、地域の魅力や課題を明らかにした上で観光スタイルを提案してもらう「観光スタイルコンペティション」を開催した。学生が気づいた地域の3つの宝は、地域住民に地域の魅力を浸透させることを目的として手ぬぐいのデザインとして活用する。

4）南城型エコミュージアム実施計画（各論1）の検討

各論の検討にあたっては、エコミュージアムの運営に関わるプラットフォームを想定した座談会を組織し、意見交換を行った。議題は、次のア～ウの内容である。会議は計5回実施した。

座談会の委員は、次表のとおりである。

座談会委員 名簿

氏名	所属・役職
相澤　和人	イーストホームタウン沖縄（株） 代表取締役社長

氏名	所属･役職
秋本　康治	なんじょう地域デザインセンター　センター長
川上　菊子	南城市商工会　事務局長
金城　良治	株式会社ストリズム　代表取締役
波多野　想	琉球大学観光産業科学部　教授
屋我　英樹	一般社団法人南城市観光協会　事務局長

ア. ディスカバリー・トレイルの検討

南城型エコミュージアムにおいてコアやサテライトをネットワークするディスカバリー・トレイルについて検討する。どことどこを結ぶ道なのかということを明確にし、その道中にどのような魅力があるのか、どのような移動手段が適しているのかということについても調査を行う。資料作成にあたっては、将来的な道路網の情報までを入れ込んだ道路地図を作成し、レイヤーとしてコア、サテライト、ディスカバリー・トレイルを重ねた図面とする。

イ. ブランディングの検討

総論をふまえた上で、南城型エコミュージアムの愛称や行うべき事業、ターゲット、内外へのプロモーション等について検討する。

ウ. モデル事業の計画

エコミュージアムの全体版及びサテライト版のモデル事業について検討・立案する。なおモデル事業については、持続可能なコミュニティビジネスに資するものとし、地域がその魅力をいかして収入が得られる仕組みとする。

５)南城型エコミュージアム実施計画書(各論１)のとりまとめ及び印刷製本

市と協議しながら、計画書の執筆を行う。

１－２. 基礎資料の整理

１－２－１. 南城型エコミュージアム実施計画（総論）について

南城市では、平成29年2月に「南城型エコミュージアム実施計画」（以下、総論という）を策定した。これは、南城市全体の取組方針を位置づけたものであり、南城型エコミュージアムの「総論」というべき内容である。

総論では、南城型エコミュージアムとはどのようなものか、その目標と方針、サテライトミュージアム候補地と候補地ごとの魅力及び将来像、行うべき取組、サテライト同士をつなぐディスカバリー・トレイル、総論実現にむけた取組などを取りまとめた。以下に、概要を整理する。

（１）南城型エコミュージアムがめざすもの

１）目標

南城型エコミュージアムは、エコミュージアムの概念を活用しながら、観光まちづくりを行っていこうとするものである。観光まちづくりの取組を進めるなかで、南城市らしい資源管理と観光誘客の施策を表裏一体として進め、観光客の満足度を高めるとともに、リピーターを増やしながら若者や子育て世代の移住定住を促進し、持続可能な地域づくりに寄与していきたい。そして、住民自身が地域に根づく資源の価値を高めるとともに、魅力的な着地型観光に取り組み、より多くの観光客をひきつけるまちとなるため、南城型エコミュージアムは次のような目標をもちたい。

地域の価値を育み、人々がめぐり会う魅力あふれる観光まちづくり

２）方針

方針1　住民の主体的な資源管理の促進

・人々が歴史的に受け継いできた南城市の自然や文化、生活様式や伝統などを次世代へと継承していくためには、住民自身の資源との関わりを深める必要がある。
・住民が地域の魅力や価値に改めて気づき、自らが主体となって資源の維持・管理を行ったり、魅力を伝える活動を促す。

方針2　魅力的な着地型観光の推進と観光客の誘客

・地域ならではの観光体験を提供する着地型観光をすすめ、観光客のより深い地域への理解を促す。
・地域の何気ない日常生活や受け継がれた文化に価値を見出し、観光客を魅きつけるプログラムや商品を創出することで、観光客の誘客を図る。
・観光という手段をとおして地域にお金が落ちる仕組みをつくり、地域振興を図る。

方針3　回遊と交流を促す仕組みづくり

・観光客の市内の滞在を促すためにも、市内に点在する多様な要素どうしを様々なテーマで結びつけ、組み合わせることで、人々が回遊する仕組みを生み出す。
・観光客が地域をめぐるなかで住民と出会い、交流が生まれるような仕組みづくりを行う。
・観光客の目的地への円滑な誘導を図るべく、地域内外において活発な情報発信を行う。

方針4　関連事業を包括し、相乗効果を図る

・これまで市の様々なセクションにおいて実施してきた、歴史や文化、産業、地域振興にかかる事業をエコミュージアムで包括し、体制面や事業内容について連携を図ることで事業の相乗効果を高める。
・市内各地で実施されている既存のイベントとの親和性を持たせ、付加価値を高める。

（２）サテライト候補地

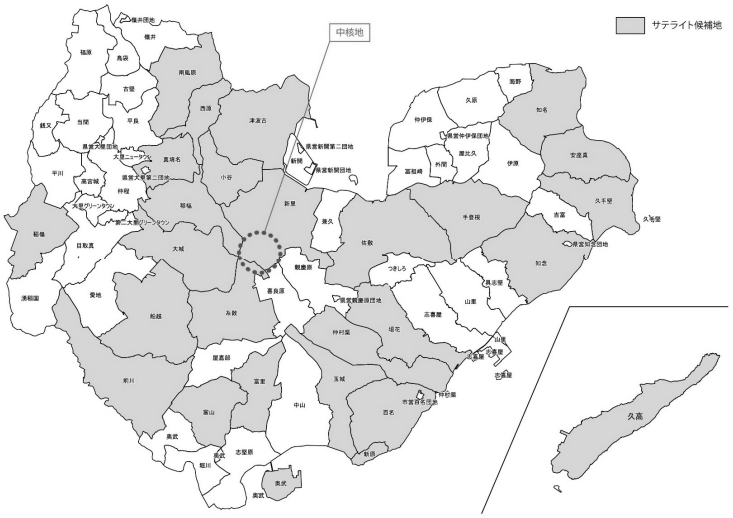
１）サテライト候補地について

南城型エコミュージアムでは、サテライトはひとつのストーリーで結ばれた地域である。よって必ずしも集落（自治会）単位というわけではないが、総論ではサテライト候補地を集落単位で、27の候補地を整理している。

なお、サテライト候補地はこれらの集落に限らず、今後のエコミュージアム展開において、随時、追加のエリア設定も行う予定である。本事業はムラヤー構想と緊密な連携をとりながら進め、各地域の資源をいかした地域活性化や観光振興につなげることを企図しており、最終的には市内の全70自治会がそれぞれのストーリーで合従連衡し、サテライトとしての活動を行うことも視野に入れている。

図表　サテライト候補地

旧 市町村	サテライト候補地
佐敷	佐敷、新里、小谷、津波古、手登根
大里	西原、南風原、大城、稲福、真境名、稲嶺
知念	知名、安座真、久手堅、知念、久高
玉城	百名、新原、仲村渠、垣花、玉城、富里、當山、奥武、糸数、船越、前川



２）南城型サテライト事業の展開

南城型エコミュージアムの活動に住民の参画を促すためには、サテライトの住民一人ひとりが地域に関心を持つ必要がある。そのため、住民が地域資源を活用していく手順として、総論では「ウムイ（想い）」をキーワードに、次のような活動の展開を位置づけている。

表 南城型サテライト事業の展開

ウムイをめぐらす	子どもからお年寄りまで住民一人ひとりが、自分が暮らす地域にどんな資源があるのか、あるいは昔どんな出来事が起こったのか、過去から現在に至るまで地域に想いを巡らせます。みんなで資源の調査を行ったり、話し合いを重ねたりするなかで、地域の特徴や魅力を見つけ出します。
ウムイをよせる	みんなで想いをめぐらせて発見した地域の魅力の一つひとつに想いをよせて、花や作物を大事に育てるように地域資源の管理を日常的に行い、資源の継承や復活にむけた活動を展開します。資源に想いを寄せる人々のなかから、活動のサポーターを育成します。
ウムイをこめる	これまで想いを寄せて育ててきた資源に、地域を愛するたくさんの想いを込めて、新たな付加価値を加えます。サテライトの日常風景や人々の生活に眠る価値を再編集し、地域発の観光プログラムの創出や産業振興につなげていきます。
ウムイをとどける	地域の資源にぎっしりつまったみんなの想いを、より多くの住民や市民、観光客に届けます。多様なメディアを活用して、南城型エコミュージアムの理念が社会に浸透するように、広く地域内外に情報発信を行います。

（３）ディスカバリー・トレイルのコンセプト

南城市におけるディスカバリー・トレイルは、特定のテーマで結んだり、トレイルを歩きながら地域のディープな歴史を聞いたり、先達の文化的工夫が紹介されたりなどの仕組みと物語性を持ったルートとする。総論では、既存の取組を活用したり、市内の道路事情や移動手段、イベントやリラックスできる場所の分布などを考慮したりしながら、時間をかけて地域とともにつくりあげていくこととし、次のコンセプトを提案した。

コンセプト① ダイナミックストーリーと小さな発見

「南城市歴史文化基本構想」の流れを汲み、各自治会の地域資源を活用するのであれば、「歴史物語の舞台を歩く」という大きなストーリーが心に響きやすい。歴史の再発見と伝承、そして市民のアイデンティティの確立に結びつくようなコース設定が望ましく、南城市しかない「物語」を歩きながら体感させる。一方、歴史に興味がない観光客に対してのトレイルを歩くことの価値づけも必要で、「いつまでも変わらない沖縄の風を感じる」などの旅情を呼び起こすような誘導を行う。

また、トレイルを歩きながら、当時の社会事情、工夫した点などを紹介し、クイズ形式も取り入れ、知識と目の前のもののつながったときの「あ！」という小さな発見を大事にする。

コンセプト② トレイルに地域の哲学や昔の暮らしの解説などを込める

ガイダンスが重要で、ガイドのストーリーテリングでライブ感を出し、昔の生活を感じ学ぶ。ライブ感には当時の面影を連想させることが重要なので、景観を保全したり昔から使っていた道などを復活させたりして、いつまでも変わらない沖縄の風景と息吹を感じることができるようにしたい。今、聞かないと失われてしまうよもやま話や異説など、マイナーな伝承を残していくことも重要。また、昔だけでなく、畑や地域の商店、オープンガーデンなどで現代を生きる人々と触れ合える仕組みをつくる。

コンセプト③ 「歩くことで社会貢献する」という価値付け

地域と全体の二重管理で「歩くことで社会貢献する」という価値づけをし、地域にお金が落ちる地域還元の仕組みを整える。「成長するエコミュージアム」として、市民発案で新しいトレイルルートが派生的にできていくような環境づくりを進める。年に一度「南城市ディスカバリー・トレイル of the Year」を実施し、市内のベストトレイルを決定するなど遊びの要素があってよい。

基本的には、自治会間を結ぶ中距離のディスカバリー・トレイルとし、セルフでもガイドでもどちらでも歩けるようにする。小谷マーイのような集落内の散策ルートはサテライトの取組に含まれ、そこに生活する住民ガイドが案内するのがよい。また、歩きたくなるようにアレンジされたトレイル地図・集落地図を用意する。

（４）実施体制の展望

１）地域を動かす体制

南城型エコミュージアムのサテライトは集落（自治会）が主役である。総論では、地域のセルフマネジメントについて、エコミュージアムの理念を浸透させ、地域の体制などを整えていく段階である《施行期（チンダミ期）》と、サテライト運営を本格化する《本格運用期（カチャーシー期）》にわけて位置づけている。

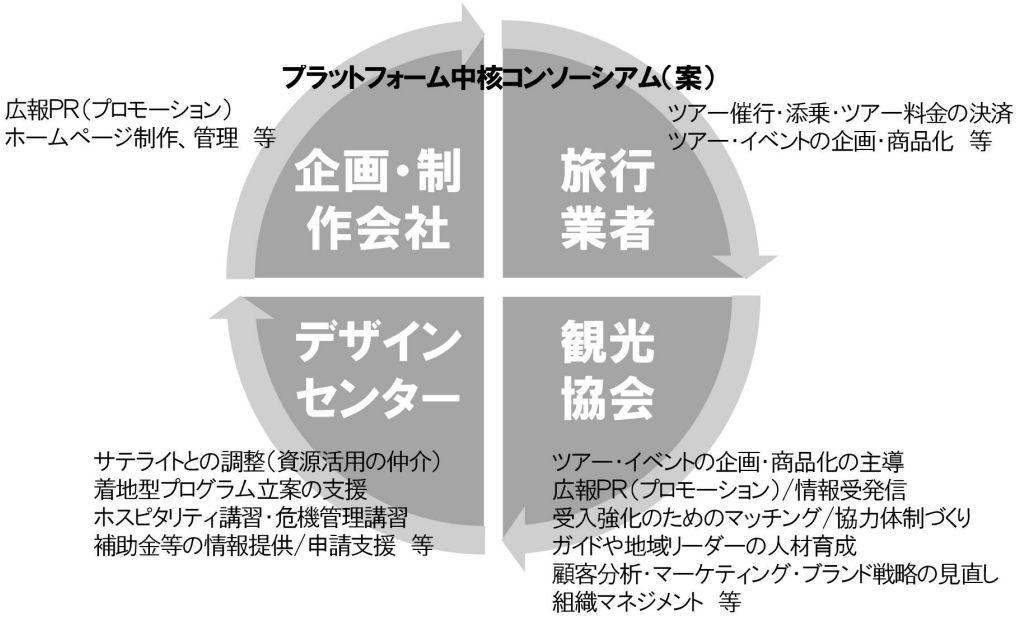
施行期では、自治会とプラットフォーム（後述）が連携して、本格運用期においては自治会の負担を減らし、地域のなかで役割分担を図るための新たな体制について提案した。

２）全体をコーディネートし地域をサポートする体制

総論では、南城市全体で南城型エコミュージアムを構築するにあたって、運営のためのプラットフォームを提案している。運営プラットフォームは、エコミュージアム全体のマネジメントを担う役割と、各サテライトのエリアマネジメントをサポートする役割という大きく二つの役割を持つ。

プラットフォーム中核組織（中間支援組織）は、「南城市観光協会＋なんじょう地域デザインセンター＋市内の旅行業者＋企画・制作会社」で構成することを提案している。エコミュージアムの主役の一方は地域住民であり、もう一方は観光客・来訪者であり、観光客対応として旅行業者が、地域対応としてデザインセンターの仲介が必要であるためである。両者の役割を観光協会が束ねる形で、地域住民が活躍する体験プログラムを運営し、企画・制作会社がプロモーション活動を行うことで、観光客を誘客することがスムーズになる。この体制であれば、コアミュージアムを設置した場合も、その管理運営を担うことができると考えられる。

図　プラットフォーム中核コンソーシアム(※)のイメージ



※コンソーシアムとは…互いに力を合わせて目的に達しようとする組織や人の集団。共同事業体、組合協議会などのこと。

1－2－2. 観光コア施設整備基本構想について

市では、合併4地区のほぼ中心に位置するユインチホテル周辺を中核地として位置づけ、市役所新庁舎や大型駐車場の整備を進めている。また、南部東道路の整備によって将来的に交通利便性が向上すると予測されることから、この中核地に観光、交通、市民活動等の拠点となる観光コア施設を整備する。なお基本構想では、段階的に設計や管理運営の検討・体制づくりを進め、平成34年度の供用開始を位置づけている。

（1）観光コア施設の理念と基本方針

基本構想では、市は「人々と自然、歴史、文化とのつながり」を重視すべきであり、観光コア施設は、土地に根づいた人々と地域資源との関わりをみつめなおし、「南城市が南城市らしくあり続ける原点」としての役割を担うものとして、施設の理念及び基本方針を次のように定めている。

【理念】

“いつも”に還る(孵る)場所――南城市が南城市らしくあり続ける原点

【基本方針】

方針1	**市民や観光客の活動のキーストーンとなる場を形成します** • 先導的都市拠点に立地するコア施設は、市民が一同に会せる集会機能の役割を果たすとともに、南城観光の起点として、観光に関わる情報発信・交通・防災拠点の役割を果たします。 • 隣接する市庁舎との機能の連携や、整備が進む南部東道路を軸とした市内への誘客など、各関連計画・事業との相乗効果を高めます。 • 自然災害や緊急事態時には、市民や観光客の緊急避難先や被災者を支援する場としての役割を果たします。
方針2	**地元への愛着が高まる市民団らんの場を創出します** • 市民自身と市のあらゆる要素とのつながり(人、家族、祖先、友人、コミュニティ、自然、歴史、伝統、文化、精神、収穫物等)を見つめなおし、心の聖地である南城市らしさを生み続けるような場所にします。 • そのために、子どもから高齢者の居場所づくりや市民の憩いの場を設けたり、市民や自治会の日常的な活動や地域芸能の練習に利用できる活動場所と発表の場を提供します。
方針3	**南城ストーリーを共有し、南城市を愛する人の拡大を図ります** • 現代社会で失われつつある旧暦ですが、その生活リズムは市内各地の文化資源や市民の日常の営みに脈々と受け継がれています。これらの市及び周辺地域の歴史、文化、自然に関する情報を、テーマやストーリー性をもって紹介し、各地域への誘客や魅力の向上及び産業の振興を図ります。 • 観光客が市民の生々しい日常の場を偶然かつリアルに体感できるような場にすることで、より深い感動・交流体験を提供します。 • 文化的背景の近いアジアとの交流を積極的に行うことで、市の新たなつながりを創出し、芸術文化のさらなる発展や展開を促します。

（2）考えられる機能

ワークショップ・ヒアリングや施設の理念をふまえて位置づけられた機能は、次頁のとおりである。

図 観光コア施設で考えられる機能

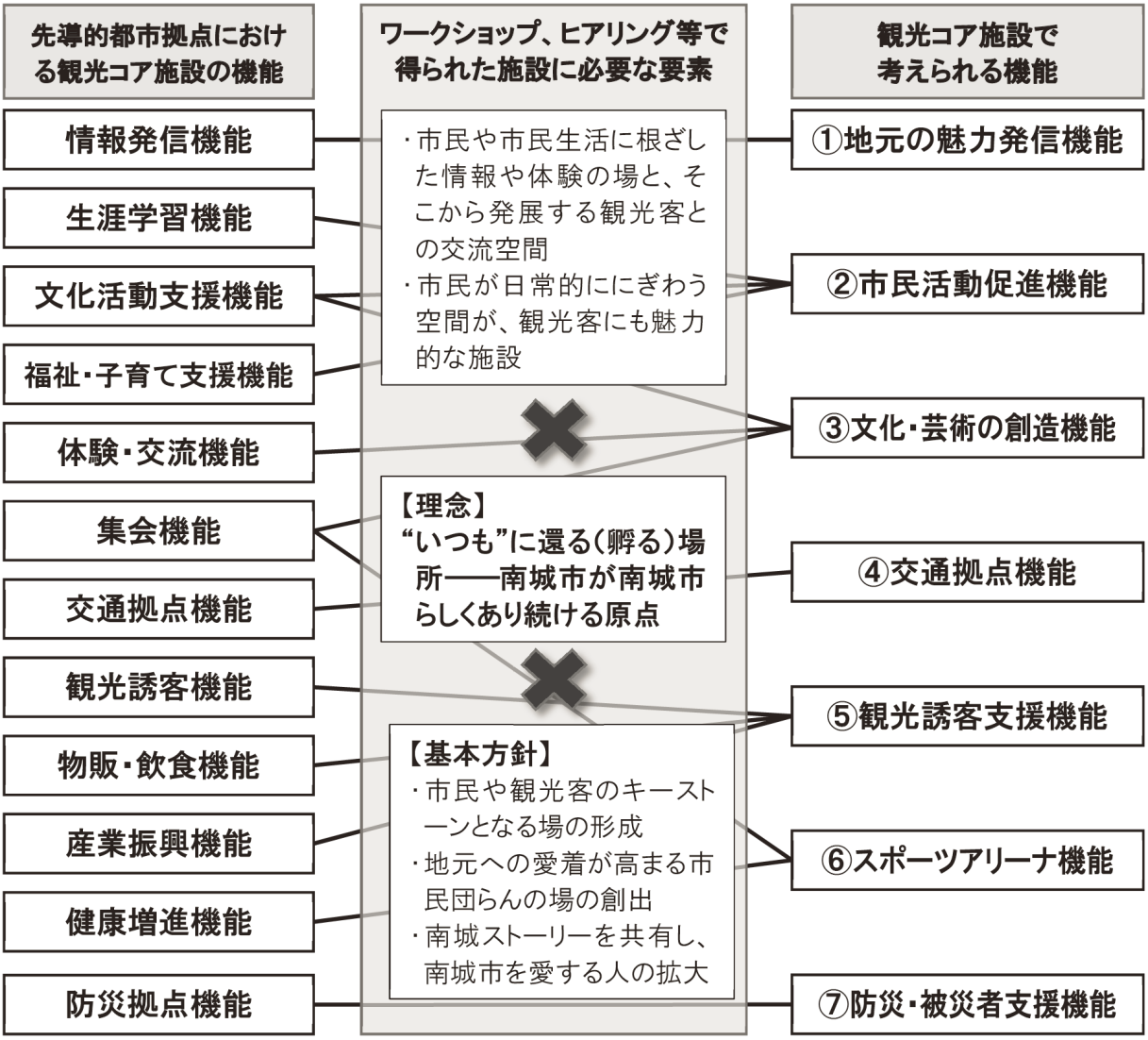


表 各機能の概要

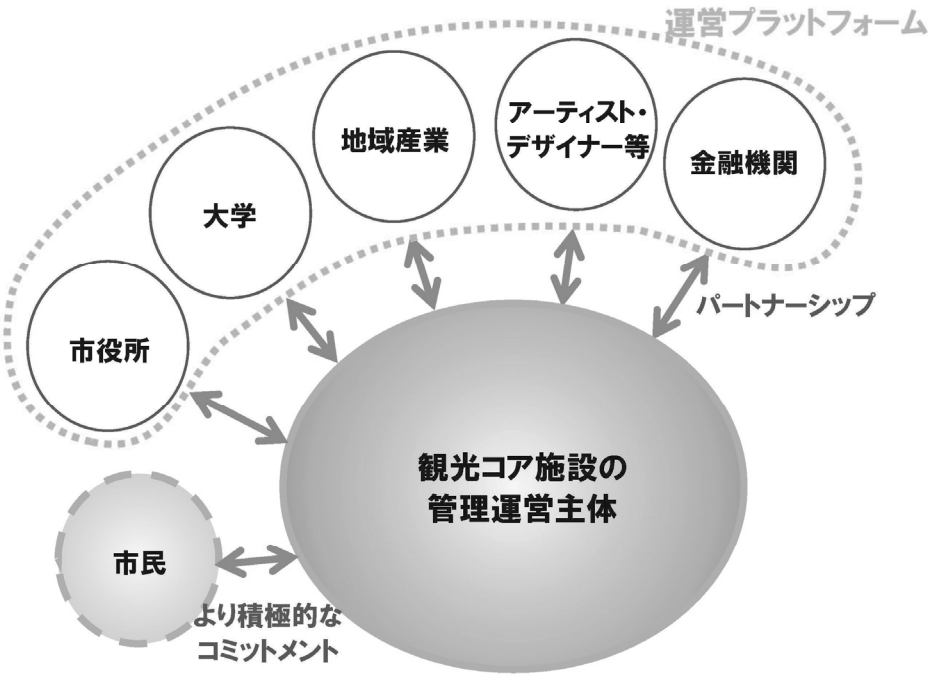
名称	概要
地元の魅力発信機能	・市民生活に根ざした情報や体験機会を提供し、新たな南城市の観光像を構築する。 ・エコミュージアム構想のコアミュージアム機能として、70自治会の魅力を住民が考え行動し発信する体制を築く。 ・市民が自ら魅力を発掘する活動を推奨し、そのためのワークスペースを設ける。 ・市内観光について、当施設でオリエンテーションを行い、各地へ訪問できる場とする。 ・案内人(ガイド・コンシェルジュ)を配置し、案内や相談を受け付ける。また、コンシェルジュや案内人による企画イベントを開催する。
市民活動促進機能	・市民及び団体が気軽に利用できる活動場所・憩いの場を提供する。 ・市民と市民、市民と観光客が出会い啓発しあう機会、様々な人材の発掘と育成の機会、活動をとおして、市の根っことつながっていることを実感する機会を提供する。 ・子どもや高齢者の居場所づくりといった地域課題を解決できる場とする。 ・コンシェルジュやガイド養成講座、各自治会のコーディネーターを養成し、コア施設の運営を支援する会を組織する。 ・自治会の情報発信と連動したワークショップを開催し、自治会同士の交流の場や情報コンテンツの作成に役立てる。

名称	概要
文化・芸術の創造機能	・市民や自治会による伝統芸能や演劇の練習を行う場、発表の場として提供する。 ・市内にいるプロ・セミプロクラスの芸能者による、質の高い芸能公演を開催する。これらは宿泊とセットにしたナイトツーリズムとして観光客にも提供する。 ・パフォーミングアーツ(現代版組踊やミュージカル等)の練習、創作・発表の場として、外部の演出家を招聘した複数のプログラムを定期的に実施する。 ・アジアとの文化交流イベントやワークショップを定期的に開催する。観光客も体験できるサービスとすることで、来訪の魅力を高める。
交通拠点機能	・南部東道路の整備に伴うレンタカーやバスの観光交通の拠点として、南城観光の「はじまりの場所」として、本施設への案内、市内への誘客に寄与する。 ・EV車や自転車による観光利用を支援することで、市が実践する環境共生型観光の推進やエコなライフスタイルの提案の場とする。 ・観光誘客支援機能と合わせて「道の駅」のような空間を創出する。 ・市内デマンドバス(なんじいバス)の待機場とし、市民・観光客の市内移動に活用する。 ・イベント開催時に駐車場を貸出し、イベント会場へのシャトルバスを運行させる。
観光誘客支援機能(飲食・販売・観光サービス提供等)	・南城市の特性や地域産業をテーマとしながら、テナント誘致または民間活力の導入による利便性・集客力の高い施設とする。 ・市及び南部の観光情報をワンストップで収集し、そのサービスの窓口機能を持たせる。 ・市民はじめ県民・観光客のレジャー、スポーツの振興に寄与する。 ・南城市及び周辺市町村の特産品や工芸品の展示、販売を行う。 ・テナント飲食店舗(レストラン・オープンカフェ等)にて、市内産品を活かしたメニューを提供する。食器等については、市内芸術家の作品を活用する。

※「南城市観光コア施設整備基本構想報告書」より、エコミュージアムに関係が深い機能のみを整理した。

(3)運営プラットフォームのイメージ

観光コア施設は市全体の魅力向上に関わるため、市を挙げての管理運営主体のサポートが必要とされている。基本構想段階では、施設の運営にあたって、施設の管理運営主体が市民とより積極的な関係性を持ちつつ、市役所、大学、地域産業、アーティスト・デザイナー等、金融機関で構成される運営プラットフォームとパートナーシップを図ることを位置づけている。



第2章

サテライト候補地の状況

2－1. 地域入り懇談会の実施概要

2－1－1. 将来像(案)の再検証及び意見交換

(1)目的

地域入り懇談会は、地域の将来像の確認及び意見交換を行うパートと、外部の視点から地域の魅力を整理して観光スタイルを提案するコンペティションの2パートに分けられる。意見交換のパートでは、27のサテライト候補地のうち本事業対象9地区において、事業及び実施計画(総論)の内容の説明と、観光等についての意見交換を行った。意見交換の主な目的は、①南城型エコミュージアムに関する市の取組を知ってもらうこと、②地域振興や観光に対する地域の考え方を確認し、地域がやりたいことや課題と感じていること等について把握すること、③次年度以降これらの問題意識を具体的な取組へとつなげていくために、方向づけや背中を押すこと等である。

(2)実施概要

意見交換では、南城型エコミュージアムの説明を行うとともに、総論においてたたき台として整理した地域の将来像(案)及び地域概要の内容について確認した。また、地域の観光に対する考えごとや困りごとについてヒアリングし、解決策等について提案できる地域に対しては提案を行った。観光スタイルコンペティションの終了後には、提案内容を地域に紹介する機会とした。

実施にあたっては、地域の負担を軽減するために、なるべく地域行事やイベントを避けて、役員会等の地域で人が集まる機会等をとらえて実施した。意見交換の流れは次のとおりであるが、地域の議論の深まり具合や特性に応じて実施したため、開催回数は地域によって異なる。また、一度の集まりで第2回及び第3回の内容をまとめて実施した地域もある。詳細な記録は資料編に整理している。

将来像（案）の再検証及び意見交換の流れ

第1回	・（区長等への事前ヒアリング） ・ 本年度事業の説明 ・ 南城型エコミュージアム(総論)についての説明
第2回	・ 南城型エコミュージアム(総論)についての説明 ・ 将来像(案)及び地域概要等の確認／あるいは地域内で議論してもらう ▸修正後の将来像を区長等へ送付して再修正があるか確認

第3回	・ 観光スタイルコンペの内容共有 ・ 地域の観光に対する考え方、やりたいこと、課題等をヒアリング ➢ 《課題カード》での意見出し ➢ やりたいことが明確にある地域は、次年度どういうことができるか意見交換 ➢ 意見が出ない地域は、観光の困りごと等を聞きながら、積極的か消極的かを判断 ➢ 自治会が忙しい等の理由で消極的な場合は、自治会ではないが継続して活動できるキーパーソンと個別に調整へシフト
第4回 **一部地域**	【やりたいことがある地域】 ・ やりたい内容の取組案を提案し、意見交換／次年度の下準備 【課題が明確な地域】 ・ 課題解決の取組案を提案（例：観光の困りごとがある地域ではルールづくりを提案等）

2－1－2. 観光スタイルコンペティション

（1）目的

若者の視点から地域の客観的な魅力を評価し、エコミュージアムの観光スタイルを提案してもらうことを目的としている。提案された内容は、手ぬぐいデザインとともに南城型エコミュージアムの各論として昇華する。

今年度の観光スタイルコンペティションは、大学生の地域づくりへの参画を促すものであり、そのための仕組みづくりのテストケースとしての側面も持つ。

（2）実施概要

観光スタイルコンペは、合宿形式で実施した。先入観を持たずに地域をみてもらうために大学主体のチーム運営とし、学生の自由な発想による提案を期待した。

プレゼンテーションでは、①地域の現状（と課題）、②観光スタイルの提案、③取組による効果と地区の将来像、④これらを表現する手ぬぐいのデザインコンセプトの4つを必須項目とした。3名の審査員による審査を行い、各賞の受賞チームを決定した。賞は、すべての提案の中から、総合的に判断し、もっとも優れた提案をしたチームに送られる「最優秀賞」、南城市長が受賞者を決める特別賞「南城市長賞」、もっとも尚巴志スピリットにあふれた提案に贈られる特別賞「尚巴志賞」の3つである。また、審査当日には、審査に参加した旅行事業者がもっとも事業化したいと感じた提案を行ったチームに対して、特別賞が与えられた。各チームの提案内容や合宿の様子については、資料編を参照されたい。

参加大学と対象地域、審査員は、次表のとおりである。

参加大学

No.	大学	対象地域	備考
1	琉球大学 観光社会学研究室チーム	小谷	イーストホームタウン賞
2	なんじょう♥市民大学チーム	佐敷	
3	Litterati Japan オキナワチーム	久手堅	
4	沖縄大学チーム	安座真	
5	琉球大学 留学生チーム	知名	
6	立教大学チーム	久高	最優秀賞
7	琉球大学 観光景観学研究室チーム	垣花	南城市長賞
8	名桜大学 Aチーム	仲村渠	
9	名桜大学 Bチーム	前川	尚巴志賞

審査員

名前	肩書	備考
古謝 景春	南城市長	代理出席:具志堅兼栄(副市長)
平良 斗星	株式会社エフエム那覇 代表	
相澤 和人	イーストホームタウン沖縄株式会社 代表取締役社長	

2－2. サテライト候補地の将来像

昨年度策定の総論では、サテライト候補地の将来像（案）について、地域懇談会等で出された意見を参考に取りまとめている。この将来像（案）について、本年度事業の対象となる佐敷、小谷、知名、安座真、久手堅、久高、垣花、仲村渠、前川の9地区において、地域意向の確認及び意見交換を行った。次頁より、地域の意向をえて再整理した地域概要及び将来像を示す。

（1）小谷

住民主体でまち歩きに取り組む地区

項目	概要
地域の概況	・市域の北方に位置し、津波古区、西原区、稲福区、新里区に隣接している。 ・平成30年1月末現在の人口は341人、世帯数122世帯で、高齢化率は約50％（老人介護福祉施設含む）。 ・石畳道や古民家、アタイ小等の沖縄の昔ながらの景観が残されており、3つの井泉（上の井、中の井、下茂の井）があり、昔の生活を伺い知ることができる。 ・古くから竹細工で県下に知られ、ザル（バーキ）づくりが盛んに行われた。
自然資源	・丘陵麓に集落が形成されており、高台では中城湾の馬天港を一望することができる。 ・集落後背にはクサティムイとして森林が広がり、集落内にはガジュマルの大木や、竹林がみられる。 ・「南城市景観まちづくり計画」で重点地区候補に挙げられている。
歴史文化資源	・主な文化資源に、昔ながらの石畳道や泉を利用して造られた樋井である上の井、中の井、下茂の井がある。下茂の井が最も古く、知念按司が造ったとも言われている。 ・市の集落域サイン整備事業で文化財等へのサインを設置済み。
産業資源	・主な産業は、サトウキビを中心とした農業である。 ・カフェ･レストランの「ピザ喫茶ミモザの木」、陶芸工房の「とうき家～春壽」がある。 ・竹細工は、大戦前は組合を結成して食料用や工事用のザルをづくり、協働作業場で生産や共同出荷を行った。現在でも少人数ではあるが、竹細工を生産している。 ・東陽バスの37番、91番、191番が運行。
地域活動の概況	・主要な団体は、青年会、PTA、ユンタク会（ミニデイ）、バーキの里うくく会。 ・伝統行事として、クシユクヮーシー、ウマチー、カシチー、綱曳き（アミシ）、ヌーバレー、土帝君拝み等を行っている。他にも、慰霊祭、十八夜敬老会、イルミネーション点灯式、同志会、新春グランドゴルフといった行事を実施している。 ・小谷まーい、イルミネーション、十八夜･敬老会はなくしたくない行事と考えられている。
観光動向	・バーキの里うくく会が集落の文化資源を案内する「小谷まーい」を実施しており、市民や県民、観光客からの利用がみられる。年に1回、イベントとして実施する際には、竹細工体験や陶芸体験も行っている。 ・12月に区内の美ら石坂とタカンリでイルミネーションを実施している。
PRポイント	・石畳道や古民家、アタイ小といわれる世帯ごとの小さな畑等の沖縄らしい資源が癒しの景観を形成する地域である。 ・小谷まーいとイルミネーションで集落の活性化を図っている。住民らの手づくりで装飾されるイルミネーションは、2016年で10周年を迎え、市内外から多くの人が訪れる。 ・2016年5月から、区民の畑で獲れた野菜や果物、各家庭でつくった漬物や天ぷら、菓子を販売する朝市を実施している。 ・人間国宝･宮城能鳳氏の出身地。
やりたいこと	・小谷まーいの収益化やイルミネーションのバージョンアップを図りたい。 ・ユインチホテル南城とは、観光客への情報提供の面で連携したい。 ・ムラヤーでは文化活動を行いたい。 ・今後興味のある活動は、高齢者の一人暮らしへの対応、健康づくり、地域づくりの人材育成、若者の地域活動への巻き込み、伝統･文化･芸能の継承･振興等。
課題	・住民の地域行事への参加率が悪く、各団体に確実に通知する取組が必要。 ・住宅地を確保するために、農用地の解除が課題である。 ・ガイドを申し込まずに、自分だけで地域散策する人･団体がみられる。ガイドを頼まずに集落内を散策する際の連携体制が課題である。また、観光客によるポイ捨てや、イルミネーション時に集落奥へ車が入り込むことも懸念事項である（小谷まーいやイルミネーション時には、公民館前の道路脇に駐車してもらっている）。 ・観光客の来訪に備えて、常に集落内を掃除する必要があり、手間がかかる。

◆小谷の将来像

小谷まーいで昔の暮らしを感じるムラづくり

3つの宝：①イルミネーション　②文化財・自然　③バーキと小谷まーい

方 向 性：石畳道や古民家、アタイ小、3つのカー等の沖縄の昔ながらの景観が残されている集落で、現在は地域住民による「小谷まーい」が人気を呼び、冬季のイルミネーションとともに自治会活動が盛り上がりをみせています。バーキ職人によるバーキづくりのワークショップも人気が高いため、竹細工や陶芸の製作体験と小谷まーいを組み合わせることで、さらに深い地域の暮らしを伝えるとともに、散策時に区内の喫茶店等の事業者と連携することで、収益性をアップさせる展開も可能です。外部からも人を呼び込み伝統的な産業の後継者育成と発展を図る必要があります。

イチ押し：ターゲットを絞って静かに開催する観光プラン

一度に大勢の観光客が押し寄せるのではなく、1日の案内人数を制限したプレミアム型で、静かにゆっくりと地域住民の方と歩きながら集落を知り、人間本来の生き方を感じ、よりよい生き方を考えてもらうという自己啓発型のプログラムを定期的に開催する。

◆客観的に捉えた小谷の魅力と課題　※観光スタイルコンペティションからの視点

【地域の魅力・現状】

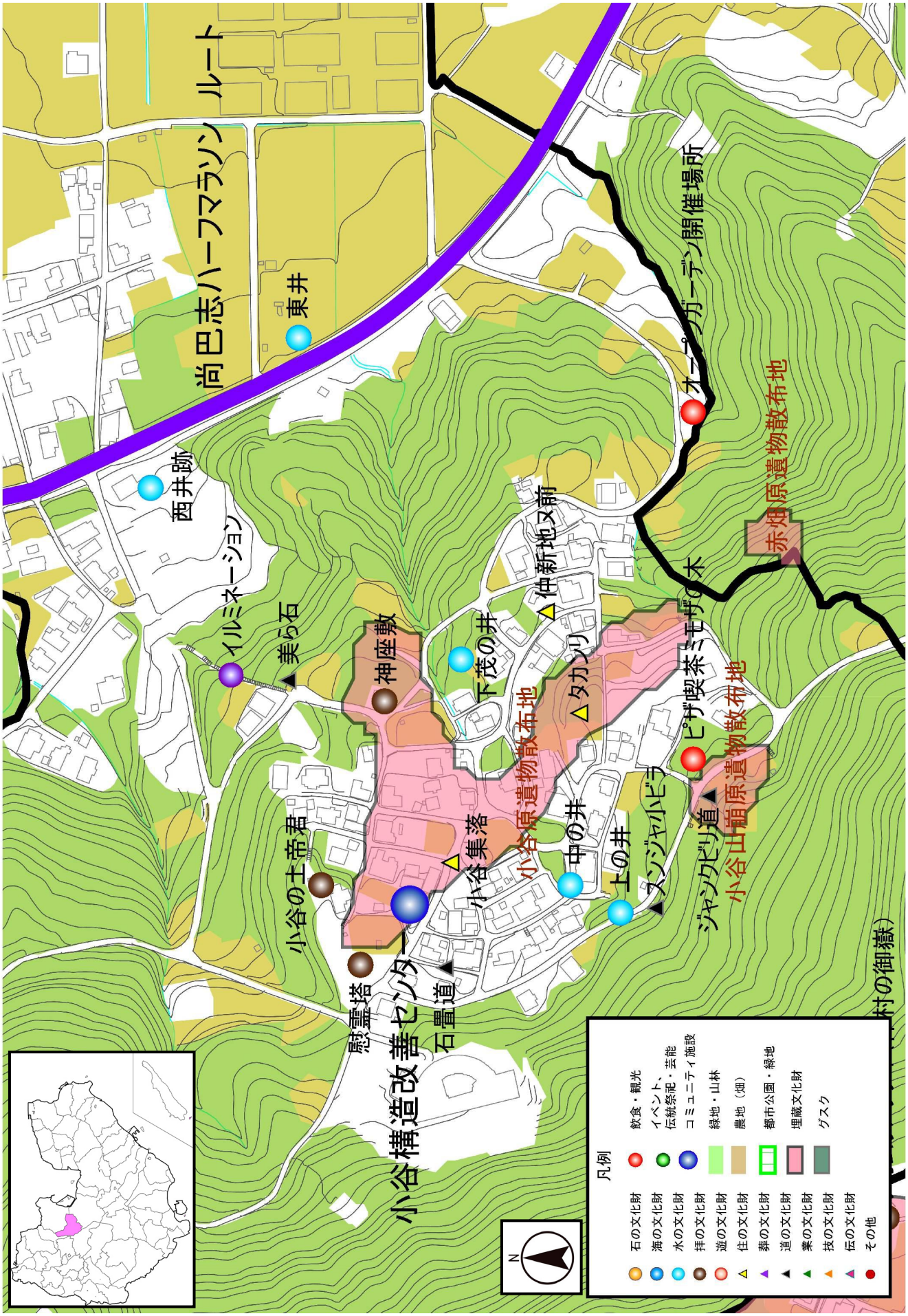
- 「小谷まーい」という、まち歩きのガイドツアーを地域で行なっている。
- 小谷は竹の里と呼ばれ、伝統的な竹細工（バーキ）づくり等の体験ができる。
- 地域の象徴である旗頭があり、地域の人の思いがつまっている。
- 小谷ガイドや住民とのふれあいは、どこか懐かしさを感じる。人々の温かさは最大の魅力である。

【地域の課題】

- ツアー催行体制が未熟であり、時間を管理する必要がある。またコースがひとつしかない。
- 伝えたい「地域らしさ」と実情がバラバラで、客層と内容が一致していない。体験の質が限られている。
- ガイドはすべて60代以上で人材不足である。また、集落内で後継者の育成が困難である。

【発表者の視点】

- 観光スタイルでは、観光・地域振興の面でも「小谷まーい」を成り立たせることで継続的な事業を展開できるという視点から、ガイド補佐の導入と、ターゲットを絞ったコース分けの2つの提案を考えた。
- 取組の効果は、地域らしさを保ちながら観光も事業として継続できること、そして住民と地域以外の人も含めて地域をプロデュースしていけること。


尚巴志ハーフマラソン ルート
東井
西井跡
イルミネーション
美ら石
神座敷
下茂の井
仲新地又前
タカンリ
ピザ喫茶ミモザの木
オープンガーデン開催場所
赤畑原遺物散布地
小谷原遺物散布地
小谷山崩原遺物散布地
小谷の土帝君
小谷集落
中の井
上の井
スンジャルビラ
ジャンクビリ道
慰霊塔
石畳道
小谷構造改善センター
凡例
石の文化財
海の文化財
水の文化財
拝の文化財
遊の文化財
住の文化財
葬の文化財
道の文化財
業の文化財
技の文化財
伝の文化財
その他
飲食・観光
イベント、伝統祭祀・芸能
コミュニティ施設
緑地・山林
農地（畑）
都市公園・緑地
埋蔵文化財
グスク
N

（２）佐敷

佐敷上グスクがあり、尚巴志との絆を誇りに思う地区

項目	概要
地域の概況	・市域の北方に位置し、兼久区、新里区、親慶原区、垣花区、つきしろ区、山里区、手登根区、冨祖崎区に隣接している。面積規模が大きい。 ・人口732人（平成30年1月末現在）、世帯数291世帯である。高齢化率は約33％。 ・佐敷上グスクがあり、周辺には尚巴志や尚巴志の父である苗代大親（尚思紹王）に関する史跡が点在する等、琉球王朝開始前夜に思いをはせることができる。
自然資源	・佐敷上グスクは標高約50メートルの丘陵にあり、視界は180度展開し、周辺を一望するばかりでなく、中城湾を足元に、遠く勝連半島や中部一帯を望むことができる。 ・トカゲハゼやシオマネキ等の希少生物が生息する佐敷干潟に面している。 ・海岸段丘の連なりが特徴的で、南側の斜面地は森林が占め、その中に御嶽が点在しており、低地には宅地・畑地が広がる。 ・「南城市景観まちづくり計画」で重点地区候補に挙げられている。
歴史文化資源	・主な文化資源には、佐敷上グスク（尚巴志とその父尚思紹の居城跡）や美里井（佐敷上グスクに隣接する井戸）、佐敷ようどれ（佐敷按司であった尚巴志の父・尚思紹とその家族が眠るとされる）がある。 ・尚巴志に連なる系譜を持つ門中があり、記念像建立の計画がある等、尚巴志のお膝元の地域ということができる。 ・市の集落域サイン整備事業で文化財等へのサインを設置予定。
産業資源	・主な産業は、サトウキビを中心とした農業である。 ・カフェ・レストランの「Cafe/zakka BE NATURAL」「Café 椰子並木」等お洒落なカフェがあり、女性を中心に人気がある。また、工芸の「照喜名三味線店」がある。 ・佐敷小学校、佐敷郵便局、市商工会、県内唯一の音楽ホールである市文化センター（シュガーホール）等、公共施設が多数立地している。 ・東陽バスの38番が運行。
地域活動の概況	・地域の主要な団体は、老人会、PTA、有志会、その他サークルである。 ・寿老人クラブやPTAの活動が活発である。字ミニデイやすらぎは月1回実施している。また、書道教室が開かれたり、民謡・囲碁サークルの活動が行われている。 ・地域の行事として、アブシバレー、ウマチー、アミシ御願、土帝君御願、御願ブトゥチ、ハチウビー、夕涼み会、敬老会、慰霊祭等を実施している。 ・市の総合体育大会では、卓球、バスケットボール、軟式野球、ソフトボールに参加。
観光動向	・尚巴志ハーフマラソンの出発地である。 ・県内唯一の音楽専用ホールであるシュガーホールには国際的に活躍する音楽家も訪れ、年間を通じてコンサートや催し物を楽しむことができる。 ・地域内では、民泊として修学旅行を受け入れている家庭もある。
PRポイント	・佐敷上グスク、美里殿、苗代大比屋の屋敷跡は佐敷城跡として国の史跡に指定されている。北山征伐を計画して琉球統一したのは苗代大比屋とする口伝が地域にある。 ・地域活性化や若者の参画を目的に、平成29年からイルミネーション事業を実施。
やりたいこと	・尚巴志をいかした地域づくりに関心がある。佐敷上グスク、苗代殿、美里殿等一帯が国指定史跡として登録され、今後整備されていけば地域の自慢になると思う。 ・拝所をいかした佐敷まーいや、佐敷・新里・小谷をつなげるガイドウォークを行いたい。また、旗頭を復活させたい。 ・今後興味のある活動は、防災、福祉、健康づくり、教育、若者の地域活動への巻き込み、自治会加入率の向上等。
課題	・マンション等の住民が自治会未加入のため、加入率向上が課題である。 ・区長への負担の集中等体制に課題があり、解決策として各種委員会の設置や課題ごとに役割分担を図る方法に関心を抱いている。

◆佐敷の将来像

尚巴志スピリットを受け継いだムラづくり

地域資源：①佐敷上グスク　②干潟(海)　③山・森林

方 向 性：尚巴志の出身地として知られ、佐敷上グスクの整備が進められているほか、最近では「尚巴志語り部プロジェクト」も行われ、集落の心の祖ともいえる尚巴志の存在がいっそう地域に根付きつつあります。また、佐敷区は斜面地の森林から干潟までを有することに加え、低地には宅地や畑地が広がり、バリエーションに富んだ自然や景観に触れることができます。このような特徴や地域内の資源を活かして、季節ごとの地域散策や体験滞在型のプログラムの展開が期待されます。そのために地域の人が歴史や自然を学び、案内し、収益と結びつく仕組みが必要とされます。

イチ押し：尚巴志ゆかりのﾄｩシビー祝いの恒例化

尚巴志の人生の節目となった21歳(佐敷按司になる)・34歳(中山王になる)・57歳(三山統一)の年齢の区民が集まり、その史実からひるがえり、現代社会で自分たちに何ができるかを話し合い、出てきたプランを小さくても実行に移す事業を始める。尚巴志マスタープランに位置づけられた事業案。

◆客観的に捉えた佐敷の魅力と課題　※観光スタイルコンペティションからの視点

【地域の魅力・現状】

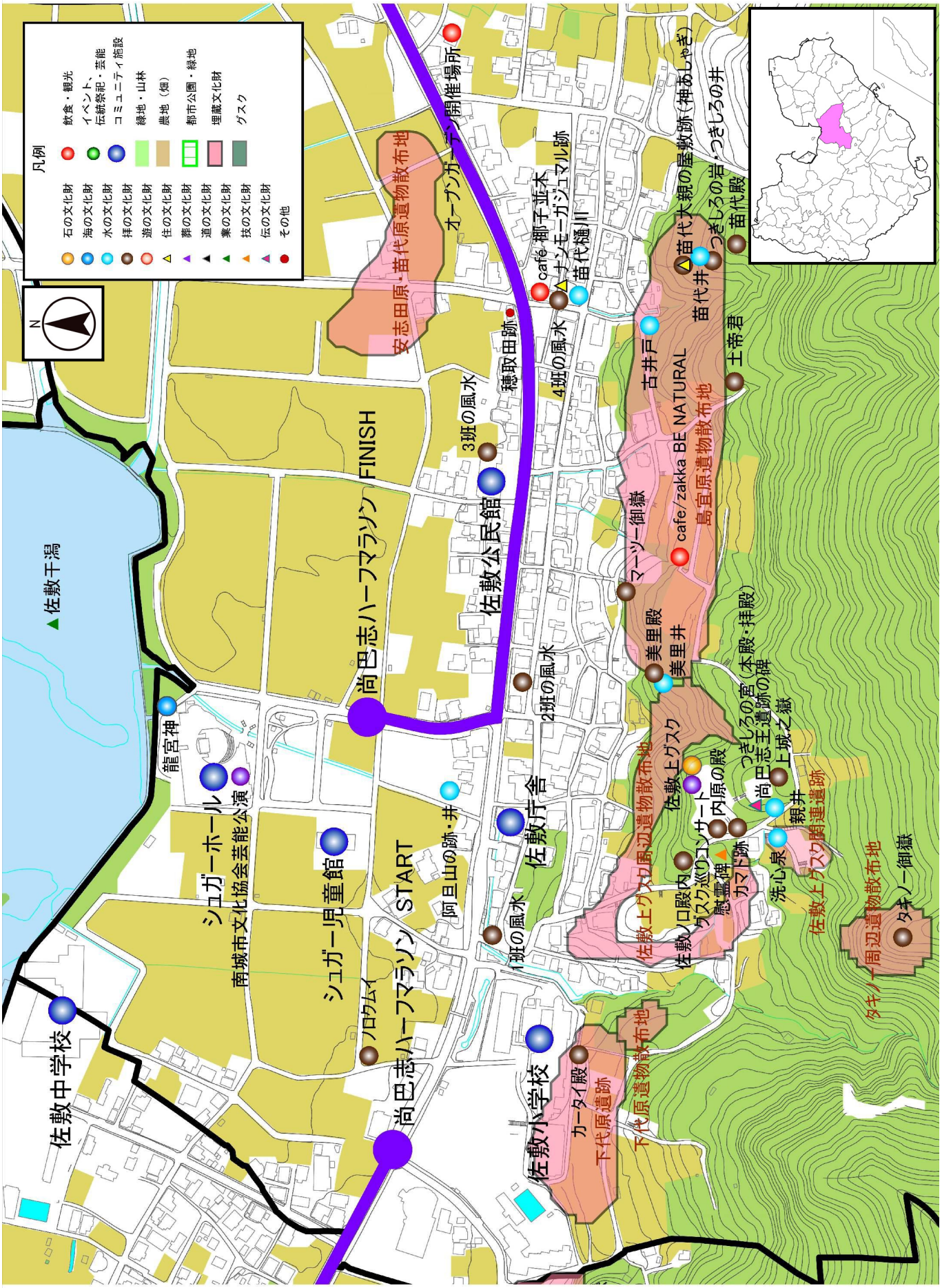
- 佐敷は尚巴志ゆかりの遺産や「土帝君」という土地の神様等、地域に根ざした資源が多く残っている。
- 山・グスク・集落・畑・海が、段々状にあるのが佐敷の特徴である。

【地域の課題】

- 土帝君の参拝者が減っている(毎年4～5人ほど)。もっと地域の人に知ってほしい。
- 地域資源への住民の関心が低い。

【発表者の視点】

- 観光スタイルの提案では、「尚巴志の暮らしたまちを歩く」をコンセプトに、尚巴志ゆかりの遺産や住民が大切にしてきた土地の神様を巡ることを提案した。取組にあたっては、景色・眺望を解説するサインや地域の子どもと一緒になったパンフレットづくり、休憩場所を設けて歩きやすいまちづくりを行う等を提案。
- 取組の効果は、「人があるくまち　地域の人が地元を愛するまち」となることで、住民が地域資源に関心を持つようになることや、人が歩くことで賑わいがうまれること。


凡例
飲食・観光
イベント、伝統祭祀・芸能
コミュニティ施設
緑地・山林
農地（畑）
都市公園・緑地
埋蔵文化財
グスク
石の文化財
海の文化財
水の文化財
拝の文化財
遊の文化財
住の文化財
葬の文化財
道の文化財
業の文化財
技の文化財
伝の文化財
その他
N
佐敷干潟
佐敷中学校
龍宮神
シュガーホール
南城市文化協会芸能公演
シュガー児童館
ノロクムイ
尚巴志ハーフマラソン START
尚巴志ハーフマラソン FINISH
阿旦山の跡・井
1班の風水
佐敷小学校
佐敷庁舎
2班の風水
佐敷公民館
3班の風水
穂取田跡
安志田原・苗代原遺物散布地
オープンガーデン開催場所
cafe・椰子並木
ナンモーガジュマル跡
4班の風水
苗代川
苗代大親の屋敷跡（神あしゃぎ）
つきしろの岩・つきしろの井
苗代殿
古井戸
マーソー御嶽
cafe/zakka BE NATURAL
島宜原遺物散布地
苗代井
土帝君
美里殿
美里井
佐敷上グスク
佐敷上グスク周辺遺物散布地
佐敷ノ口殿内
グスク巡りのコンサート
内原の殿
慰霊碑
カマド跡
つきしろの宮（本殿・拝殿）
尚巴志王遺跡の碑
上城之嶽
洗心泉
親井
カータイ殿
下代原遺跡
下代原遺物散布地
佐敷上グスク周辺遺跡
タキノー周辺遺物散布地
タキノー御嶽

（３）久手堅

琉球最高の聖地があり、ヌーバレーに燃える地区

項目	概要
地域の概況	・市域の東方に位置し、安座真区、伊原区、吉富区、知念区に隣接する。 ・人口は357人（平成30年1月末現在）、世帯数134世帯である。高齢化率は約24％。 ・『おもろさうし』では「くてけん」と記載がみられ、かつての集落の位置は現在よりも山の手の方向にあった。斎場御嶽をめぐる信仰上枢要な地区とされた。
自然資源	・斎場御嶽は県名勝に、久手堅の大アカギは市天然記念物に指定されている。 ・集落の中央部を久手堅ワンジン川が南流している。 ・東の海に突き出す知念岬からは、久高島やコマカ島が見え、太平洋を一望できる。 ・知念岬周辺は風致地区4種、斎場御嶽周辺は風致地区1種に指定されている。 ・「南城市景観まちづくり計画」で重点地区候補に挙げられている。
歴史文化資源	・主な文化資源には、世界遺産である斎場御嶽（聞得大君の即位儀礼が行われた琉球最高の聖地）があり、関連する史跡や拝所が集落内に点在している。 ・久手堅ヌーバレーは、知名・安座真とともに長い間続く伝統行事であり、近年、組踊「鏡の割」が復活上演されている。 ・市の集落域サイン整備事業で文化財等へのサインを設置予定。
産業資源	・カフェ・レストランの「ガーデンカフェ木もれ日」「Jyo Goo cafe」「海のイスキア」「カフェわがん・せーふぁキッチン」「蒼CAFE」「くだか島そば家」「イーストキッチンあがりすむ」等があり、有数の立地率である。 ・久手堅駐在所、保育園、市立図書館、市立児童館、知念小学校、知念中学校等の公共施設が立地している。 ・東陽バスの38番が運行。
地域活動の概況	・地域の主要団体は、青年会、PTA、芸能保存会である。 ・伝統行事として、ウマチー、カシチー、綱曳き、ヌーバレー、ハマウリ等を行っている。 ・年中行事として、十日集り、ソフトボール大会がある。 ・ヌーバレーと草刈り作業は、地域のコミュニケーションのきっかけとなっているため、なくしたくない行事と考えられている。
観光動向	・斎場御嶽をはじめ、「知念岬公園」「南城市体験滞在交流センターがんじゅう駅・南城」「南城市地域物産館」「南城市歴史学習体験施設緑の館・セーファ」には多くの観光客が訪れている。 ・宿泊施設の「ファミリーロッジなんじょう」「ペンションポランの広場」や、雑貨・工芸の「工房アマム」「やちむんむっしゅ」がある。
PRポイント	・ヌーバレーの取組を中心に、大いに地域が盛り上がっている。 ・2016年1月に、東京の国立劇場でヌーバレーの演目のひとつである組踊「鏡の割」の公演を行った。 ・なかよし学童クラブと連携した行事の取組みが最近の特徴である。
やりたいこと	・資源開発や区有地の有効活用を行い、斎場御嶽一帯に訪れている観光客らを呼び込んで、観光収入を獲得したい。自治会でコンビニやパーラーの運営、家賃収入の取組を創出したい。 ・公民館講座、行事活動といった実施したいと思うものは全て行っている。壮年会の設立を検討している。 ・学校が立地するため、教育面で連携をとっていきたい。 ・今後興味のある活動は、地域づくりの人材育成、観光、伝統・文化・芸能の継承・振興、独自の資金造成への取組等。
課題	・区長への負担集中に関しては、少しずつ役割の分散化を行っているところである。 ・女性会が消滅し、女性たちで情報を交流する場がない。 ・地域からリーダーが育たない。 ・区有地の活用を考えたいが、地域のコンセンサスを得る必要がある。 ・地域資源を活用した地域振興で雇用を創出すること。

◆久手堅の将来像

観光客が立ち寄ってほっこりできるムラづくり

3つの宝：①ヌーバレー　②斎場御嶽　③がんじゅう駅南城、体育センター、図書館等の公共施設

方 向 性：世界遺産の斎場御嶽を擁する地域で、集落内には斎場御嶽に関する史跡や拝所が点在しており、集落と史跡の関係性が感じられます。斎場御嶽周辺には飲食店や物販店が立地し、また知念岬周辺ではスポーツ・アクティビティ等を楽しむこともできます。このように多様なカラーがある地区ですが、やはり斎場御嶽を訪れる膨大な観光客に対し、地域及び地域資源について深く理解して考えてもらうこと、いかに楽しんでもらい、お金を落としてもらえるかを考えるべきです。そのために久手堅ができることは何かを住民総出で棚卸しし、小さなことから一つひとつ実行していきます。お新下りの道でのまーいツーリズム(※)は住民主体で取り組めることから、ルートの整備や美化活動を重視します。

イチ押し：世界でひとつの自販機開発プロジェクト

自販機の中身を久手堅の住民が考え、デザインして、地域物産館等に設置するという流れで進める。モデルは富山県の「ご当地自動販売機　富山の旨」だが、もっと簡易な手づくり感あふれる仕上がりとクスッと笑える要素をイメージし、久手堅の産品を中心に品揃えする。ガチャガチャ（カプセルトイ）でも可。

※まーいツーリズムとは…ガイドとともに地域を散策する観光事業のことを指している。例えば小谷では「小谷まーい」が行われている。

◆客観的に捉えた久手堅の魅力と課題　※観光スタイルコンペティションからの視点

【地域の魅力・現状】

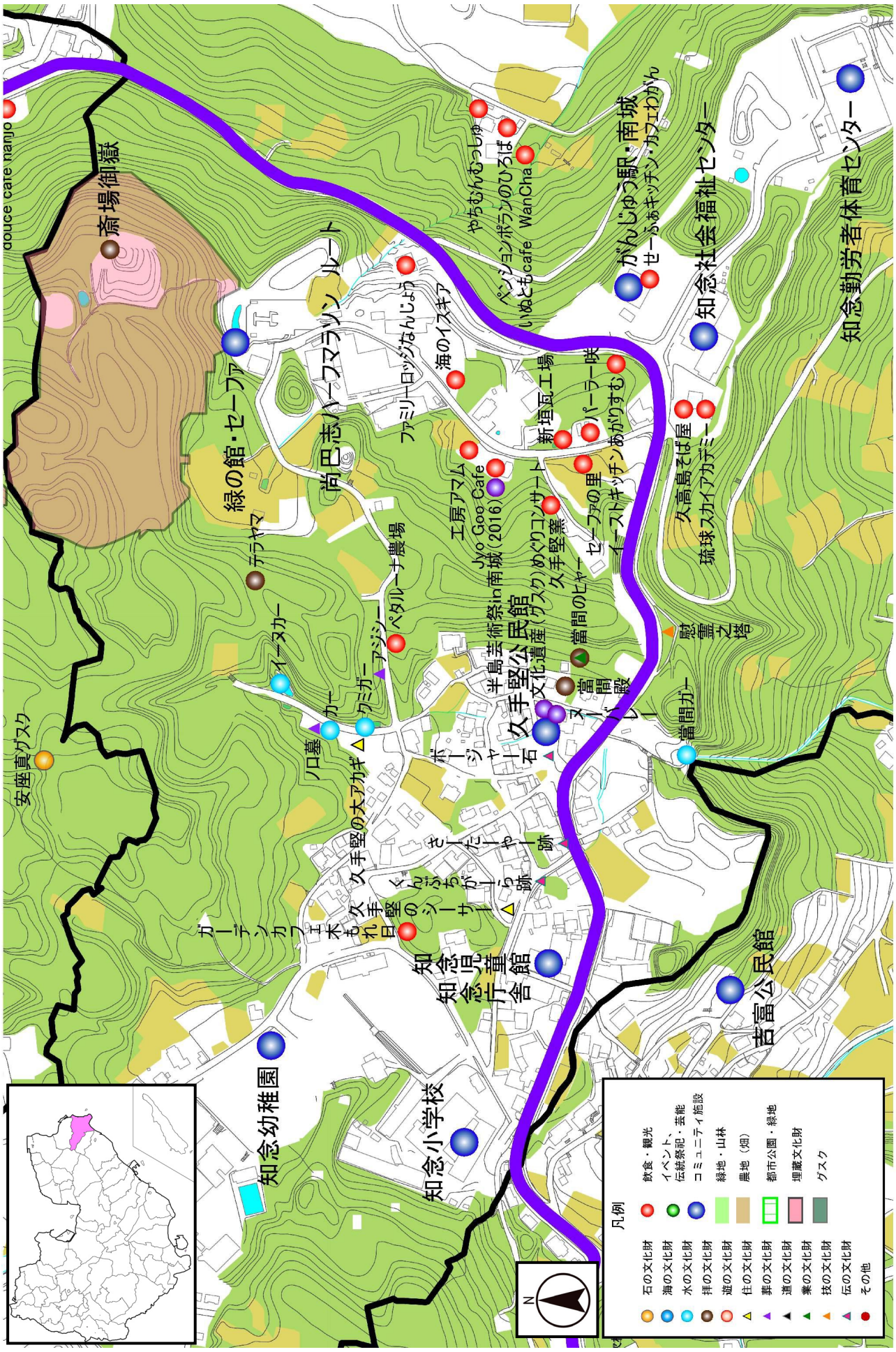
- 世界遺産に登録された斎場御嶽があり、琉球王朝の息吹を感じる歴史がある。
- 伝統文化を守り抜く想いが強い人々がいて、地域で子どもたちを育てる姿勢を感じる。
- 今話題のインスタ映えが狙える「缶風車」が地域内の個人宅にある。

【地域の課題】

- 少子高齢化が進んでいる。
- 斎場御嶽関連の観光施設が盛り上がる一方で、住民と斎場御嶽の関係性が薄くなりつつある。

【発表者の視点】

- 駐車場から御嶽入り口までの道に注目して、神聖な御嶽と地域の「想い」が伝わる観光を体現したい。
- 観光スタイルでは、参道を「琉球ロマンスロード」と位置づけて、「こま石獅子」や「伝説紹介パネル」を参道に設置すること、インスタ映えするフォトスポットとして缶風車を活用する「缶スタ映え」を提案した。取組にあたっては、地域の子どもたちと伝説を調べる、地元のアーティストたちとオブジェを作成する等、地域ぐるみで観光のプロデュースを行うことを提案。
- 取組の効果は、住民と斎場御嶽のつながりを濃密にして、地域愛が定着することで発展を担う次世代の人材がうまれ、観光地として魅力度が上がること。


douce care nanjo
斎場御嶽
安座真ゲスク
緑の館・セーファ
テラヤマ
イーヌカー
ノロ墓
カー
カミガー
アジシー
ペタルーナ農場
尚巴志ハーフマラソン ルート
ファミリーロッジなんじょう
海のイスキア
工房アマム
Joy Goo Cafe
半島芸術祭in南城(2016)
久手堅公民館
久手堅文化遺産(グスク)めぐりコンサート
新垣瓦工場
パーラー咲
イーストキッチンあかりすむ
當間のヒャー
セーファの里
當間殿
ヌーバレー
當間ガー
慰霊之塔
やちむんむっしゅ
ペンションポランのひろば
いぬともcafe WanCha
がんじゅう駅・南城
せーふぁキッチン・カフェわがん
知念社会福祉センター
久高島そば屋
琉球スカイアカデミー
知念勤労者体育センター
ガーデンカフェ木もれ日堅
久手堅のシーサー
くんぶちがーら跡
さーたーやー跡
知念児童館
知念庁舎
知念小学校
知念幼稚園
苗富公民館
N
凡例
飲食・観光
イベント、伝統祭祀・芸能
コミュニティ施設
緑地・山林
農地（畑）
都市公園・緑地
埋蔵文化財
グスク
石の文化財
海の文化財
水の文化財
拝の文化財
遊の文化財
住の文化財
葬の文化財
道の文化財
業の文化財
技の文化財
伝の文化財
その他

（４）安座真

新しいムラヤーとともに芸術文化振興に挑む地区

項目	概要
地域の概況	・市域の北東部に位置し、知名区、伊原区、久手堅区に隣接する。 ・人口は595人（平成30年1月末現在）、世帯数243世帯である。高齢化率は約27％。 ・『おもろさうし』には、「又　あさまあつめなに（安座真集め庭に）　又　けおのよかるひに（今日のよき日に）」とあり、民間信仰上重要な地域であったことがわかる。 ・1768年、村の疲弊を回復させるために集落移転した。安座真城下の傾斜地から、畑仕事に都合がよく、井泉が近く、風水が良好である海岸近くの汀敷原に移した。 ・安座真港から久高島へは、定期船が運航している。
自然資源	・斜面緑地が広がる地域で、大殿内や大門のサキシマスオウノキは、市の天然記念物に指定されている。
歴史文化資源	・伝統行事として、五月ウマチーやウユエー（大神宮の命日を祀る行事で、2年に一度行われる）、ヌーバレーがある。 ・主な文化資源に、根所火の神、安坐間之殿、神アサギ、安座真樋川、カマサ泉、古川（ウブガー）等がある。 ・昔、大神宮（うふじちゅう）という巨人がいて、120歳まで生きたが、死後３日目にみると棺は空で、木の葉が詰まっていたという。以来これを神として祀った。集落内には関連する拝所があり、多くの人が拝みに訪れている。近年まで足跡という窪みが残っていた。 ・市の集落域サイン整備事業で文化財等へのサインを設置済み。
産業資源	・地域の産業は、サトウキビを中心とした農業と海ぶどうを中心とした漁業である。 ・カフェ・レストランとして、「沖縄まんまるカフェ」「タ凪」「Douce cafe nanjo」「ビーチハウス浜の家」等がある。 ・集落東側に安座真港がある。 ・東陽バス38番が運行。
地域活動の概況	・地域の主要な団体は、女性部（婦人会）、青年会、成人会、PTAである。 ・ヌーバレーにむけた各部会の活動が行われている。 ・年中行事には区民が積極的に参加している。
観光動向	・観光施設として、「あざまサンサンビーチ」や「海の館・イノー（南城市海洋体験施設）」がある。「あざまサンサンビーチ」は、平成12年にオープンし、家族でのビーチパーティが楽しめる場所になっている。 ・レジャー施設関連の「知念海洋レジャーセンター」や、宿泊施設関連の「安座真ムーンライト・テラス」「Kafuwa Nanjyo」「民宿仲村」がある。 ・集落北側は太平洋に面しており、宿泊施設や眺望に優れたカフェ、飲食店等があり、人気スポットとなっている。 ・秋から冬にかけて、沖縄県立芸術大学とコラボレーションした「南城市こらくりアーツ展覧会」が開催されていた（平成29年度終了）。
PRポイント	・歴史と伝統ある地域であり、伝統芸能が盛んである。
やりたいこと	・市内で活躍している方々の発表会（舞踊・芝居）や、料理やパティシエによるケーキづくりの講習会等の取組を、市の協力のもと各ムラヤーで実施したい。 ・20年程前に失われてしまったアマカーの面づくりを、地域の子どもたちとともに、ワークショップのような形で実施したい。 ・今後興味のある活動は、防災、若者の地域活動への巻き込み、伝統・文化・芸能の継承・振興等。
課題	・区の活動状況に関する情報発信については、区内放送等を活用したい。 ・区長への負担集中等の課題があり、複数名で役割分担を図る等の方法に興味がある。特にムラヤーの管理において、清掃や草刈りを区長のみで行っている。 ・活動費についての課題もあるが、具体的な取組は行っていない。区費を活動費と共益費に分けることに興味がある。

◆安座真の将来像

巨人伝説と海辺の芸術のムラづくり

地域資源：①ヌーバレー　②各種文化遺産　③大神宮（うふじちゅう）

方 向 性：安座真には、120歳まで生きた「大神宮」という巨人伝説があります。また、旧暦7月16日に開催されるヌーバレーは沖縄でも例が少なく、貴重な芸能が披露されています。新しくなったムラヤーでは、平成29年度まで沖縄県立芸術大学とコラボした「南城市こらくりアーツ展覧会」が開催され、「大神宮」をテーマとした紙芝居もつくられました。このように伝統芸能と伝説、そして若いアーティストの交差する安座真では、地域の子どもから高齢者までが参加し、地域の歴史文化を活かしたアートの体験空間を創出するとともに、その成果の展示やプロセスに観光客も加われるようにすることが望まれます。そのためには、国道331号からの誘導をハード・ソフトともに高めていかなければなりません。

イチ押し：「大神宮」アートマーケットの展開

ムラヤーや冬の閑散期のあざまサンサンビーチ駐車場等を活用し、若手アーティストや市内の工房等によるアートマーケットと地域産品の直売所を開催する。斎場御嶽や久高島に訪れる観光客の誘導に成功すれば、来訪者増や若い人の集落への関わりによる集落活性化が期待できる。

◆客観的に捉えた安座真の魅力と課題　※観光スタイルコンペティションからの視点

【地域の魅力・現状】

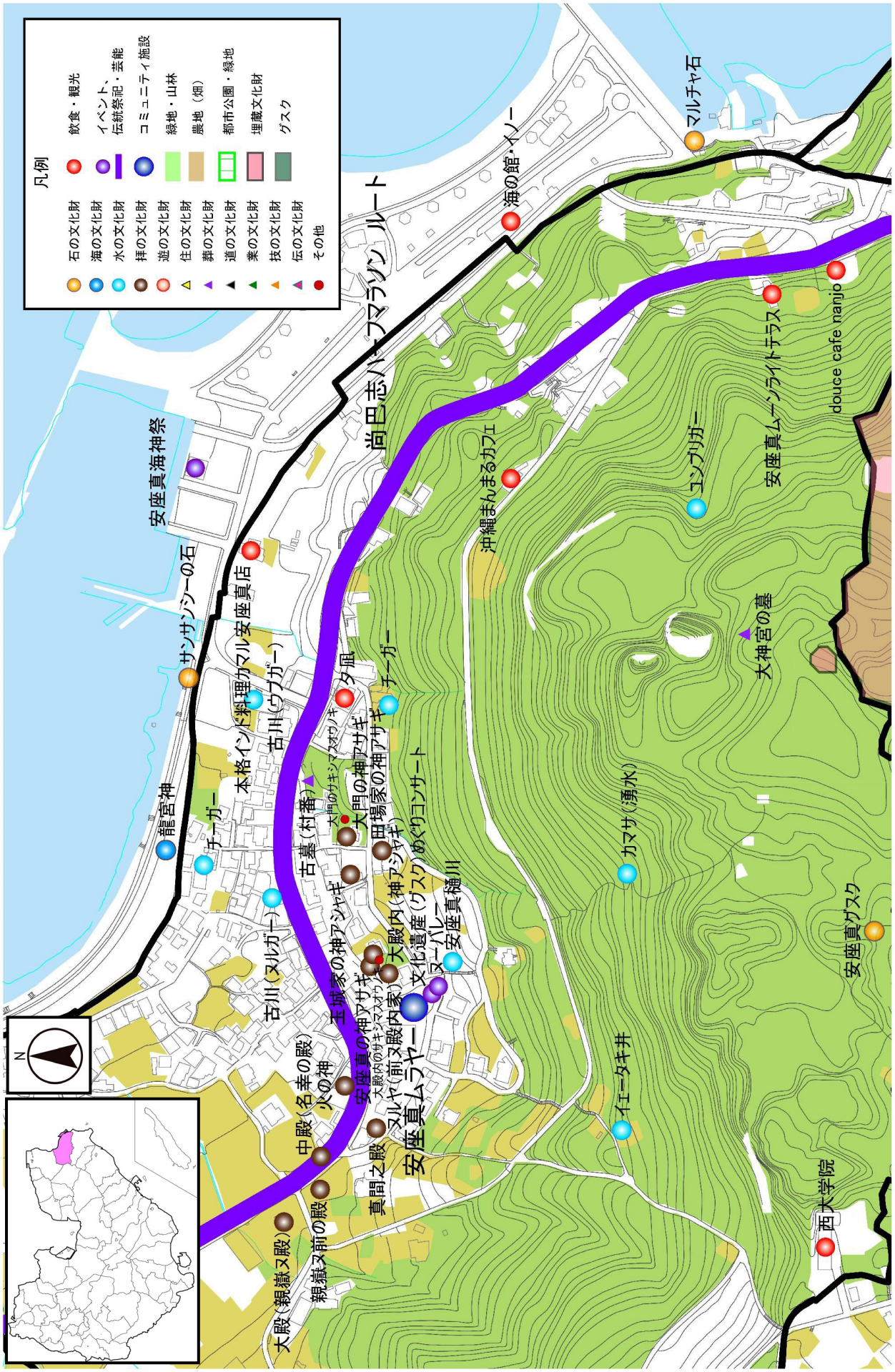
- 波の音、風の音等の自然の音が聞こえるほど、閑静で暮らしやすそうである。
- 神アサギやサンサン岩等、信仰の対象となっているものが多い。
- 海はアクティビティがあり、地域には文化財や芸大生のアート作品等がある。

【地域の課題】

- 遊ぶ場所が海ぐらいしかない。ビーチ以外の知名度が低く、集落を巡る機会がない。
- 山の上に大神宮の墓や安座真グスクがあるが、道が整備されておらず、わかりづらい。

【発表者の視点】

- 安座真の周辺には久高島や斎場御嶽がある。地域のスピリチュアルな部分はアーティストのインスピレーションにつながると考えた。
- 観光スタイルでは、アーティストに空き家やムラヤー等を宿やアトリエとして活用してもらうことを提案した。取組にあたっては、アーティストが空き家をDIYで修繕してアートの題材にすることや、ムラヤーで作品の展示会や即売会を実施すること、また、住民等にむけたワークショップや個展を開催することで、作品を残し、地域へ還元してもらうことを提案。
- 取組の効果は、アーティストに活動拠点として利用してもらうことで、アートに興味を持つ人を地域内に増やし、アーティストや観光客の増加につなげること。また、アート作品が増えることで、さらにアートに興味を持つ人が増えるというサイクルをうみだすこと。


凡例
飲食・観光
イベント、伝統祭祀・芸能
コミュニティ施設
緑地・山林
農地（畑）
都市公園・緑地
埋蔵文化財
グスク
石の文化財
海の文化財
水の文化財
拝の文化財
遊の文化財
住の文化財
葬の文化財
道の文化財
業の文化財
技の文化財
伝の文化財
その他
N
尚巴志ハーフマラソンルート
安座真海神祭
サンサンシーの石
龍宮神
チーガー
本格インド料理カマル安座真店
古川（ウブガー）
古川（ヌルガー）
古墓（村番）
大門のサキシマスオウノキ
大門の神アサギ
田場家の神アサギ
大殿内のサキシマスオウノキ
大殿内（神アシャギ）
文化遺産（グスク）めぐりコンサート
安座真ムラヤー
ヌーバレー
安座真樋川
主城家の神アサギ
大殿内のサキシマスオウノキ
ヌルヤ（前ヌ殿内家）
安座真の神アサギ
火の神
中殿（名幸の殿）
真間之殿
親嶽ヌ前の殿
大殿（親嶽ヌ殿）
イェータキ井
カマサ（湧水）
西大学院
安座真グスク
沖縄まんまるカフェ
海の館・イノー
マルチャ石
ユンブリガー
安座真ムーンライトテラス
douce cafe nanjo
大神宮の墓

（５）知名

住民総出で多彩な芸能を披露する地区

項目	概要
地域の概況	・市域の北東部に位置し、海野区、久原区、伊原区、安座真区に隣接している。 ・人口は660人（平成30年1月末現在）、世帯数259世帯である。高齢化率は約34％。 ・集落の形成時期は近世琉球であり、廃藩置県以後に首里や那覇から士族が移住して6ヵ所の屋取集落ができた。その後1947年に久原と海野が独立した。
自然資源	・集落北東端に知名崎の北側には倉石と呼ばれる二つの岩があり、岩の基部は波の浸食でくびれ、上部はピラミッド型で遠くから眺めると高倉の屋根を思わせる。 ・集落の南部を知名大川が流れる。
歴史文化資源	・伝統芸能として、旧暦7月16日に催されるヌーバレーは、無縁仏の供養と五穀豊穣を祈願し、区民総出による伝統芸能が披露される。市外に住む多くの出身者と区民が一同に会する行事である。市内最大規模の伝統的な祭りで、道ジュネーから始まり、夕方からはアシビナーの特設ステージで芸能が催される。蝶にふんした青年が踊る「胡蝶の舞」は知名独特の踊りである。 ・主な文化資源には、テダ御川（国王や聞得大君が久高島参拝のときに船から安全祈願したといわれる泉）、知名御川（東御廻りの拝所。集落の祭祀の場で生活用水）、知名グスク（『おもろさうし』にも「ちゑねんもりぐすく」と謡われた古いグスク）がある。 ・集落後背地の須久名山にある須久名嶽は、『おもろさうし』に登場する拝所である。 ・市の集落域サイン整備事業で文化財等へのサインを設置予定。
産業資源	・主な産業は、サトウキビやオクラを中心とした農業と、クルマエビを中心とした養殖業。 ・民間の事業者として、車えび養殖場の「板馬養殖センター」や、「お食事処＆喫茶 パープル」（1階カラオケハウス）等がある。 ・東陽バスの38番が運行。
地域活動の概況	・地域の主要な団体は、老人会、女性部（婦人会）、青年会、PTA、ヌーバレー保存会である。他にも、日舞愛好会や琉舞愛好会が活動している。 ・公民館は行事の練習時や各地域団体は自由に使用できる。 ・小学生はエイサーで、中学生から全員ヌーバレーに参加させている。ヌーバレーは転出した人も集まって、協力して開催している。
観光動向	・ヌーバレーには、県内だけでなくネットの情報をみた観光客も訪れている。 ・レジャー施設として「守礼カントリークラブ」（ゴルフ場）がある。
PRポイント	・250年の歴史がある伝統芸能のヌーバレー。知名区独特の松竹梅、百姓の按司、胡蝶の舞等をはじめとした多彩な演目が披露され、区外からも多くの観客が訪れる。 ・「テダ御川」からの眺めは沖縄のウユニ塩湖ともいわれる。また、知名の海とそこに生息する貝やカニ等の生物も大切な資源である。 ・地域の人々は他者との交流に長けた人が多いことも知名の魅力のひとつである。
やりたいこと	・ヌーバレーを盛り上げ、伝統芸能である胡蝶の舞や組踊を継承していきたい。 ・書記や会計を専任制にしたいと考えている。 ・集落に留まる若者や転出後に再度集落へ戻ってくる人が増えてほしい。また、知名の土地に理解のある人に移住してもらいたい。 ・今後興味のある活動は、若者の地域活動への巻き込み、自治会加入率の向上、伝統・文化・芸能の継承・振興等である。 ・知名に住んでいる人でも、知名グスクやヌン殿内やイーヌカー等の地域の歴史を知らない人が増えている。年配者の知識を若い人へ継承したり、地元の歴史について知る機会として「知名塾」を実施したい。
課題	・都市部への通勤が不便であることから、就労年齢層が都市近郊へ流出しており、少子高齢化が著しく進んでいる。 ・宅地に関する課題はあるが、有効な取組を行えていない。空き家の有効活用や現住宅の3世代化に興味がある。 ・合併により伝統芸能への補助額が下がり、予算が厳しい状況にある。

項目	概要
	・区長への仕事の負担が大きい。また、副区長にも手当てをつけてほしい。 ・区内の一部の文化遺産については、掃除等を個人的に行ってくれている人がいる。その他の文化遺産は字で定期的に清掃しているが、なかなか追いついていない。

◆知名の将来像

華やかなり! ヌーバレーのムラづくり

地域資源：①ヌーバレー　②テダ御川　③人間国宝・照喜名朝一

方 向 性：旧暦7月16日のヌーバレーでは多彩な芸能が披露され、集落はひときわ華やぎます。約1ヵ月間ムラヤーで毎夜行われるヌーバレーの練習を観光客に開放し、全国から観光客を受け入れることを自治会は考えています。胡蝶の舞、松竹梅、組踊等の伝統芸能が高い関心を集めることで、若い世代の継承の自覚へとつながる展開をめざしていきます。同時に、人間国宝・照喜名朝一氏の出身でもある地域の伝統芸能の価値を、新しいモードで全国に発信していく必要もあります。また、知名崎一帯には東御廻りの拝所である「テダ御川」や「知名グスク」があり、海の景色も美しいことから、リラックスと学びの空間として体験プログラムをつくることが有望です。

イチ押し：ヌーバレーを深く知るワークショップ

ヌーバレーの演目の由来、踊りの技法、衣装等をテーマにしたワークショップを芸大と連携して開催する。これにより、地域住民はより深く芸能の背景を知り、外部からの参加者は隠れた伝統芸能の価値に気づき、それを情報発信する可能性がある。照喜名朝一氏も講師の一人と想定。

◆客観的に捉えた知名の魅力と課題　※観光スタイルコンペティションからの視点

【地域の魅力・現状】

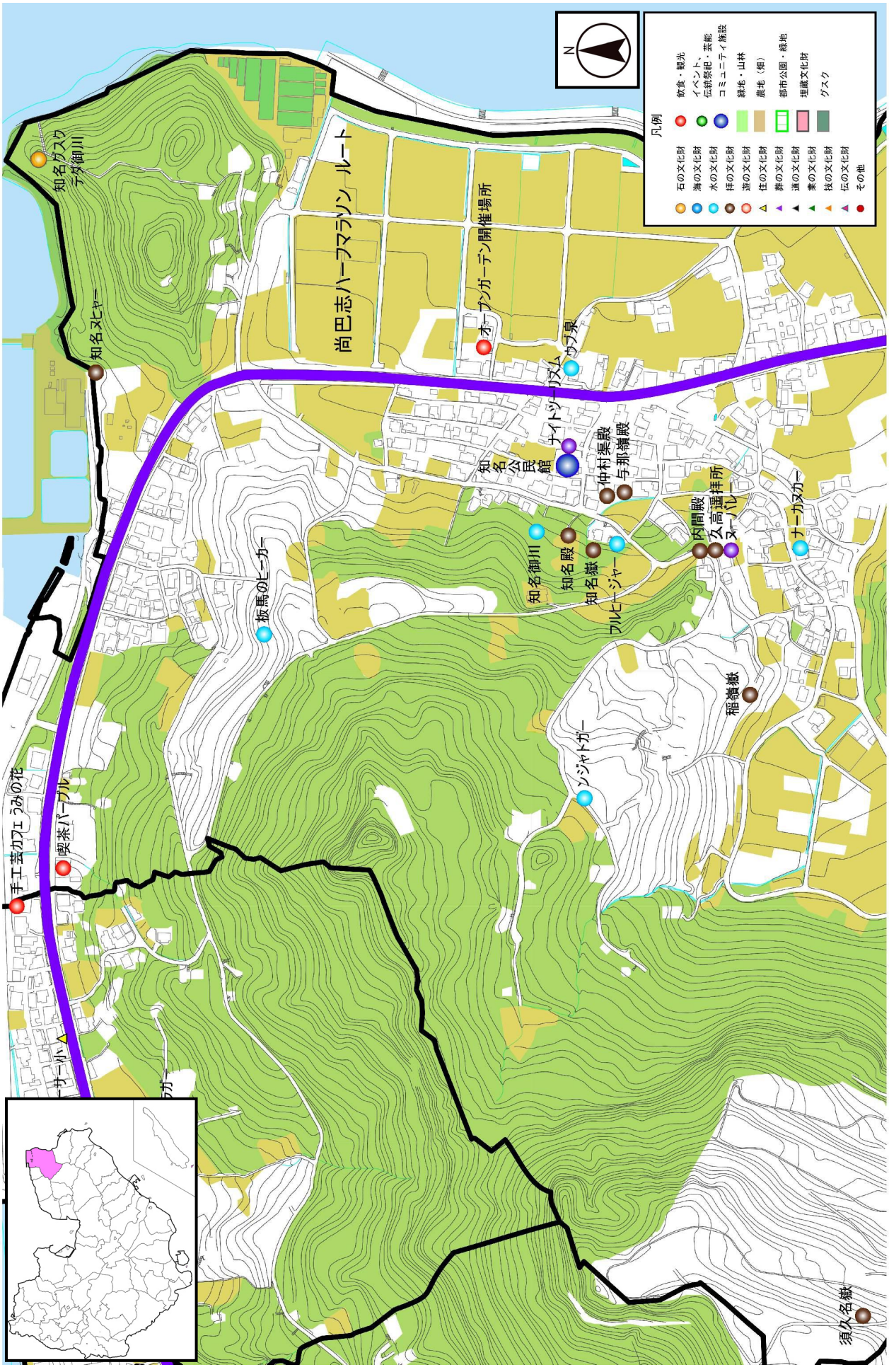
- 旧暦の7月15日に行われるヌーバレーという伝統行事がある。
- テダ御川の景色が美しい。
- 山の方にはゴルフ場が位置し、海野漁港とセリ市場がある海野区に隣接している。

【地域の課題】

- 高齢化率が高い。外国や若者等の観光客向けのアトラクションがまったくない。地域内にレストランがひとつしかなく、事前予約が必要である。
- 知名グスクへの道路は植物が茂りすぎており、メンテナンスされていない。
- 野外ステージが、ヌーバレーのみに使用されている。

【発表者の視点】

- ヌーバレーに観光客が多く訪れるので、この時期をねらって知名の魅力を伝えるとよいのではないか。
- グリーンツーリズムとして、地域にある文化や自然、歴史を活かしたアクティビティの体験を行う。
- 観光スタイルでは、住民が余暇を利用して、野外ステージやムラヤー等で伝統料理のレシピを伝授する調理クラスの実施や、カマを使って草刈りにもストレス発散にもなるジャングル体験等を提案。
- 外国人や都会に住む人をターゲットにして異文化間のコミュニケーションがうまれることや、初期投資が少なくて済むといったメリットを取組の効果としてあげている。


凡例
石の文化財
海の文化財
水の文化財
拝の文化財
遊の文化財
住の文化財
葬の文化財
道の文化財
業の文化財
技の文化財
伝の文化財
その他
飲食・観光
イベント、伝統祭祀・芸能
コミュニティ施設
緑地・山林
農地（畑）
都市公園・緑地
埋蔵文化財
グスク
N
知名グスク
テダ御川
知名ヌヒャー
尚巴志ハーフマラソン ルート
オープンガーデン開催場所
ウブ泉
ナイトツーリズム
知名公民館
仲村渠殿
与那嶺殿
内間殿
久高遥拝所
ヌーバレー
ナーカヌカー
知名御川
知名殿
知名嶽
フルヒージャー
板馬のヒーカー
稲嶺嶽
ンジャトガー
手工芸カフェ うみの花
喫茶パープル
須久名嶽

（６）久高

神の島として多くの伝統行事が残る地区

項目	概要
地域の概況	・知念半島の東方約5Kmに位置し、周囲7.75kmの島である。安座真港から久高島の徳仁港まで高速船で約15分、フェリーでは約25分で到着する。 ・人口は247人（平成30年1月末現在）、世帯数147世帯である。高齢化率は約34％。 ・集落の形成時期は古琉球であり、『おもろさうし』に「くたか」「こたか」と記載がみられ、『琉球国由来記』に「外間村」「久高村」の両村の名が示されている。このように元々は二つの集落からなっていたが、1903年に外間・久高両村が合併し一村となる。
自然資源	・久高島カベールの海岸植物群落と久高島伊敷浜の海岸植物群落は、県の天然記念物に指定されている。 ・北部のカベール森はクバ（ビロウ）の自然林からなり、東海岸はモンパノキ・クサトベラ・ミズガンピ等の植物群が続く。 ・「南城市景観まちづくり計画」で重点地区候補に挙げられている。
歴史文化資源	・イザイホーをはじめとして、年間30を超える集落単位の祭祀・行事が存在する。 ・イザイホーは久高島で最も大きな神事で、12年に一度、30歳以上の島の女性が島の祭祀集団に加入するための儀式であるが、1978年を最後に行われていない。 ・主な文化資源には、ハビャーン（カベールともいう聖地）、シマーシ（貝塚跡）、クボー御嶽（琉球七御嶽の一つ）、ヤグルガー、ハタス、イシキ浜、外間御殿（島の重要な行事が執り行われる）、大里家（琉球国王がこの家の美女と恋に落ちた）、久高御殿庭（イザイホー等が行われる祭祀場）、イラブーガマ（イラブーが産卵に訪れる岩場）、久高島の漁撈習俗（選択無形民俗文化財）がある。
産業資源	・集落南側にフェリーの発着場所である徳仁港があり、西側には久高漁港がある。 ・特産物にイラブー（エラブウミヘビ）があり、昭和10年には燻製にして1,350斤を産した。 ・民間事業者である久高島船待合所（物産販売、貸自転車）、「食事処 けい」「食事処 とくじん」「さばに」（軽食）等がある。
地域活動の概況	・地域の主要な団体は老人会である。近年、青年団が結成され、夏祭り等の活動を実施している。区民の地域行事への参加はよく、現在残っている全ての行事をなくしたくないと考えている。 ・2013年10月に、「久高人芸能祭～黄金の瓜ざねの心～」がシュガーホールにて開催された。島民や郷友関係者等約130人が郷土芸能等13演目を披露した。 ・がんじゅう駅において、2014年に「久高島のイザイホー展」、2016年に「久高島のイラブー展」を開催した。
観光動向	・斎場御嶽の世界遺産化の頃から島への観光客が急増している。 ・メーギ浜やウパーマ等のビーチの他に、ロマンスロード、キャンプ場がある。 ・宿泊施設の民間事業者として、「久高島宿泊交流館」（NPO法人久高島振興会）、「民宿 西銘」「民宿 にらい荘」「小やどSAWA」「ちばい小」等がある。
PRポイント	・琉球開闢の祖アマミキヨが天から降りてきて、最初につくったとされている島であり、民俗的にも貴重な島であるとして注目されている。 ・島内はレンタサイクルで巡ることができ、自然・歴史・文化を楽しむとともに、イラブー（ウミヘビ）や魚介類、島野菜等を味わえる飲食店が港周辺に点在している。
やりたいこと	・平成28年度に、区として「久高島総合計画」を策定し、現在「実施計画」を策定中である。今後は、総合計画で位置づけた内容の実現にむけて、各種取組を推進していく。
課題	・宅地について課題はあるが、有効な取組は行えていない。アパートの建設や空き家・空き屋敷の有効活用、新たな宅地造成に興味がある。 ・自治会の活動費について、収益事業の強化や特産品の開発に興味がある。 ・区長への負担集中等の解決策としての各種委員会の設置、情報発信の課題に対する解決策としての区内放送の活用に興味がある。

◆久高の将来像

「神の島・久高島」団結の島建てに向け前進！

3つの宝：①市内唯一の有人離島（架橋なし）　②クボー御嶽　　③琉球王国の参詣の地

方向性：久高島は創世神のアマミキヨが降り立った地であり、穀物が流れ着いた神話もあります。琉球国王や聞得大君が自ら儀式を行う等、首里王府の宗教的な後ろ盾でした。この歴史性をはじめ、イザイホーやイラブー等の生活文化、天然記念物である植物群落、海岸環境、地割制を含む集落景観等の多様な資源は、これまでも島おこしに活用されてきましたが、今もうひとがんばりする段階にきています。久高島を久高島たらしめている歴史文化を保全・継承することを基礎に据えながら、久高島にふさわしい観光を模索し、観光ルールの制定や受入体制の整備等の検討を進めていきます。観光面では、増大する観光客の島内消費を促す取組を進めます。

イチ押し：日曜みなと市

毎週日曜、安座真からの始発が着く時間帯に、徳仁港内で日曜市を開催する。出品するのは地元の農家や家庭でつくられた野菜、朝に水揚げされた魚介類が中心で、簡単な朝食メニューも提供する。久高島の地割制を区民農園化し、その農産物も並べることができると、農園のオーナーのやる気にもつながる。

◆客観的に捉えた久高の魅力と課題　※観光スタイルコンペティションからの視点

【地域の魅力・現状】

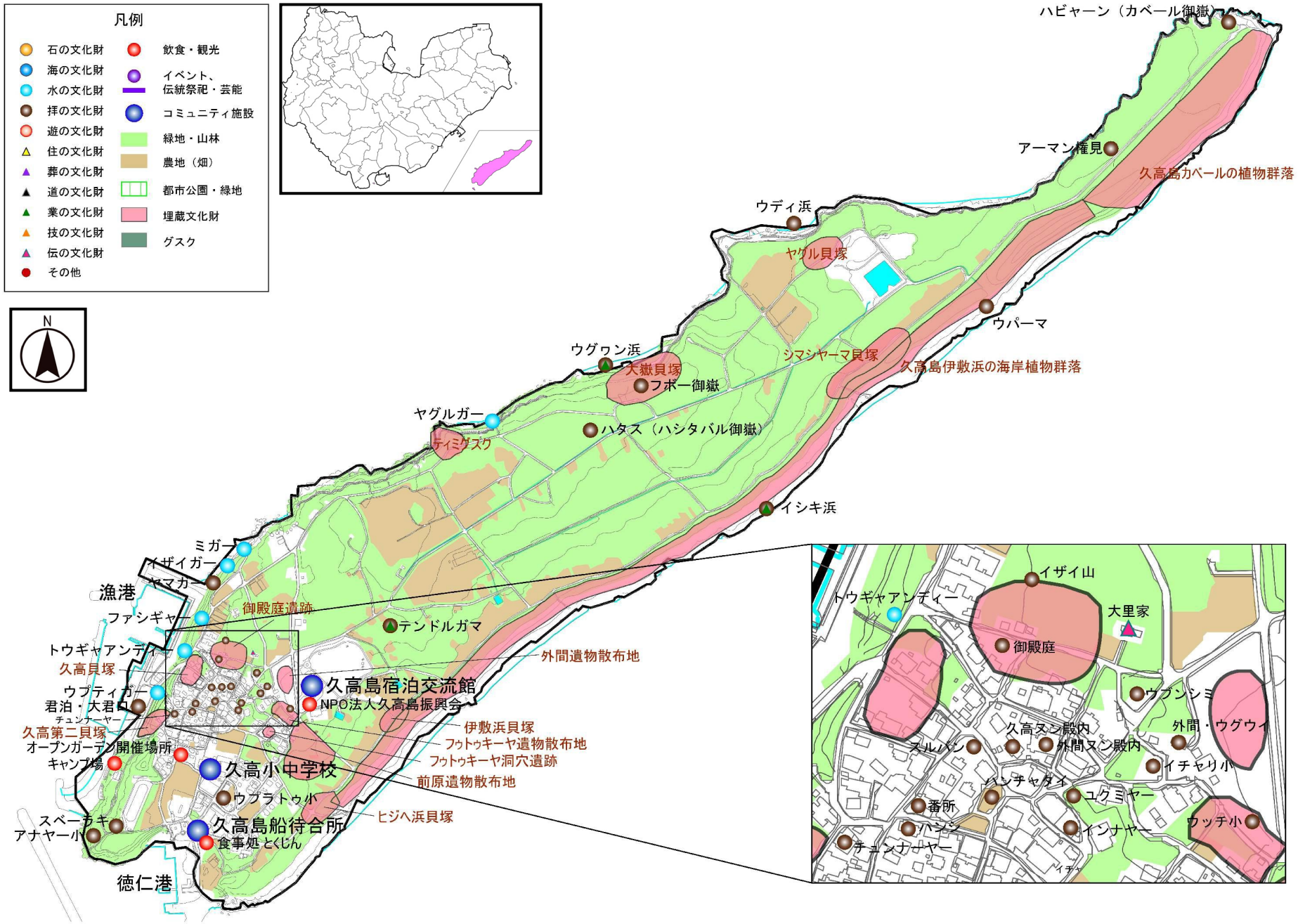
- 琉球開闢の地といわれ、住民は歴史や文化を大切にしている。
- 警察や信号がなく、平和で人のつながりがある。
- 自然が残っていて景観がよい。

【地域の課題】

- 「神の島」のイメージが先行して、観光客と住民の考え方にギャップがある。
- 農業が衰退し、かつ漁業イメージが弱い等、資源の活用が不十分である。
- 離島の不便さ、過疎化、高齢化、雇用が少ない。
- 展示室（宿泊交流会館内）の展示が味気なく、久高島の情報が足りない。

【発表者の視点】

- 観光スタイルとして、地域住民が納得する聖地巡礼ルートの確立と、久高島広報課の設置を提案。久高島広報課を通じて久高住民が自ら情報発信することで、島のイメージを集約・発信することを提案。
- 取組の効果は、久高島に根ざした巡礼を観光客に求めることで、観光客の質が向上すること、ガイドの来益・雇用を増加させ観光に対する住民のイメージをアップさせること。


凡例
石の文化財
海の文化財
水の文化財
拝の文化財
遊の文化財
住の文化財
葬の文化財
道の文化財
業の文化財
技の文化財
伝の文化財
その他
飲食・観光
イベント、伝統祭祀・芸能
コミュニティ施設
緑地・山林
農地（畑）
都市公園・緑地
埋蔵文化財
グスク
N
ハビャーン（カベール御嶽）
アーマン権見
久高島カベールの植物群落
ウディ浜
ヤグル貝塚
ウパーマ
ウグワン浜
大嶽貝塚
フボー御嶽
シマシヤーマ貝塚
久高島伊敷浜の海岸植物群落
ヤグルガー
ティミグスク
ハタス（ハシタバル御嶽）
イシキ浜
ミガー
イザイガー
ヤマカー
漁港
ファシギャー
御殿庭遺跡
テンドルガマ
トウギャアンディー
外間遺物散布地
久高貝塚
ウプティガー
君泊・大君
チュンナーヤー
久高島宿泊交流館
NPO法人久高島振興会
久高第二貝塚
オープンガーデン開催場所
キャンプ場
伊敷浜貝塚
フゥトゥキーヤ遺物散布地
フゥトゥキーヤ洞穴遺跡
久高小中学校
前原遺物散布地
ウプラトゥ小
スベーラキ
アナヤー小
ヒジヘ浜貝塚
久高島船待合所
食事処 とくじん
徳仁港
イザイ山
トウギャアンディー
大里家
御殿庭
ウプンシミ
久高ヌン殿内
外間ヌン殿内
外間・ウグウイ
スルバン
イチヤリ小
ハンチャダイ
ユクミヤー
番所
ハンシ
イシナヤー
チュンナーヤー
ワッチ小
イチヤ

（7）垣花

垣花樋川（ワナガー）をはじめ水資源が豊富な地区

項目	概要
地域の概況	・市域の南東部に位置し、仲村渠区、親慶原区、佐敷区、つきしろ区、志喜屋区が隣接している。地元では「カチヌハナ」と呼んでいた。 ・人口は360人（平成30年1月末現在）、世帯数145世帯である。高齢化率は約32％。 ・かつては垣花グスクをはさんで東側に和名村、西側に垣花村が立地する大きな集落であり、のちに合併した。また、19世紀初頭から垣花村親慶原の原野に氏族が移住して屋取を形成した。大正9年に親慶原屋取は行政的に分離する。
自然資源	・集落の南側にある垣花樋川（ワナガー、シチャヌカーとも呼ばれる）は、環境省の全国名水百選に選ばれた湧水である。ブクブク茶を泡立てるのに最適といわれる。 ・集落は玉城石灰岩台地の東端に位置し、東端に急崖が続き、一部海岸低地を含む。
歴史文化資源	・主な文化資源には、垣花樋川と県指定史跡の垣花城跡（14世紀頃にミントン按司の次男によって造られたという伝承あり。地元では垣花グスクと呼ぶ）がある。 ・グスク下の東北の平地から須恵器、グスク系土器、中国製青磁、陶器類が出土。
産業資源	・主な産業は、クレソン、オクラ、ニンジンを中心とした農業である。 ・垣花樋川から海岸沿いにかけて稲作が行われていた棚田が現在でも地形として残る。 ・カフェ・レストランとして「カフェ　風樹」がある。 ・イチゴとハーブの栽培・集出荷施設である「美らイチゴ　南城農園」（農水省補助事業の活用）が2017年に稼動を始めた。 ・近年では「多面的機能支払交付金」（田園整備課）による伝統行事の継承、農村環境保全に関する計画の策定、地域住民との交流会等の事業が行われている。 ・沖縄バスの39番が運行。
地域活動の概況	・地域の主要な団体は、老人会、女性部（婦人会）、こども会、PTAである。老人会はゲートボールで交流を深めている。婦人会は行事の余興や樋川の清掃を行い、子ども会は敬老会の際に余興を披露している。 ・公民館は、評議委員会の開催、婦人体操会の活動、老人会及び子ども会の集会、ヨガ教室の活動に使用されている。 ・綱曳きと樋川、拝所等の清掃はなくしたくない地域行事だと考えられている。
観光動向	・雑貨・工芸として「陶房　樋の龍」があり、宿泊施設として「朝日の宿　涼風」がある。 ・垣花樋川への来訪者は、とりわけ暑さが厳しい夏季に増える。
PRポイント	・樋川から出る水は現在でも各家庭に配水し、簡易水道として利用している。 ・西側に田園風景が広がり、東側に樋川の水を利用したクレソン等の栽培が盛ん。 ・垣花区は70歳以上の方が90人以上もおり、長寿の集落である。
やりたいこと	・観光客や樋川を訪れる人が地域にお金を落とす仕組みをつくりたい。 ・現実的に取り組める活動として、綱曳きの綱づくりの伝統をいかした「縄づくり体験」がある。すでに実施したことがあり、地域の子どもたちにも好評。地域の古老が技術を教えて人材育成し、その人たちが素材をアレンジしながら実践することを考えている。 ・垣花樋川のことをもっと深掘りしたい。水源や水脈、土壌等を調査し、汚染されないための保全対策を考えてもらいたい。景観に配慮しながら樋川の利便性が高まる基盤整備（ベンチの設置等）も検討したい。 ・最古の区画整理の跡（碁盤型の区画整理）をいかしたい。また、癒しのスポットとして、田園風景の復活にむけた取組を行いたい。 ・最近開催できていない盆踊りや運動会を復活させたい。ムラヤーを活用して、自由闊達に話し合えるコミュニケーションの場づくりをしたい。 ・若年層の共働き世帯のゆとりある生活を支えるため、学童の集団登校の試みを考えている。現状になじまない区規約の改定を図り、区外転出の若年層の定住化を図りたい。空き家等の有効活用に興味がある。 ・市やその他の助成金を活用した事業の展開を試みたい。 ・今後興味のある活動は、健康づくり、若者の地域活動への巻き込み、伝統・文化・芸能の振興、助成金を活用した事業の実施等。
課題	・若者の数が減少している。区民同士の交流も減ってきている。自治会活動に積極的に参加できる人であれば、外部からも移り住んでほしいと考えている。 ・区の人材に関する課題の解決策として、区長の専任制や各種委員会の設置・課題ご

項目	概要
	との役割分担を図ることに関心を抱いている。 ・区民の世代間の価値観の相異が課題である。

◆垣花の将来像

水とともに長生きするムラづくり

地域資源：①垣花樋川(ワナガー)　②長寿　③若い人

方 向 性：集落の南側には環境省の名水百選に選ばれた垣花樋川があり、県内外から多くの人が癒しを求めて訪れています。垣花の水は水質がとてもよく、農作物の栽培に適しており、遊休地もあることから、水田の復活や市民農園としての活用が考えられます。宿泊施設や民泊の取組もあることから、滞在型観光へシフトし、碁盤型の集落をまち歩きしたり縄づくり体験やブクブク茶体験をしたり楽しんでもらいましょう。若手が少なくなりつつありますが、元気な若手を活用して地域振興が図れる体制へと脱皮することが鍵です。子育て世代を巻き込み、地域の子どもと来訪する子どもが交流できるような居場所をつくることが、活気を生み出すきっかけになります。

イチ押し：綱曳きの伝統をいかした縄づくり体験

綱曳きの綱づくりを簡単に体験できる「縄づくり」を地域として取り組んでいく。まず地域の高齢者が観光に関わる住民等に教え、インストラクターの裾野を広げる。また、こうした若い教え手は、ミサンガ（手づくりのブレスレット）やレイ（ハワイ伝統の花輪）のように縄づくりからアレンジした体験プログラムを派生させてもよい。地域に住民と来訪者が交流できるスポットをいくつかつくり、そこで体験できるようにする。この体験プログラムから得られる収益が地域に循環するようにしたい。

◆客観的に捉えた垣花の魅力と課題　※観光スタイルコンペティションからの視点

【地域の魅力・現状】

- 垣花樋川は地域の生活用水として使用されている。
- あまり使用されていない公園やメインストリートがある。
- 綱をつくる技術を持つ人が多い。

【地域の課題】

- 地域が閉鎖的である。
- 行事の減少により交流も減っている。また、最近では綱曳きの綱をつくっていない。
- 観光客の増加により、トラブルが増えている。

【発表者の視点】

- 住民の「子どもたちに垣花のよさを伝えたい、子どもたちが元気に走り回るまちをつくりたい」という意見から、観光スタイルでは「おじい、おばあ、子どもたちが笑顔になるまちづくり」を提案。
- 居場所づくりとして「ジャングリラ垣花」というジャングルジムを、公園や広場、空き地等に配置することを提案。そこを遊びや交流の場、綱づくりや青空レストラン等の体験型プログラムの場にする。
- 取組の効果は、体験プログラムとして綱づくり等を子どもに伝えることで、伝統が守られる。また、非日常を体験しながら地域を知る機会が増え、将来的に「みんなの笑顔があふれるまち」となっていくこと。

凡例
石の文化財
海の文化財
水の文化財
拝の文化財
遊の文化財
住の文化財
葬の文化財
道の文化財
業の文化財
技の文化財
伝の文化財
その他
飲食・観光
イベント、伝統祭祀・芸能
コミュニティ施設
緑地・山林
農地（畑）
都市公園・緑地
埋蔵文化財
グスク
N
朝陽の宿 涼風
垣花農村公園
（トムンジョー公園）
ゲストハウスワンワンワン
カラカウア ファインアートギャラリー
馬場
綱曳き
垣花集落内遺物散布地
エイタイジョウ井泉
イリジョウグラ井泉
垣花公民館
垣花遺跡
クワーガガー（クヮーサー）
ウヮーガー（タミガー）
垣花樋川
（ワナガー・シチャスカー）
ウマアミシガー
垣花製鉄遺跡
垣花城跡（垣花グスク）
カフェ 風樹
西喜名

（８）仲村渠

稲作の起源に関連する伝統行事が残る地区

項目	概要
地域の概況	・市域の南東部に位置し、百名区、玉城区、喜良原区、親慶原区、垣花区に隣接している。東側は太平洋を臨み、本集落と「下田」と呼ばれるヤードゥイ（屋取）集落あわせて、東西に細長い形となっている。 ・人口は221人（平成30年1月現在）で、世帯数96世帯である。高齢化率は約35％。 ・古くは百名村に含まれ、「上百名」と呼ばれた。『琉球国由来記』には「中村渠」と記載されており、百名村から分村した。区名の村渠（ムラカリ）は、村分かれの意味。 ・王府の指示にしたがって中城王子の「中」の字を避け、「仲」に改めたと言われる。
自然資源	・集落は琉球石灰岩台地から太平洋に臨む海岸低地へと続いている。 ・「南城市景観まちづくり計画」で重点地区候補に挙げられている。
歴史文化資源	・伝統行事は、ハチウビー・初揃い、親田（無形民俗文化財）、浜御願（ハマウリー）、アミシヌ御願（旧6月25日）、綱曳き、チリシタンチョー（出生祝・敬老会）等がある。 ・親田は、旧正月後の最初の午の日に、沖縄の稲作発祥の地である受水走水において豊作の祈願が行われる。中国から稲穂をくわえてきた鶴が落ちて稲が芽吹いたと伝えられる米地、受水、走水を順に拝み、親田に区民自ら稲を植える。 ・アミシヌ御願は、旧暦6月25日に行われる祭祀で、神々に稲の収穫を報告・感謝し、五穀豊穣・子孫繁栄を祈る。かつては同日に綱曳きが行われていたが、現在ではアミシヌ御願が過ぎた最初の土曜日に行われている。 ・主な文化資源には、新喜名の西の井、ミントングスク、ミントンのカー、仲村渠樋川等がある。 ・仲村渠樋川は集落の共同施設であり、粟石で造られたタンクに赤瓦屋根のある五右衛門風呂、琉球石灰岩の石畳で構成される。 ・ミントングスクは、百名海岸のヤハラヅカサから上陸したアマミキヨが居を定めたという。頂上付近の岩陰や洞窟には、神墓といわれる拝所がある。石垣は確認できないが、周辺からは石釜や沖縄貝塚中期土器片、貝殻等が発掘されている。
産業資源	・「琉球ゴルフ倶楽部」があり、その敷地は仲村渠と親慶原にまたがっている。 ・沖縄バスの39番が運行。バス停「仲村渠」「下田」が所在する。
地域活動の概況	・地域の主要な団体は、老人会、こども会、OB会、稲作会、各種部会である。 ・評議委員会や祭祀委員会、文化行事委員会、体育委員会等の各種委員会を設置している。
観光動向	・琉球ゴルフ倶楽部では、毎年、「ダイキンオーキッドレディースゴルフトーナメント」が行われており、たくさんの観客を集めている。
PRポイント	・仲村渠は、国指定文化財である仲村渠樋川をはじめ、ミントングスク、親田御願やアミシヌ御願・綱曳き等文化資源が豊かな地域である。 ・稲藁で編まれた綱を引く綱曳きの際には、区外からも多くの人が訪れる。 ・集落内には石垣に囲まれた民家やフクギ並木等が点在し、楽しく周遊できる。
やりたいこと	・昔は馬を用いて生活していたことから、垣花や下田も含め集落内を馬車で散策する、地域の文化資源の案内プログラムをつくりたい。 ・ムラヤーを活用して、伝統芸能の継承の稽古、デイサービス、PTA及び青年会、女性会等の居場所づくり（サークル活動等）等を行いたい。 ・今後興味のある活動は、若者の地域活動への巻き込み、伝統・文化・芸能の振興等であり、子どもたちへ仲村渠の祭祀行事や綱曳き文化を引き継ぐため、壁画プロジェクトが始動している。 ・「稲作発祥の地」仲村渠を内外にPRし、地域の絆を再構築するために、子どもたちへの田植え・収穫体験や自作藁100％の仲村渠綱、「仲村渠米」の商品化等、稲作事業を展開したい。
課題	・人口減少・高齢化が進んでおり、若い人の参加が少ない等、行事の存続が難しくなってきている。特に綱曳きのときに綱を打つ人と曳き手が足りない。 ・仲村渠樋川の清掃当番をはじめ、地域の美化活動の参加者が高齢となっており、大

項目	概要
	変だと感じている。 ・宅地の課題はあるが、区出身者等に宅地を格安で提供することで区の人口を増やすよう努めている。 ・垣花樋川へ至る道は、観光客等による交通量増加が問題となっている。 ・来訪者(ミントングスクや仲村渠樋川への参拝者等)のための駐車場確保が課題。

◆仲村渠の将来像案

どこか懐かしい景観をいかしたムラづくり

3つの宝：①ミントングスク　②仲村渠樋川　③綱曳き・棚田

方 向 性：仲村渠樋川は石畳の道とともに沖縄らしい癒しの空間を醸し出し、人気スポットとなっています。夏の暑い日、樋川の近くに佇んだときの気持ちよさをそのままサテライトづくりにいかしていきます。季節や曜日、時間を決めた公民館での出張カフェの展開、車の出入りを制限しての道端への涼みベンチの設置等が考えられます。また、仲村渠の大綱曳きは有名で、集落外からも多くの人が訪れています。親田という田植え儀式と絡めて、田植えから稲刈り、綱打ち、綱曳きまでを年間プログラムとして、1年間を通じて地域を理解するための体験プログラムを行うことが考えられます。昔は馬を用いて生活していたことから、隣接する垣花集落も含めて集落内を馬車で散策することも考えています。

イチ押し：海を見下ろすあずま屋での一品持ち寄りランチ会

毎月、日にち・曜日を決めて、観光客が地元の家庭料理を楽しめる屋外ブッフェのランチ会を開く。絶景の眺望を前に住民と観光客が会食し、地元のいいところを教えてあげ、後ほど集落を個人散策してもらう。

◆客観的に捉えた仲村渠の魅力と課題　※観光スタイルコンペティションからの視点

【地域の魅力・現状】

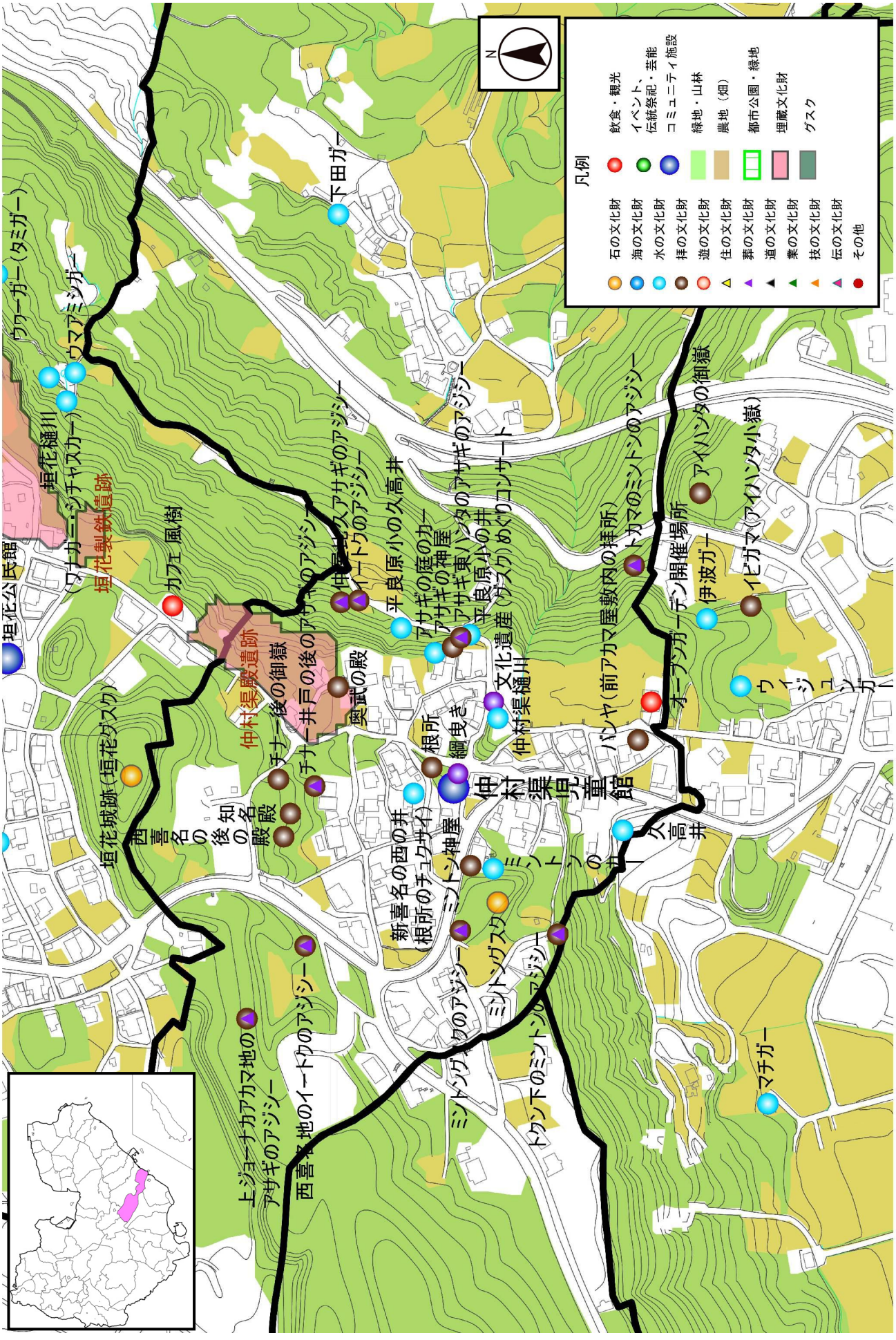
- 仲村渠樋川、ミントングスク、アミシヌ御願等の文化財が多い。
- 活用できそうな空き家がある。昔ながらのまち並みが残っていて、海等の景色がきれい。

【地域の課題】

- 人口減少や高齢化が進み、行事の存続が難しい。稲作農家が減少している。
- 他地域にある観光地へ向かうための通り道になっているが、地域に観光客が来ない。

【発表者の視点】

- ミントングスクや仲村渠樋川のスピリチュアルな雰囲気は、パワースポットにできるのではないか。
- 観光スタイルとして、文化財と空き家の活用を組み合わせて観光客を誘客するために、文化財をパワースポットにすること、空き家をハンバーガーショップにすることを提案した。
- 取組の効果は、仲村渠の魅力を知ってもらうことで訪れる人が増えて移住対象の地域になること、ハンバーガーショップの収入により資金が確保されて文化財や伝統行事の保全になること、伝統文化の継承につながり、また人口減少・高齢化の改善につながること。


凡例
石の文化財
海の文化財
水の文化財
拝の文化財
遊の文化財
住の文化財
葬の文化財
道の文化財
業の文化財
技の文化財
伝の文化財
その他
飲食・観光
イベント、伝統祭祀・芸能
コミュニティ施設
緑地・山林
農地（畑）
都市公園・緑地
埋蔵文化財
グスク
N
垣花公民館
垣花樋川
（ワナガー・シチャスカー）
ウワーガー（タミガー）
ウマアミシガー
垣花製鉄遺跡
カフェ風樹
垣花城跡（垣花グスク）
西喜名の後の殿
知名殿
チナー後の御嶽
チナー井戸の後のアサギのアジシー
仲村渠殿遺跡
奥武の殿
仲屋比久アサギのアジシー
イートクのアジシー
平良原小の久高井
アサギの庭のカー
アサギの神屋
アサギ東ハンタのアサギのアジシー
平良原小の井
文化遺産（グスク）めぐりコンサート
仲村渠樋川
根所
綱曳き
仲村渠児童館
新喜名の西の井（根所のチュクサイ）
ミントンの神屋
ミントングスク
ミントングスクのアジシー
トクン下のミントンのアジシー
ミントンの井
久高井
バンヤ（前アカマ屋敷内の拝所）
トカマのミントンのアジシー
オーブンガーデン開催場所
伊波ガー
アイハンタの御嶽
イビガマ（アイハンタ小嶽）
ウイジュンガー
マチガー
下田ガー
上ジョーナカアカマ地のアサギのアジシー
西喜名地のイートクのアジシー

（9）前川

石灰岩の集落景観と芸能・芸術の活動が特徴的な地区

項目	概要
地域の概況	・市域の南西端に位置し、當山区、屋嘉部区、船越区、愛地区、湧稲国区、さらに八重瀬町に隣接している。面積規模が大きい。 ・人口は1,095人（平成30年1月現在）で、世帯数463世帯である。高齢化率は約24％。 ・県道17号線が主要幹線であり、観光客に人気のおきなわワールドが隣接する。 ・『球陽』によると、前川村は元々高地にあったが、往来に不便であるため、1736年に仲地原に移転したとされている。現在は南面する斜面に碁盤目状に家々が広がっており、非常に沖縄らしい集落形態だといえる。
自然資源	・前川の地形は極めて起伏に富んでいる。集落南方には第四期洪積世の大鍾乳洞があり、西方には2級河川の雄樋川が流れる。
歴史文化資源	・主な文化資源には、前川樋川（飲料水や産水として使用された）や木田大時屋敷跡（琉球王国の尚真王時代に仕えた占い師の屋敷跡）、アヤグ（舞踊。無形民俗文化財）、長者大主（舞踊。無形民俗文化財）、寄鍬（演劇。無形民俗文化財）がある。 ・男性が主体となるアヤグは珍しく、おきなわワールドや市外からの出演依頼が多い。 ・集落内には石垣、石畳等石造建造物が比較的よく残っているが、戦災で焼かれたこともあり、フクギ等屋敷林はほとんどみられない。
産業資源	・主な産業は、農業（サトウキビが中心）、畜産、観光（おきなわワールド）である。 ・「南都酒造所（おきなわワールド内）」の他、カフェ・レストラン等の「飲食バイキング ちゅら島（おきなわワールド内）」「CAVE CAFE」「猫喫茶 毛玉」「Cat café」「カル．カフェ」「カフェ ゆーゆーらーさん」等多数が立地する。
地域活動の概況	・地域の主要な団体は、老人会、女性部（婦人会）、青年会、こども会、PTAである。老人会のミニデイや三味線愛好会、バドミントン愛好会のサークルもある。 ・それまで5年以上行われていなかったが、4年前に婦人会の活動が復活した。 ・前川むらやーが平成28年2月に落成した。合宿等の宿泊機能も備えており、建設を機に自治会内で一体感が生まれた。 ・むらやーを活用した事業として、平成28年度に「むらおこし芸術祭」を始めている。区民の中で有志を募り、実行委員会を立ち上げた。芸術家や玉泉洞社員も参加。 ・地域行事でも特にアブシバレーはなくしたくないと考えられている。
観光動向	・レジャー施設等の「ガンガラーの谷」「おきなわワールド文化王国・玉泉洞」や雑貨・工芸等の「沖縄手作り木工家具 まっくる屋工房」がある。 ・前川運動場があり、イベント時にはおきなわワールドに駐車場として貸している。 ・むらやーは、旅館業法で定められている簡易宿所営業の許可を取得している。
PRポイント	・伝統芸能が盛んな地域。
やりたいこと	・むらやーを活用し南城市の観光振興に寄与し、かつ地域自ら活性化に取り組むため、観光客との交流や体験活動を展開していく。 ・むらやー芸術祭では、まず区民の関心を高めたのち、観光客を集客したい。 ・市に石畳の補修を打診中。前川樋川と防空壕跡は市の有形文化財に申請している。 ・今後興味のある活動は、健康づくり、地域づくりの人材育成、若者の地域活動への巻き込み、自治会加入率の向上、観光、伝統・文化・芸能の継承、独自の資金造成へ、助成金を活用した事業の実施等。
課題	・勤労者が少ないため字費の財源に困っている。 ・次男・三男が帰郷・定住したいと思っても土地がない。農地見直しが5年に1回あり、今回の見直しで一部の宅地化を検討する。 ・区長への負担集中等の課題はあるが、対策はできていない。

◆前川の将来像

住民が主体となったムラづくり

地域資源：①豊かな郷土芸能　②新しいムラヤー　③石畳や石垣の景観

方 向 性：石畳や石垣、ヒンプン等の琉球石灰岩がつくる集落景観が特徴的な集落で、郷土芸能を受け継ぎながら、新たに整備されたムラヤーを中心に芸術祭を開催する等、伝統と創造の両面から地域づくりを進めている集落です。この企画力・行動力を今後も持続することが重要です。また、おきなわワールドに隣接することは観光誘客にとって大いにプラスになることから、地域の観光受入れの考え方を早めに確立し、連携して体験プログラムづくりに取り組むことが有望視されます。集落景観の補修・改善や空き家の有効活用等を絡めて、芸術性の高い空間としてデザインしていくことが望まれます。地域で議論しながら、住民が主役となって取組を進めていきます。

イチ押し：アーティストインレジデンス事業の展開

集落内の民泊や空き家、ムラヤーに芸術家を一定期間滞在させ、住民や芸大生等とワークショップしながら芸術作品をつくりあげることを推進する。創作された作品は、前川の芸術祭に出展する。芸術作品をインスパイアした土産品を製作して、地域の収益性を高めることもできる。

◆客観的に捉えた前川の魅力と課題　※観光スタイルコンペティションからの視点

【地域の魅力・現状】

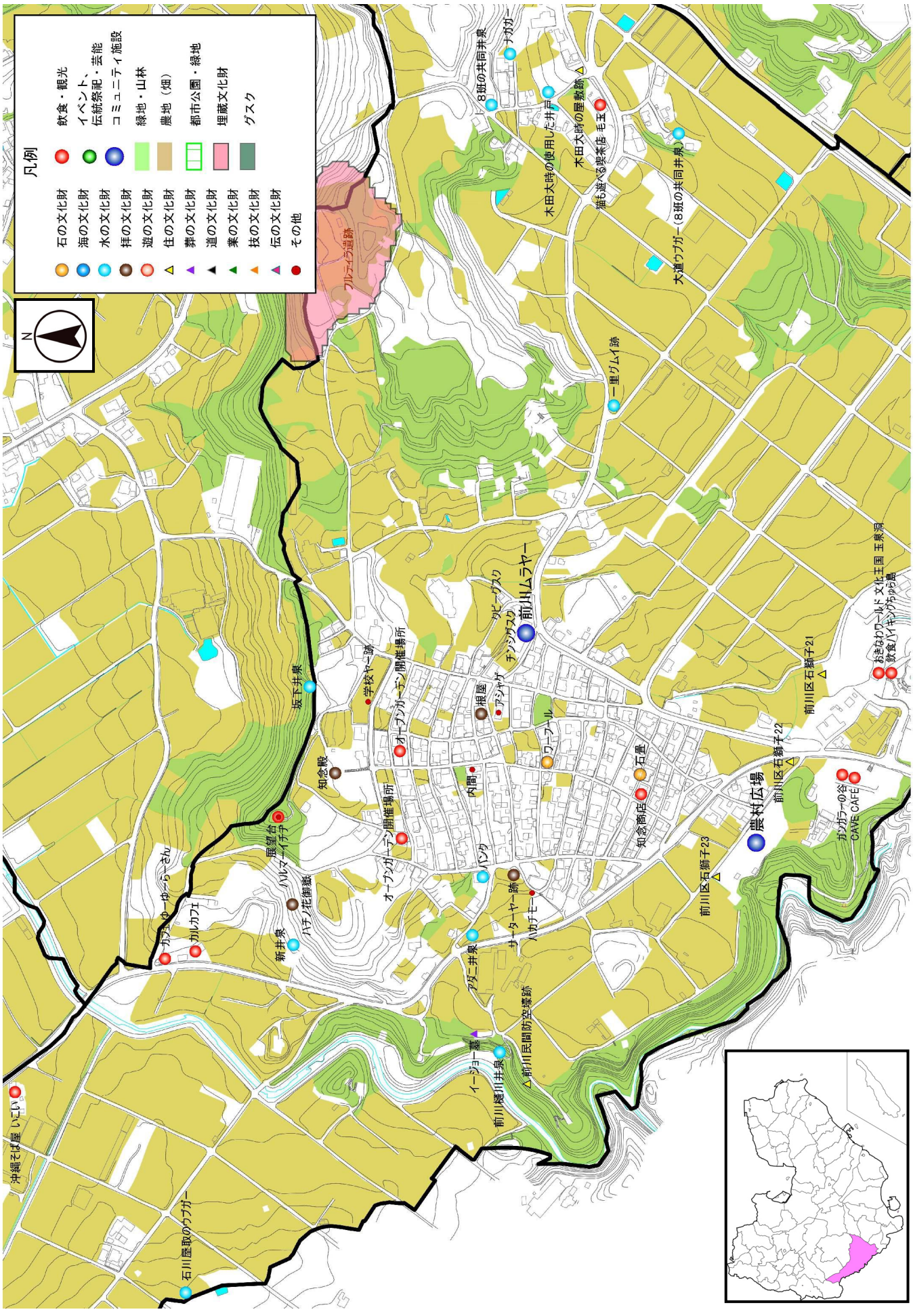
- おきなわワールドやガンガラーの谷等の確立された観光資源がすでにある。
- 崖地となっている場所に洞窟や地形を活かした防空壕等がある。
- ムラヤーの宿泊施設を活用してツアー等が組める。
- 集落が斜面地にできていて、他地区に比べて坂が多いという特徴がある。

【地域の課題】

- 文化財の道路整備がされていない。空き家の活用がされていない。
- 周辺の観光地に注目が集まるため、他の文化財の存在が知られていない。
- 高齢化が進み、自主財源に困っている。

【発表者の視点】

- 比較的新しい集落で、集落内には風水の考え方を取り入れており、坂は縁起がよい。
- 観光スタイルとして、おきなわワールド等の既存のコンテンツと地域の特徴を掛け合わせて「坂イベント」を実施することを提案。その際、アーティストと住民が協力してイベントの道具をデザイン・作成することを提案した。
- 取組の効果は、既存の観光資源を活かしつつ地域住民が連携することで新しい価値がうまれること、集客力が増すことで知名度がアップし地域内で経済効果がうまれ、地域活性化につながること。


凡例
石の文化財
海の文化財
水の文化財
拝の文化財
遊の文化財
住の文化財
葬の文化財
道の文化財
業の文化財
技の文化財
伝の文化財
その他
飲食・観光
イベント、伝統祭祀・芸能
コミュニティ施設
緑地・山林
農地（畑）
都市公園・緑地
埋蔵文化財
グスク
N
フルテイラ遺跡
8班の共同井泉
ナガガー
木田大時の使用した井戸
木田大時の屋敷跡
猫も遊べる喫茶店 毛玉
大道ウブガー（8班の共同井泉）
一里グムイ跡
前川ムラヤー
クビーグスク
チンシグスク
根屋
アシャゲ
ワーフール
内間
石畳
知念商店
農村広場
前川区石獅子21
前川区石獅子22
前川区石獅子23
おきなわワールド 文化王国 玉泉洞
飲食バイキングちゅら島
ガンガラーの谷
CAVE CAFE
学校ヤー跡
オープンガーデン開催場所
坂下井泉
知念殿
展望台
ハルマーイチヤ
ハチノ花御嶽
新井泉
カフェゆーゆーらーさん
カルカフェ
バンク
サーターヤー跡
ハカチモー
アダニ井泉
イージョー墓
前川民間防空壕跡
前川樋川井泉
沖縄そば屋 いこい
石川屋取のウブガー

2－3. 地域が抱える課題と提案

（1）地域が抱える問題

本事業では9つのサテライト候補地を対象に地域入り懇談会を実施したが、これらの9地区は、それぞれ特徴が異なり、また自治会活動の状況や観光に関する議論の深まり方についても違いがある。そのため地域入り懇談会でも様々な意見が出されたが、複数の地区で共通する問題も見受けられた。ここでは、そのような地域の悩みや困りごとについて整理する。

①地域資源の価値の共有

南城型エコミュージアムでは、地域住民一人ひとりが地域の歴史文化や様々な資源について学び、大切に育んでいくことを基盤に据えている。しかし、文化遺産をはじめとする地域資源について、住民自身があまり知らないという地区もあり、地域資源の価値や魅力についてサテライト内で共有することが課題となっている。とくに世代間の知識・関心の差は顕著であり、地域資源についての経験や知識・技術を持つ世代が健在なうちに、継承・共有のための取組を行うことが重要である。

また、地域の魅力については住民だからこそ気づきにくい魅力があることから、外部者の視点による客観的な魅力・価値についても、サテライト内で共有していくことが望まれる。

②人材不足と若者の巻き込み

人材不足は、多くのサテライト候補地が抱える悩みである。「ムラヤー利活用戦略」においても、自治会が直面する問題として担い手不足が挙げられており、新たな地域活動の担い手の獲得が課題となっている。また、実際に活動を引っ張るリーダー的存在や、まちづくりに一歩踏み出す尚巴志スピリットを持った人材の育成も重要である。

人材不足の根本的な解決のためには、三世代同近居の取組や仕事づくり等の市ぐるみでの取組が必要になる。サテライト候補地では、まずは、これまで地域活動とは縁遠かった人々に地域活動に参加してもらうための取組から始めることが考えられる。とくに若者の巻き込みは、①で整理した地域資源の価値を世代を超えて共有することにもつながるものである。若者の年中行事や地域活動への参画をどう促すかが鍵となる。

③観光による地域への還元（リターン）

地域入り懇談会のなかでは、観光客の増加によって地域で問題が起きていることから観光に対して批判的な印象を持つ意見もあったが、一方で、観光客の入域を拒めないのであれば、地域にも（金銭的に）還元されるような仕組みづくりをめざしたいとする意見もあった。地域散策等に取り組んでいるが収益化が課題となっている地区もある。南城型エコミュージアムは、エコミュージアムという概念を活用して観光まちづくりを行うものであり、地域として観光をどう考えるのか、訪れる観光客に地域がどのように対応するかについて議論し、観光によって地域が潤う仕組みを検討していく必要がある。

④地域資源の有効活用

サテライト候補地には、ムラヤーが防災・観光拠点として位置づけられている地区もあることから、その観光活用が課題となっている。ムラヤーの活用にあたっては、ムラヤーを核として観光を促進し、地域にお金が落ちる仕組みを構築することが望ましい。また、近年Airbnb等の普及により民泊需要が高まっていることから、地域に存在する古民家や空き家を活用したビジネスチャンスと考えられ、このような地域資源を活用することも重要である。

また、その他の地域内に存在する資源が有効活用できていないことが課題として挙がる地域も多い。例えば、綱曳きのための綱づくりの技術や稲作等の農業技術を活用して、地域の記憶や技術を継承することが望まれている。地域資源の活用は、体験プログラム等として提供することで課題③の観光による地域への還元にもつながることが期待される。

（２）課題解決にむけた提案

前項で整理した課題の解決にむけて、考えられる取組例について整理する。いずれの課題もすぐに解決できる課題ではないため、地域の状況に合わせて試行錯誤しつつ、焦らずに活動することが重要である。ここで示した取組案は一例であり、地域が考え方や取組を整理する際の参考としてもらうことを目的として整理した。

①地域内での勉強会・同好会のアイディア

- 地域の文化遺産等について知識を共有し継承するための勉強会を実施する。勉強会のテーマは文化遺産に限る必要はなく、地域情報の共有や、地域で取り組みたいことを語り合う会としてもよい。
- 地域資源の価値の共有という観点からは、幅広く住民に呼びかけることが望ましいが、まずは仲間等の少人数でも始めてみることが重要である。毎月１回、２ヶ月に１回等決まった時間を設けて、地域資源についてユンタクする集まりを実施してみてはどうだろうか。

【取組の概要】
- 地域の文化遺産などについて、知識を共有し継承するための勉強会を実施する。
- 文化遺産だけでなく、地域情報の共有や、地域でやりたいことを語り合う会を兼ねてもよい。

【目的・目指す効果】
- 地域住民が地域の文化遺産などについて知ることにより、自分の地域への理解や愛着が高まる。そのなかから、地域を引っ張る人が生まれることも期待される。
- （地域内の）人のつながりができる。

勉強会・同好会を長く続けていくためのポイント

Point① 定期開催
- 「毎月第〇土曜日」など、決まった日時に定期開催とすることで、連絡調整などの手間を省くことができる。
- 定期的に開催することで、新規参加者が参加しやすくなる。

Point② 来るもの拒まず
- 地域内外の新たな参加者を歓迎する。
- 疑問が出たら、地域外から専門講師を探してみることも手。
- ただし、勉強会を実施するにあたってのルールや話合いのマナーは重要。

Point③ よんなーよんなー
- 勉強会といっても気負わずに、みんなで地域についてユンタクする機会と捉える。
- 人材育成は時間がかかる。気長にいこう。
- 冗談を言い合いながら、気楽な雰囲気を心がける。

取組のアイディア（例）

	概要	呼びかけ対象（例）	カリキュラム（例）
レベル① **地域で知識を共有**	• 高齢者から青年・子どもまで、地域の記憶を共有する勉強会。 • 文化遺産等について皆で思い出話をユンタクしたり、散策したり。毎月1回開催。	• 区民全員（高齢者から若者まで／生粋の地域住民から転入者まで） • 区外に出ている元区民や子・孫	① カー（井戸）について語る ② グスクや拝み場所について語る ③ 自然（山や海）について語る ④ 伝統芸能について語る（数回） ⑤ 衣・食・住について語る（数回） ⑥ 昔の遊びについて語る ※「ヌーバレー」など具体的にひとつのテーマを取り上げても面白い
レベル② **専門家に訊きたい！**	• 文化遺産や地域が抱える課題・疑問などについて、専門家に解説してもらう勉強会。 • 講師を招いての講演会形式となるため、隔月での開催を想定。	【講師】 • 知りたい分野・テーマの専門家 【参加者】 • テーマに興味がある（関係する）区民	① 御嶽とは何か？ ② 地域の自然環境の特徴 ③ 集落の成り立ちと歴史 ④ 大災害！そのときどうする！？（災害時に区でできる対応を学ぶ） ⑤ 他自治会の取組事例（各種テーマ）
レベル③ **めざせ！字誌編さん**	• 字誌など、地域の歴史文化を整理することを目的とした勉強会。 • 実行委員会形式など、詳しい人を中心に少数精鋭で実施。曜日を決めて、毎週開催。	• 地域の歴史文化に詳しい高齢者 • ガイド経験のある区民 • 聞き書きや情報整理が得意な若者	① 地域の文化遺産のピックアップ ② 字誌の構成（章立て）の検討 ③ 集落の成り立ち・歴史の情報収集 ④ 文化遺産の情報収集 ⑤ 執筆担当者の分担 ⑥ 原稿作成、写真・図版の収集 ⑦ 内容確認・校正

②若者の参画を促す取組のアイディア

- 若者の地域活動への参画を促すためには、若者から敬遠されている理由を解きほぐすことが重要である。まずは、若者と世間話ができる顔見知りになったり、若者が参加しやすい雰囲気をつくったりすることが考えられる。
- 地域の子どもや青年層が参加したいと思う取組等を実施することで、若者が地域と関わる機会を増やしたり、地域への関心を持たせたりすることも重要である。

取組のポイント
- 興味がありそうなりそうな住民や出身者に、どんどん声をかけてみよう。
- 時間を要する取組なので、地域活動を楽しむ雰囲気をつくり、無理をしない、無理をさせない。

取組内容（例）	実施案（例）	目指す効果
①若者が好きそうな要素をプラス • 普段の行事に、若者や子どもが興味を持ちそうな要素をプラスしてみる。	**インスタ映え選手権** 行事などを撮影した写真を展示して、区民投票を実施する。	行事への関心が高まるだけでなく、行事の記録に活用できる。
②子育て世帯をターゲットに • 子どもが来れば親も参加する。子育て世帯をターゲットに取組を実施してみる。	**おさがりマーケット** 使わなくなった学生服などを持ち寄って交換会を実施する。	交流をとおして、顔見知りが増え、行事にも参加しやすくなる。
③若者主体の取組を支援 • 若者が取り組んでいる活動にも参加する。 • 活動資金や知識などで支援する。	**活動応援団** スポーツ大会等に足を運び、応援して交流を図る。	活動を応援してもらうことで、若者と地域とのつながりがうまれる。

若者に参加してほしい理由
- 地域活動や行事の人手が不足
- 地域行事や技術などの継承
- 若者がいると活気がでる　など

相反

若者が参加しない理由
- 関心がない、メリットを感じない
- 活動が負担、面倒である
- 知り合いがいないので敬遠
- 取組の情報を知らない　など

敬遠されている理由を解きほぐすことが必要！

ポイント　大切な活動だから楽しく無理なく

①若者と顔見知りになろう
- 話し相手がいる場は参加しやすい。地域の若者と気軽に話せる関係になる。

②自分たちも楽しもう
- 現在参加している方々自身が楽しく活動していることが伝われば、興味を持ってもらえるかも。

③できることを続けていく
- 無理なく、できることを続けていくことが大切。
- 継承に緊急性があるものは撮影して記録を残す方法もある。

オススメ活動例　地域には資源がいっぱい

地域には公務員、会社員、家事のスペシャリストなど、様々なスキルをもった先輩たちが沢山いる。その強みをいかして、若者のよき相談相手や気軽に話せる関係になろう。

例①
夢サポート体制づくり
- 自治会または各種団体で若者や悩みの相談箱や窓口を設けて、アドバイスや手助けを行う。

例②
地域のスペース貸出
- 学生の勉強場所や、結婚式の余興、話し合いの場所に古民家や公民館を貸し出すことで、若者をサポートする。

③観光によって地域が潤うためのコミュニティビジネスのアイディア

- 集落内の観光施設を訪れる観光客を対象に、食事の提供や商品の販売等を行う。観光消費を促し、地域にお金が落ちる仕組みの構築や、住民の収益機会、雇用創出につながることが期待される。
- 商品の販売だけではなく、民泊と連携した体験学習・地域散策を提供することも考えられる。

取組におけるポイント

１)地域の各団体との連携
各団体で役割を分担し、地域一体で取り組むことで、強固な実施体制を築く。

２)広報戦略を練る
周辺観光施設でのPRや、観光雑誌、SNS等を活用した情報発信を行う。

３)徐々に活動を拡大
最初は実験的に実施するなど、無理のない取組で活動に継続性を持たせる。

４)適正価格
ボランティアではなく、活動や商品に見合った適正価格で提供する。

事業実施までのプロセス

①取組内容の決定
より多くの住民が集まる場を設けて、地域で何を取り組みたいか話し合う。

②体制づくり
活動の主要となるメンバーを募り、運営委員会等を設立する。

③事業計画づくり
実施時期や場所、販売する商品の内容を検討する。運営資金の確保や収支のバランスについても検討する。

④実施・事業拡大
事業を試験的に実施してみて生じた課題の解決策を検討する。PDCAサイクルで徐々に事業を拡大させる。

取組のアイディア（例）

DINING OUT風 in 文化財で 地元の食をPR！

全国で広がりをみせている「ダイニングアウト」に取り組む。地域の伝統芸能や食文化の魅力を引き出す期間限定の野外レストランである。
地域にあるグスクや文化財を会場とし、南城市の一流シェフが調理した料理を提供、地域の伝統芸能を披露する。
日常の風景が特別な場所に演出され、訪れた人は五感を通して地域の歴史や文化、食を感じることができる。

初日の出やヌーバレーで コーヒーや軽食の提供

地域に多くの人が集まるイベントで、コーヒーに詳しい近所のおじさんや、絶品おにぎりが作れるお母さんたちが軽食を提供する。口コミが広がって、毎日の提供を求められるかも・・・？

わら細工のストラップを ガチャガチャで販売

何が出てくるかわからない楽しさ、シリーズで集めたくなるディープ感、無人でも販売できる手軽さ。ガチャガチャは、リスクの低い取組としてオススメ。わら細工製作を通して稲作文化の継承、PRへ！

区の広場を貸し出す

頻繁に使われていない区の広場や公園などの空きスペースを区外の人に貸出す。市内外、県外の利用者によっては、パーティやBBQ、結婚式の会場として魅力的に見えることもある。1時間や1日単位で貸し出してみては。

集落散策マップの販売

集落の散策マップを公民館や区内の観光施設・お店で販売する。安価だと、観光客にとっても比較的手に取りやすい。集落を散策する上で守ってほしいこともマップに掲載するとよい。

民泊できる施設を運営する

Airbnbなど、全国で広がりをみせる民泊。民泊新法により、180日まで部屋を貸出すことができる。区内の空き家を借用し、民泊施設として区で施設運営を行う。リフォームの専門家を講師に呼んで、空き家を毎週少しづつ、区民で協力し合ってリフォームする。ホテルが少ない南城市では、斎場御嶽やおきなわワールドを訪れる観光客の宿泊需要が見込める。

オープンガーデンと民泊を組み合わせる

区内でオープンガーデンと民泊を受け入れている家庭を組み合わせて、体験型の観光ツアーをつくる。食事は近くの食堂やカフェを利用したり、食材を調達してきてBBQを行う。観光客の地域での滞在時間や消費額の向上を期待したい。

おやつづくりや草木遊び、三味線披露など体験プログラムの提供

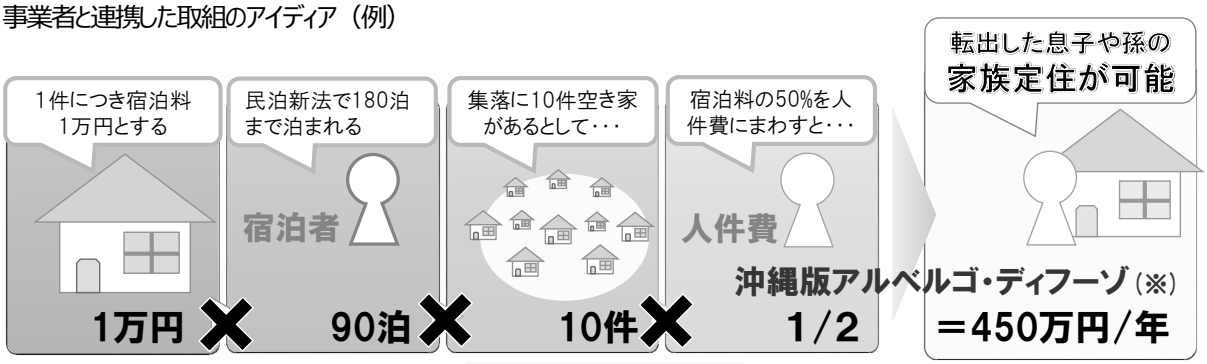
料理や三味線が得意だったり、葉っぱで昔の遊び道具が作れる区民に先生になってもらい、観光客に沖縄をより深く体験するプログラムを提供する。観光協会や旅行会社と連携し、予約制で無理のない人数を受け入れてムラヤーで開催する。

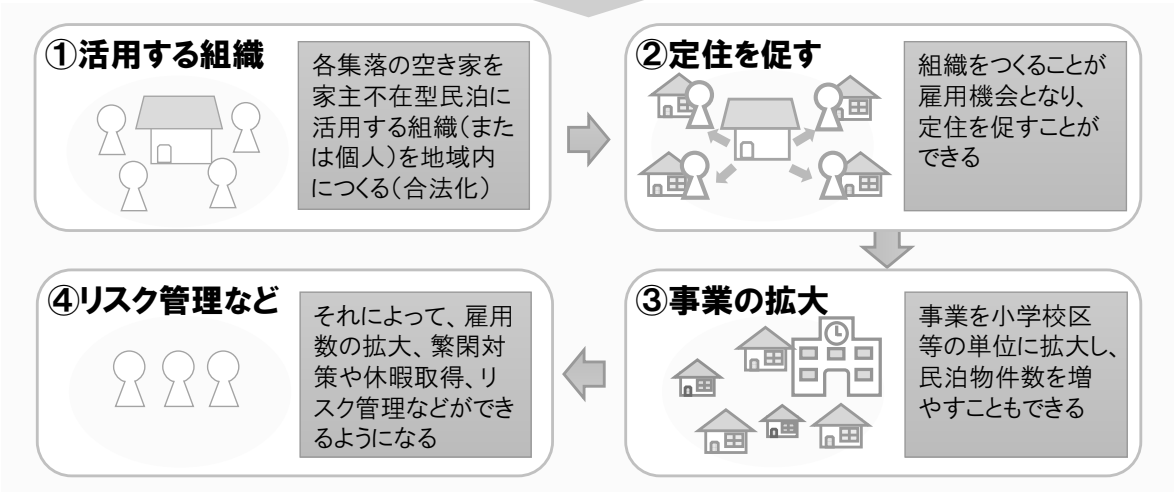
農道×ノルディックウォーキング

あまり使われなくなった農道や山道を、ノルディックウォーキング※のコースとして活用する。観光客と一緒に区民も参加して、メタボ対策や健康づくりに取り組んでみては。

※歩行の補助となる2本のポールを使い、運動効果をより高めるエクササイズ。

事業者と連携した取組のアイディア（例）

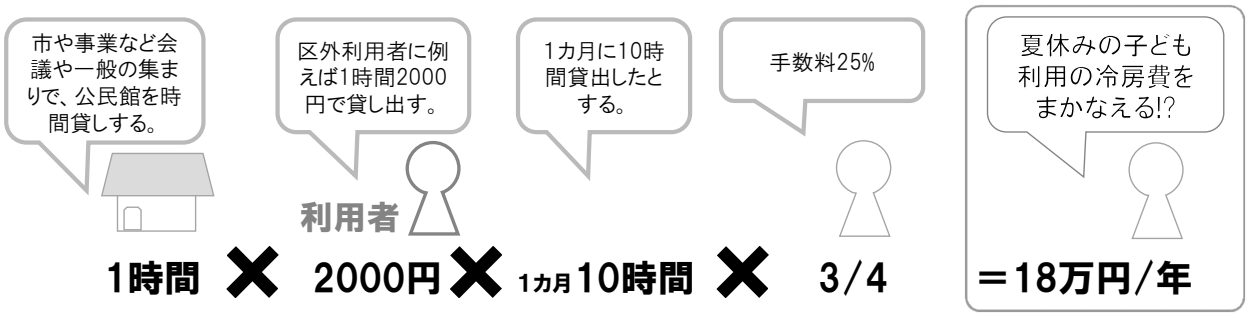


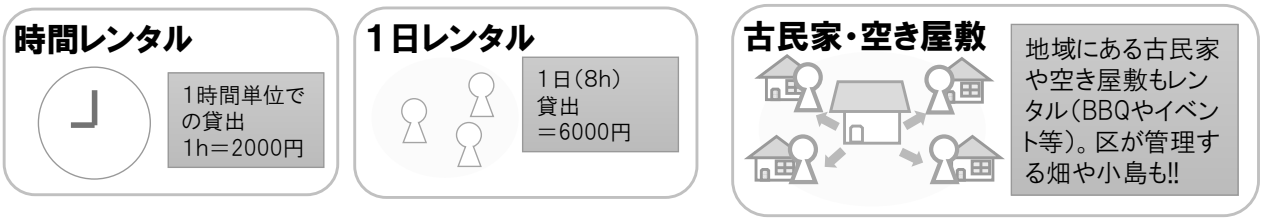


※アルベルゴ・ディフーゾとは…イタリアで誕生した宿泊タイプで、地域の歴史ある建物を改造し、客室として活用するもの。客室が村中に分散していることが特徴である。

④公民館・民家等の地域資源の有効活用のアイディア

- 「スペースマーケット」では、イベント開催・経営会議・社員研修等のビジネス利用から、結婚式・誕生会等のパーティー利用まで場所のレンタルを代行（全国で8777件、うち沖縄登録数は42件）している。このようなサイト等を活用して、公民館や区の古民家等を区外利用者に貸し出してしまうことも考えられる。
- ルールを明確にして情報発信等の工夫を行うだけで、区の活動費や今後の古民家、空き屋敷の利用へとつながることが期待される。





取組のアイディア（例）

アダンの葉や根、ススキやサトウキビの葉を活用

アダンの気根の繊維は頑丈なロープや草履や網袋に、葉は焚き物や草履に活用。ただし手間がかかる。
アダンは筆づくり＆書道体験がポピュラー。ススキ細工を教えている「沖縄草玩具館」というところがあるので、講習会を開くことも可。ススキはサンに結んで魔よけにしてきた文化があるので、短時間のプログラム化が可能。ギンネム樹皮の活用に挑戦してみるのもあり。

紙紐で代用

自然素材ではないが、市販されているので最も入手が簡単。
製作したものをお土産で持ち帰れるように価値付けする。

山羊革で高付加価値

糸数で山羊の多頭飼育が開始されており、山羊革の入手が期待できる。
綱編みを応用した山羊革のブレスレットの商品開発で高付加価値＆高値販売が可。

第3章

ディスカバリートレイルの検討

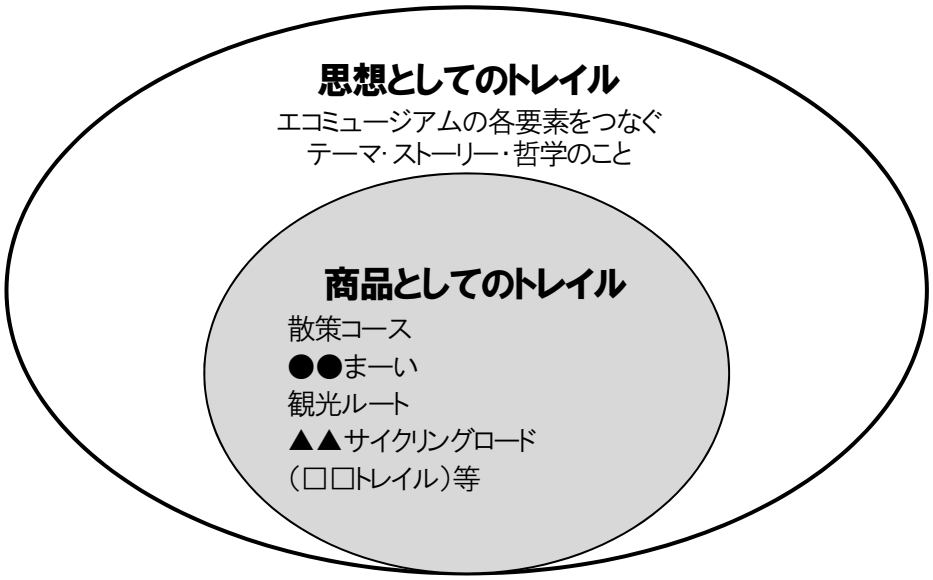
3－1. ディスカバリー・トレイルの考え方

（1）南城型ディスカバリー・トレイルの捉え方

一般的に、ディスカバリー・トレイルは、コア施設とサテライト、あるいはサテライト間を相互につなぎ、地域の魅力再発見へと導く小径だと理解されている。しかし、南城型エコミュージアムにおいては、エコミュージアムの各々のゾーニング（コア、サテライト、資源等）をネットワークする概念をディスカバリー・トレイルと捉える。つまり、道そのものではなく、地域資源を結び、組み合わせるときにテーマとなる「隠された物語」であり、関係者がエコミュージアムをデザインするための道具である。

また一方で、ディスカバリー・トレイルは観光商品としての側面も持つ。地域まーいや観光ルート等は、各資源をネットワークするという構造を具現化したものであり、ディスカバリー・トレイルといえる。南城型エコミュージアムでは、既存の思想や商品を含めて、テーマ・ストーリーや哲学を持って各資源をネットワークするものを、ディスカバリー・トレイルとする。

ディスカバリー・トレイルのイメージ



（2）ディスカバリー・トレイルの開発理念

前項で整理したようにディスカバリー・トレイルは、エコミュージアムをデザインするための道具であると同時に、観光商品でもある。市内にはすでにディスカバリー・トレイルとなる概念や商品が存在するが、エコミュージアムの取組が進むなかで新たに開発され、追加されていくことが望まれる。

その際、次のような理念を持つものを、南城型のディスカバリー・トレイルと位置づける。

１）思想としてのディスカバリー・トレイル

コンセプト①

南城市に深入りするためのダイナミックストーリー

市内を大きく回遊しながらエコミュージアムの全体像がわかり、南城市にしかない魅力を体感できる大きなストーリーを描く。歴史の再発見と伝承、そして市民のアイデンティティの確立に結びつくことが望ましいが、一方で歴史に興味がない利用者に対しては、「南」の旅情を呼び起こすような誘導や、ガイドのストーリーテリングでライブ感を出すことを行う。また、市民発案で新しいトレイルが派生的にできていくような環境づくりを進める。

コンセプト②

人と人がふれあい、元気を分かち合う

資源を結ぶだけでなく、人（市民）と人（観光客）が出会えるきっかけとして機能させる。めざすのは、人のつながりでツーリズムを超えていく取組である。南城市の日常風景が各資源のバックグラウンドとしてあり、そこに観光客が入り込むことによって、市民生活が活性化されるし、観光客も一回性（唯一無二）の体験が得られる。そのため結び合わせ役のガイドやコンシェルジュのような人材を積極的に登用する。

２）商品としてのディスカバリー・トレイル

コンセプト①

移動経路に価値を与える

トレイルに地域の哲学や暮らしの解説等を込める。昔の資源だけでなく、畑仕事や地域の商店、オープンガーデン等で現代を生きる人々とふれあえる仕組みをつくる。そのためガイダンスを鍛える。また、トレイルを歩きながら、事前の知識と目の前のもののつながったときの「あ！」という小さな発見を大事にする。当時の面影を連想させるため、景観やハード資源、民俗を保全したり復活させたりして、いつまでも変わらない沖縄の風景と息吹を感じることができるようにする。

コンセプト②

「歩くことで社会貢献する」という価値づけ

トレイルの体験が地域内の各種店舗やサービスの利用につながるように、地域にお金が落ちる仕組みと、それを運営する地元体制を整える。基本的には、サテライト同士の資源を結ぶ中距離のトレイルとし、セルフでもガイドでもどちらでも歩けるようにする。小谷まーいのような集落内の散策ルートは、住民ガイドが案内し対価を得られるようにする。また、歩きたくなるようにアレンジされたトレイル地図を販売して、セルフウォーク客も地域経済に貢献できるようにする。

3－2. ディスカバリー・トレイルの整理

（1）既存のトレイル

ここでは、市内に存在する既存のディスカバリー・トレイルについて、どことどこをつなぐルートか、どのような交通手段が適しているか、その魅力は何か等について整理する。東御廻いのような思想としてのトレイルと、実際の道路として設定されているもの、まーい等の商品としてのトレイルが含まれている。

1）東御廻い

もともとはアマミキヨが渡来して住み着いた霊地を巡拝する行事である。自然豊かで歴史に基づく道筋をたどりながら、心と体を休める人も増えており、聖地を巡る癒しの旅として観光ルート化もされている。

概要	もともとは創世神話で沖縄民族の祖先といわれるアマミキヨが、渡来して住み着いた霊地を巡拝する行事で、主に門中単位で実施されていた。琉球王国時代、大里、佐敷、知念、玉城を東方（あがりかた）と通称したことから「アガリウマーイ」と呼ぶ。
地域・資源	那覇市～与那原町～新里（場天御嶽）、佐敷（佐敷上グスク）、知名（テダ御川）、久手堅（斎場御嶽）、知念（知念城跡、知念大川）、百名（受水・走水、ヤハラヅカサ、浜川御嶽）、仲村渠（ミントングスク）、玉城（玉城城跡）
交通手段	レンタカー、チャーターバス等
トレイルの魅力等	・道中には、沖縄のウユニ塩湖と呼ばれるテダ御川や、浜川御嶽をはじめとした、自然景観に優れた場所がある。 ・グスク等を巡ることで、南城市の歴史について学ぶことができる。 ・聖地を巡ることで、琉球の精神文化を追体験することができる。

2）沖縄のみち自転車道路

沖縄のみち自転車道路は、沖縄唯一の自転車道でサイクリストには人気がある。市内ルートはよく活用されており、エコミュージアムの移動経路としても有効である。計画距離は33.5kmである。

概要	南城市玉城前川と那覇市首里を結ぶ県道236号玉城那覇自動車道の通称。南城市の史跡と首里城を結ぶ道として、平成元年に県道に指定。一部が開通している。
地域・資源	前川、糸数、屋嘉部、中山、玉城、仲村渠、垣花、知念、久手堅、佐敷、新里、大里等を経由～南風原町～那覇市
交通手段	ロードバイク、レンタサイクル
トレイルの魅力等	・おきなわワールド前からスタートし、アブチラガマや斎場御嶽等の歴史文化遺産や景勝地を巡ることができる。 ・ルートにはグスクロードも含まれており、眺望がよい。また、一部ルートが尚巴志マラソンのコースとなっている。

3)グスクロード

グスクロードは、玉城城跡・糸数城跡・ミントングスク・垣花城跡等の史跡を結ぶ道として設定された、およそ4kmの道である。

概要	玉城城跡・糸数城跡・ミントングスク・垣花城跡等の史跡を結ぶ道として設定されたもので、ルートの真ん中には、イベント会場等としても活用されているグスクロード公園が所在している。
地域・資源	玉城(玉城城跡)、糸数(糸数城跡)、仲村渠(ミントングスク)、垣花(垣花城跡)
交通手段	徒歩・ランニング、レンタサイクル
トレイルの魅力等	・全長約4kmの中に史跡や城跡が点在している。また、眺望がよい場所も存在する。 ・広い歩道が整備されており、ウォーキングや散歩にも適している。

4)車で行くおすすめコース

南城市を訪れる人は自家用車、レンタカーでの日帰り客が多い。そのため車で移動する人を対象におすすめコースを紹介したもの。「南城市ワイドMAP」(発行:南城市観光商工課)に掲載されている。

概要	車で移動する人を対象に南城市の見どころを①シーサイド、②体験、③グスク・歴史の3つのテーマで紹介している。
地域・資源①	■シーサイドコース 奥武(奥武島)、久手堅(がんじゅう駅・南城、知念岬公園)、安座真(あざまサンサンビーチ)、久高(久高島)、新里(猿人の湯)
地域・資源②	■体験コース 前川(おきなわワールド、ガンガラーの谷)、百名(新原ビーチ、百名ビーチ)、吉富(ニライカナイ橋)、久手堅(がんじゅう駅・南城、斎場御嶽)
地域・資源③	■グスク・歴史コース 西原(大里城址公園)、糸数(アブチラガマ、糸数城跡)、玉城(玉城城跡)、百名(受水・走水、ヤハラヅカサ、浜川御嶽)、知念(知念城跡)、久手堅(斎場御嶽)
交通手段	レンタカー
トレイルの魅力等	・南城市でもよく訪れられている観光スポットを巡ることができる。 ・南城市の歴史について学ぶことができる。

5)なんじょうしままーい　フットパスルート

南城市の素顔をゆっくり味わうことをコンセプトに設定されたコース。地図を見ながら自分で歩くこともできるが、基本的にはアマミキヨ浪曼の会のガイドから詳しい説明を聞きながら歩くことを想定している。地域や特徴が異なる6ルートが設定されている。

「南城市ワイドMAP」及び「南城市くくる旅」(発行:南城市観光商工課)に掲載されている。

①世界遺産(斎場御嶽)コース

概要	琉球王国最高の聖地である世界遺産「斎場御嶽」へのウォーキングコースである。コースは全長約3.5kmで、所要時間は約2時間である。
地域・資源	知念岬公園からスタートし、南城市の特産品や観光情報があるがんじゅう駅・南城を経由して、斎場御嶽に向かう。
交通手段	徒歩
トレイルの魅力等	・スタート地点の知念岬公園は、眼下に海と久高島が見渡すことができる絶景ポイントである。 ・斎場御嶽は歩くと元気になるパワースポットとして人気がある。

②垣花樋川・仲村渠樋川コース

概要	全国名水百選に選ばれた南部を代表する湧泉の「垣花樋川」ともうひとつの湧泉「仲村渠樋川」を訪ねるコースである。コースは全長約4kmで、所要時間は約3時間30分である。
地域・資源	県道137号線から入ったクレソン畑の駐車場からスタートし、仲村渠樋川、垣花樋川を巡る。
交通手段	徒歩
トレイルの魅力等	・垣花樋川は「日本の名水百選」に選ばれており、ベンチに腰掛けながら、清らかな水の音が楽しめる。 ・仲村渠集落では、フクギの屋敷林や石垣等を楽しむことができる。

③糸数・富里コース

概要	沖縄の南部を治めていた王族ゆかりの地を歩くコースである。コースは全長約4kmで、所要時間は約3時間30分である。
地域・資源	南部観光総合案内センターからスタートし、糸数グスクや富里にある文化遺産を巡る。
交通手段	徒歩
トレイルの魅力等	・糸数グスクは180mの高台に建てられた、建築技術の高い城のひとつである。奥武島を望むことができる。 ・地域のガイドと一緒に第一尚氏ゆかりの地を巡るコースであり、南城市の歴史を学ぶことができる。

④奥武島コース

概要	奥武島を時間をかけて散策するコースである。 コースは全長2kmで、所要時間は約1時間30分である。
地域・資源	島の天ぷら屋さん奥の駐車場からスタートし、島の周遊道路を通りながら、集落の中にある観音堂へと足を進める。
交通手段	徒歩
トレイルの魅力等	・歴史ある観音堂、海の祭りや海人が安全祈願をする竜宮神等がコースに含まれており、ゆっくり歩くことで新鮮な発見がある。 ・途中で天ぷらを購入し、海を見ながら食べるのもオススメ。ドライブスポットとしても人気がある。

⑤大里・南風原・西原コース

概要	展望を楽しみながらも、南城市に残る琉球の歴史や御嶽等を巡るコースである。コースは全長約5.5kmで、所要時間は約3時間である。
地域・資源	大里内原公園の展望台からはじまり、島添大里城跡、カニマン御嶽、ミーグスク展望台等を巡る。
交通手段	徒歩
トレイルの魅力等	・公園周辺は、様々な季節の草花を眺めながらのウォーキングや散歩に適している。 ・中城湾を望む展望台からは、夜景も楽しむことができる。

⑥佐敷ヤシ並木コース

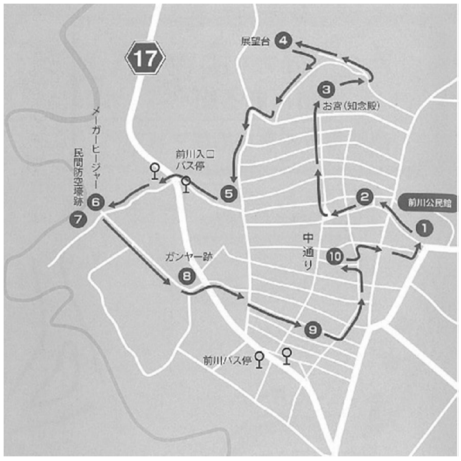
概要	南城市の中でも、南国を感じるムードある風景を歩くコースである。全長約6kmとなっている。所要時間も約6時間と他のコースに比べて長くなっている。
地域・資源	冨祖崎公園をスタートし、沖縄の天然記念物ハマジンチョウの群落観察、フッチャー岩、タチューガー、佐敷ノロ殿内、佐敷上グスクをまわり、佐敷中学校裏手の築島(兼久島)に向かう。
交通手段	徒歩　※ただし、車が必要な資源もある
トレイルの魅力等	・尚巴志ゆかりの地で、佐敷上グスクをはじめ多くの文化遺産が残る場所である。 ・佐敷中学校の裏手にある築島は、渡り鳥等の姿を観察することができる。

６)まーいツーリズム

「小規模事業者地域力活用新事業全国展開支援事業」（商工会主体）を活用して、市内の集落散策を目的に作成された地域マップである。

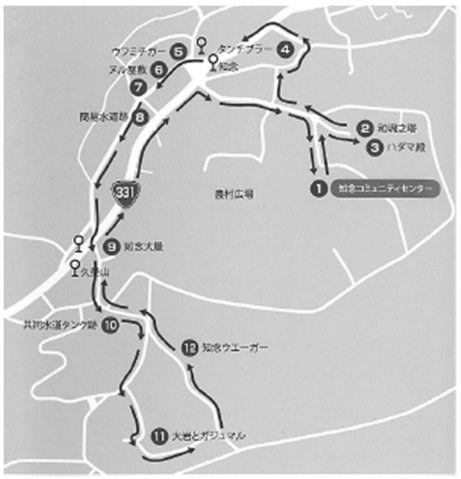
①前川（メーガー）まーい

概要	テーマは「伝統的な集落形態が残る、落ち着きのある村」。所要時間は約1時間30分である。
ルート	公民館を起点に集落内の文化遺産等を巡るコースである。
交通手段	徒歩
トレイルの魅力等	・碁盤の目状につくられた集落で、石積みや石畳、赤瓦屋根の家も目にすることができる。 ・かつての馬車道やワーフールがあり、当時の生活を垣間見ながら、伝統的な暮らしについて学ぶことができる。



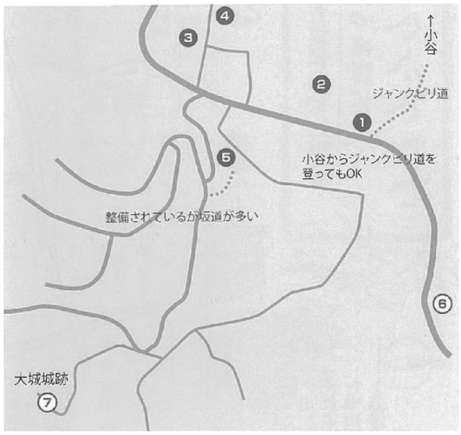
②知念（チニン）まーい

概要	テーマは「懐かしき沖縄の風情が残る、坂の道を歩く」。所要時間は約2時間である。
ルート	スタート地点を公民館として、住宅が立ち並ぶ国道沿いを南下し、集落に残るカーや殿、火の神等の文化遺産を巡る。
交通手段	徒歩
トレイルの魅力等	・曲がりくねった細い道が多く、カーや簡易水道の跡を見ることができる。 ・集落に火の神の祠が点在しており、水や火と日々の暮らしが密接につながっていた時代の精神を散策しながら感じることができる。



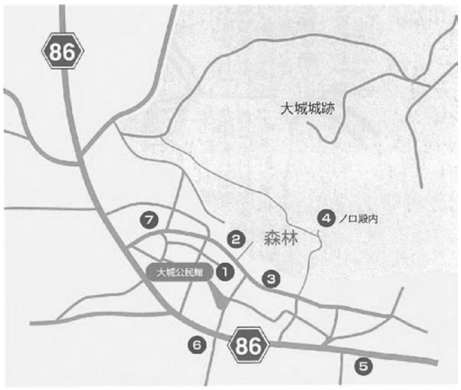
③大城（ウフグシク）まーい　山側歴史コース

概要	テーマは「山の頂で村の歴史を思いながら歩く」。所要時間は約2時間30分である。
ルート	小谷のジャンクビリ道からスタートし、佐敷や糸満方面まで見渡せる絶景を眺め、稲福集落を散策後、大城集落まで坂道を下りる。
交通手段	徒歩　※ただし、散策のために車が必要な資源もある
トレイルの魅力等	・大城城跡までのウォークを楽しみながら、集落跡とその歴史を学ぶことができる。 ・眺望を楽しむことができる。



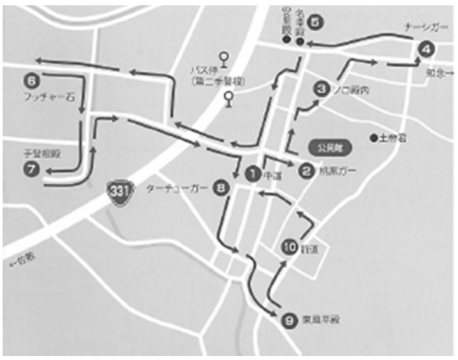
④大城（ウフグシク）まーい　大城集落内コース

概要	テーマは「山と城跡を背に広がる集落を歩く」。 所要時間は約1時間30分である。
ルート	大城公民館を起点に、集落の発祥に関わる拝所や大城城跡との関係を示す史跡、戦後の記憶が残るポイントを巡る。
交通手段	徒歩
トレイルの魅力等	・ツルが稲穂を落としたと伝わる大城集落の稲作発祥地であるムーチェー御嶽等、かつての産業や暮らしについて学ぶことができる。



⑤手登根（ティドゥクン）まーい

概要	テーマは「佐敷台地の下、海に向かって開かれた里」。所要時間は約1時間30分である。
ルート	手登根集落の落ち着いた日常の雰囲気を散策しながら、尚巴志時代から続く歴史だけでなく、戦後史の佐敷集落の一端をたどる。
交通手段	徒歩
トレイルの魅力等	・尚巴志の弟・手登根大比屋（ウフヤ）が育んだとされる集落内には、フッチャー石やターチューガー等の彼にまつわるエピソードが多く存在する。



⑥小谷（ウクク）まーい

概要	テーマは「海を見下ろす隠れ里を訪ねて」。 所要時間は約1時間30分である。マップは平成29年度に更新された。
ルート	小谷構造改善センターからスタートし、石畳道や3つのカー、ガジュマル等の自然資源を巡る。
交通手段	徒歩
トレイルの魅力等	・マップには知念按司と小谷の女性の恋物語や以前、使われていた大里稲福に通じる山道といった地元の人しかわからない情報も掲載されている。 ・アップダウンのある小谷を歴史や昔の暮らしに思いを馳せながら歩くことができる。

（２）開発例（再掲）

総論では、新たなディスカバリー・トレイルの開発例として、「歴史を学ぶ」「文化財を楽しむ」「地域の暮らしと交流」「健康増進」をテーマにした4つのルートを設定した。ディスカバリー・トレイルの開発例として再掲する。

案①「歴史を学ぶ」　尚巴志の過ごした青春時代を歩く

かつて尚巴志が暮らした佐敷の地を、その数奇な出生や歴史的な逸話を含めて、ガイドとともに歩いて学ぶ。尚巴志にゆかりのある地で史跡等も多く、歴史愛好家や歴女のようなコアな客層だけでなく、県内の小学生が琉球王国の歴史を学ぶルートとして、遠足や総合学習等に取り入れてもらう。

概要	新里−佐敷−手登根を尚巴志の物語とともに歩くルート。新里公民館をスタート地点に、場天御嶽、佐敷上グスク、フッチャー石等を歩く。小谷をルートに入れるパターンもあり。		
地域	新里、佐敷、手登根	対象	歴史好きな人、郷土学習
交通手段	徒歩、レンタサイクル等	ガイド	個人散策あるいは歴史ガイド
食事・休憩	Be−natural、Cafe椰子並木等	参考ルート	佐敷ヤシ並木コース
驚きポイント	・尚巴志は犬と鳥に育てられた（伝説） ・場天御嶽は昔は別の場所にあった（歴史秘話） ・フッチャー石は尚巴志の弟が投げたもの（伝説）		
応用例	徹底的に尚巴志の歴史を探索する ・尚巴志が捨てられていた場所、刀鍛冶、場天御嶽、グスク等の尚巴志が三山統一を果たす前に育った場所をガイドのストーリーテリングとともに巡る。		
イベント連携	・地域めぐり出前ステージ、尚巴志読み聞かせイベントと連携		

案②「文化財を楽しむ」　古から続く3つのグスク　その栄光と今を巡る

「琉球の城（グスク）をめぐる冒険」と銘打ち、古くから地域を守ってきたグスクを巡る。往時を生きた人の気持ちになって歩くことがコンセプト。御嶽や井泉とどう関係してきたのか、どのようなドラマがあったのか――そうしたストーリーから訪れた人が自らを振り返るプログラムと組み合わせる。単なるグスク探訪だけでなく、グスクの時系列的配置と空間的配置の関連性や、グスクと近隣集落との精神的つながりをガイドが説明する。

概要	糸数城跡、玉城城跡、垣花城跡を巡るルート。糸数城跡をスタートに、グスクロード、玉城城跡、垣花城跡の3つを巡り、豊かな生活基盤を築いた垣花樋川を訪れる。		
地域	糸数、玉城、垣花	対象	歩くことが好きな人、歴史好きな人、郷土学習、癒しニーズ
交通手段	徒歩、レンタサイクル等	ガイド	個人散策あるいは歴史ガイド
食事・休憩	ベジタリカ、CAFE風樹等	参考ルート	糸数・富里コース、垣花樋川・仲村渠樋川コース
驚きポイント	・糸数城跡の石積みの壮大さ（歴史遺産） ・玉城城跡の門から差す朝日、そのいわれ（歴史遺産） ・垣花樋川の水とクレソン畑（自然、農業）		
応用例	もっとグスクを知りたい城マニアへ ・3つのグスクだけでなく、ルート周辺の船越グスク、ミントングスクをガイドとともに歩き、さらに佐敷上グスク、島添大里城跡、大城城跡等も車で周遊する。		
イベント連携	・地域めぐり出前ステージ、文化遺産めぐりコンサートと連携		

案③「地域の暮らしと交流」 いつか来た道、ヤギの道

地域に伝わってきた道を当時のエピソードとともに学びながら歩く。南城市にはかつての婚礼習俗として、花嫁側が婚資となるヤギをかついで嫁入りするという歴史があるらしい。戦前の民俗や慣習、昔話等をコアやサテライトで学習して、トレイルを体験する（ヤギを連れて歩く等の疑似体験も可）ことができれば、本市だけのオリジナルな魅力が出せる。集落内では、御嶽の意味やルール（聖地での礼儀）、祈りとは何か、人と水の関係等についてもガイダンスする。

概要	小谷、真境名、稲福、大城の集落をつなぐ昔の道を歩く長めのルート。小谷の山道を出発点に、山を越えて3つの集落へと下る。		
地域	小谷、真境名、稲福、大城	対象	歩くことが好きな人、郷土学習
交通手段	徒歩、デマンドバス等	ガイド	個人散策または住民ガイド
食事・休憩	ユインチホテル南城等	参考ルート	小谷まーい、大城まーい
驚きポイント	・大城・小谷間の嫁入りが昔からあり、子ヤギを担いで行き来したこともあった（昔の暮らし） ・どの集落でもバーキをつくっていた（昔の暮らし） ・大城には旗を読み違えて戦に負けた歴史的事件があった（歴史秘話）		
応用例	ネットデトックスde こころ旅 ・当時の生活の息使いを感じてもらうため、携帯電話やスマートフォンを全て電源OFFにし、ガイドとともにゆっくり集落と集落を結ぶトレイルを歩く。都会の情報社会に疲れた人の癒し旅。 公民館de プチ体験 ・ウォーキングの途中、または最後に公民館の講座（気功、ヨガ、太極拳等）にゲスト参加する。講座後は参加者の皆さんとプチゆんたくで交流を図る。		
イベント連携	・古写真イベント、地域めぐり出前ステージと連携		

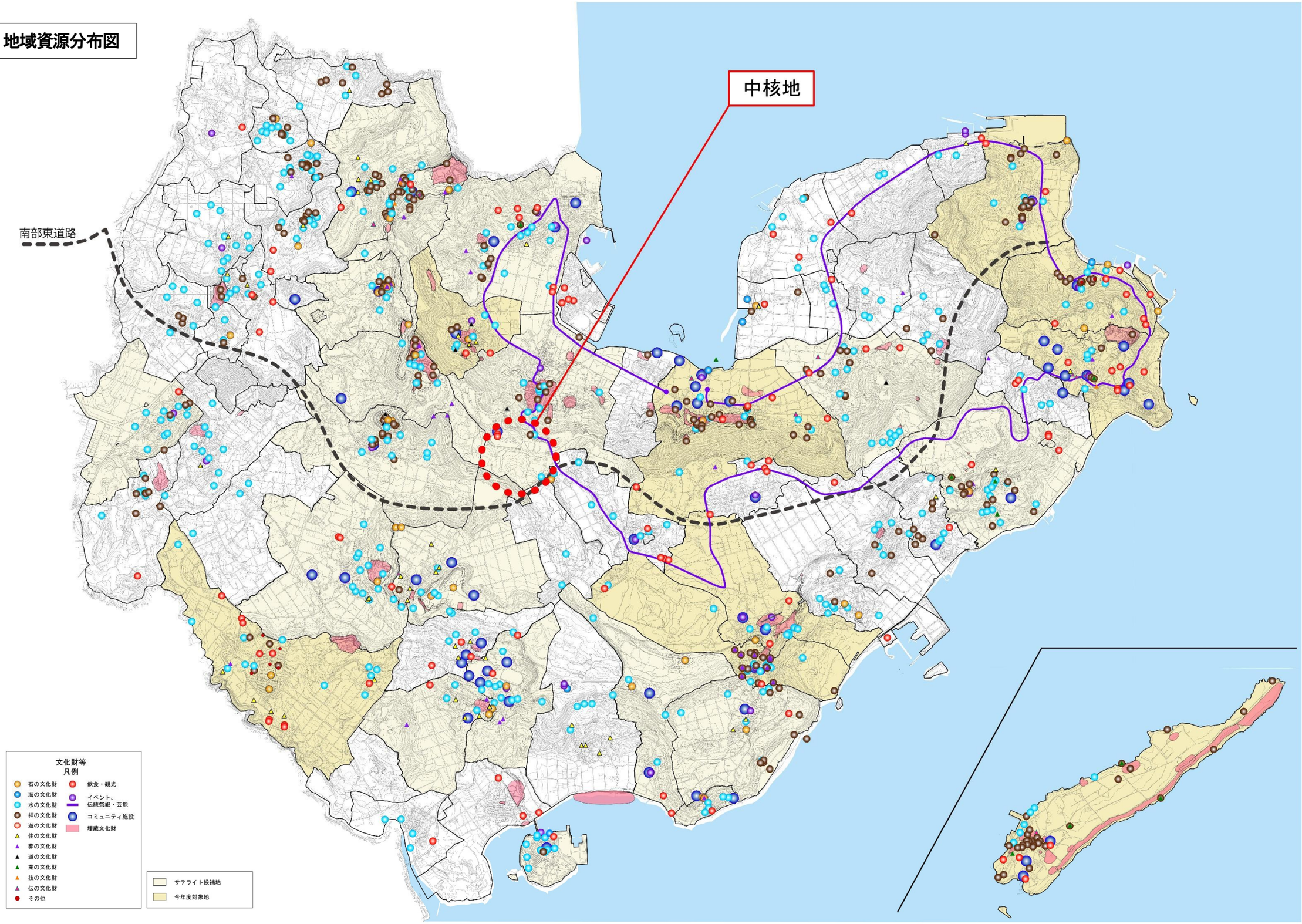
案④「健康増進」 パワースポット南城を風とともに走り抜く

主にサイクリングファンを対象に、南城市内の高台を中心にぐるっと一周する自転車に乗っての散策で、健康増進をサブテーマとする。カロリー消費量が図れる機材や、途中の見どころを解説したブックレット等も用意する。ガッツリ運動系ではなくゆっくりと回れるルートを設定し、オープンガーデンや花木の植え込みの見学、各地区のカフェでのランチ、ヨガ体験等、「新しい時代に向かって成長し続ける南城文化」が感じられるような散策ポイントや体験プログラムを交える。

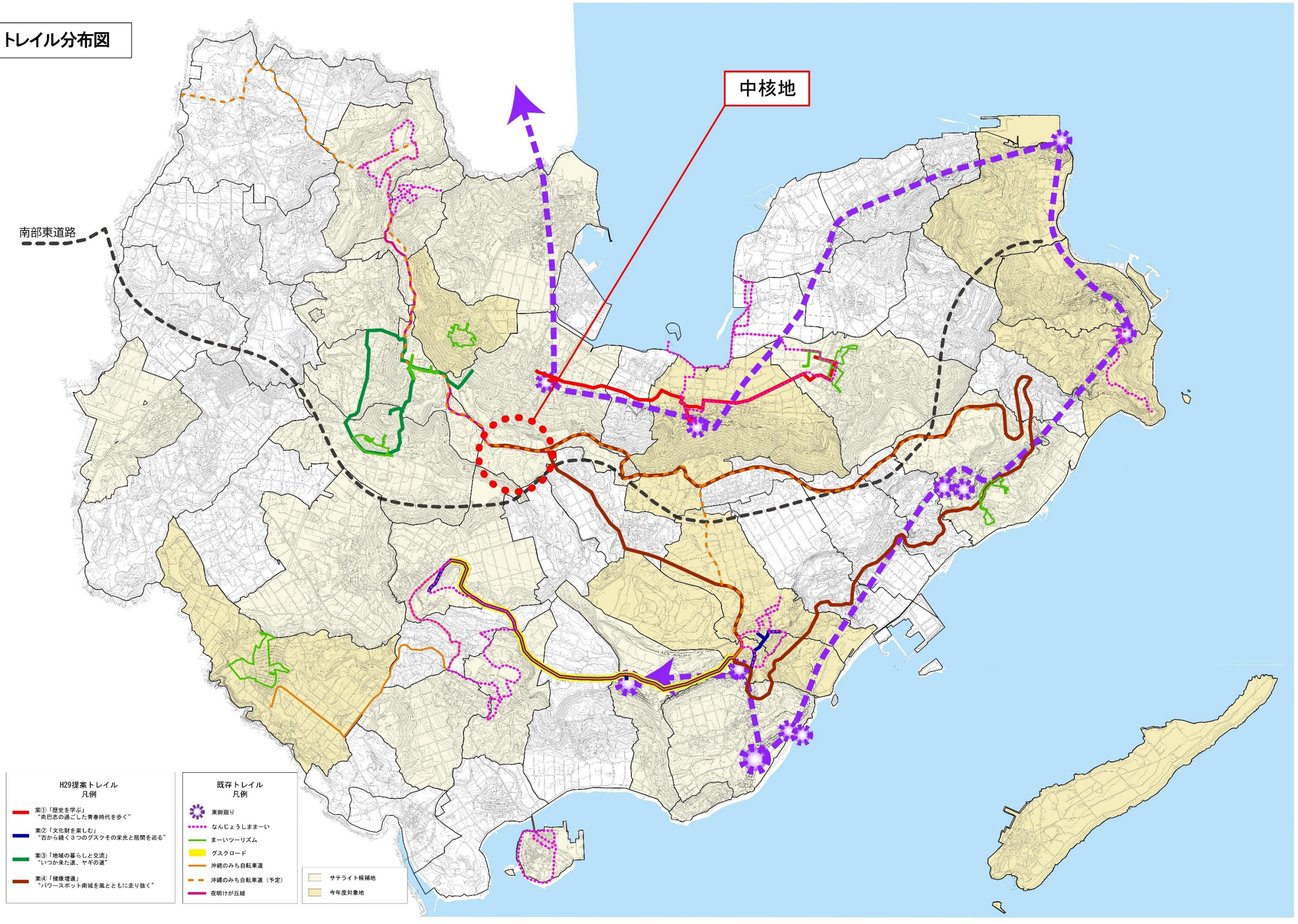
概要	自然景観、文化遺産を楽しみながら、健康増進を図る。ユインチホテル南城、ニライカナイ橋、百名、玉城を巡り、出発地点のホテルに戻る。		
地域	南城市内の沖縄のみち自転車道路	対象	サイクリスト、健康増進したい人
交通手段	レンタサイクル、my自転車	ガイド	個人散策
食事・休憩	ユインチホテル南城、カフェくるくま、森のテラス、Café やぶさち等	参考ルート	—
驚きポイント	・ユインチホテルからつきしろに向かう絶景ポイント（自然） ・ニライカナイ橋からの絶景ポイントとニライカナイ伝承（自然、伝説）		

	・水の豊かさと石灰岩の話（自然、昔の暮らし）
応用例	自転車で移動しながら南部の自然と地質を学ぶ ・車で入れない道を通りながら、石灰岩が隆起した南部の地形をじっくり観察する。つきしろから見える佐敷の土壌の豊かさと交易の話、石灰岩から湧き出る豊富な水と稲作文化等。
イベント連携	・エコスピリットライド＆ウォークと連携

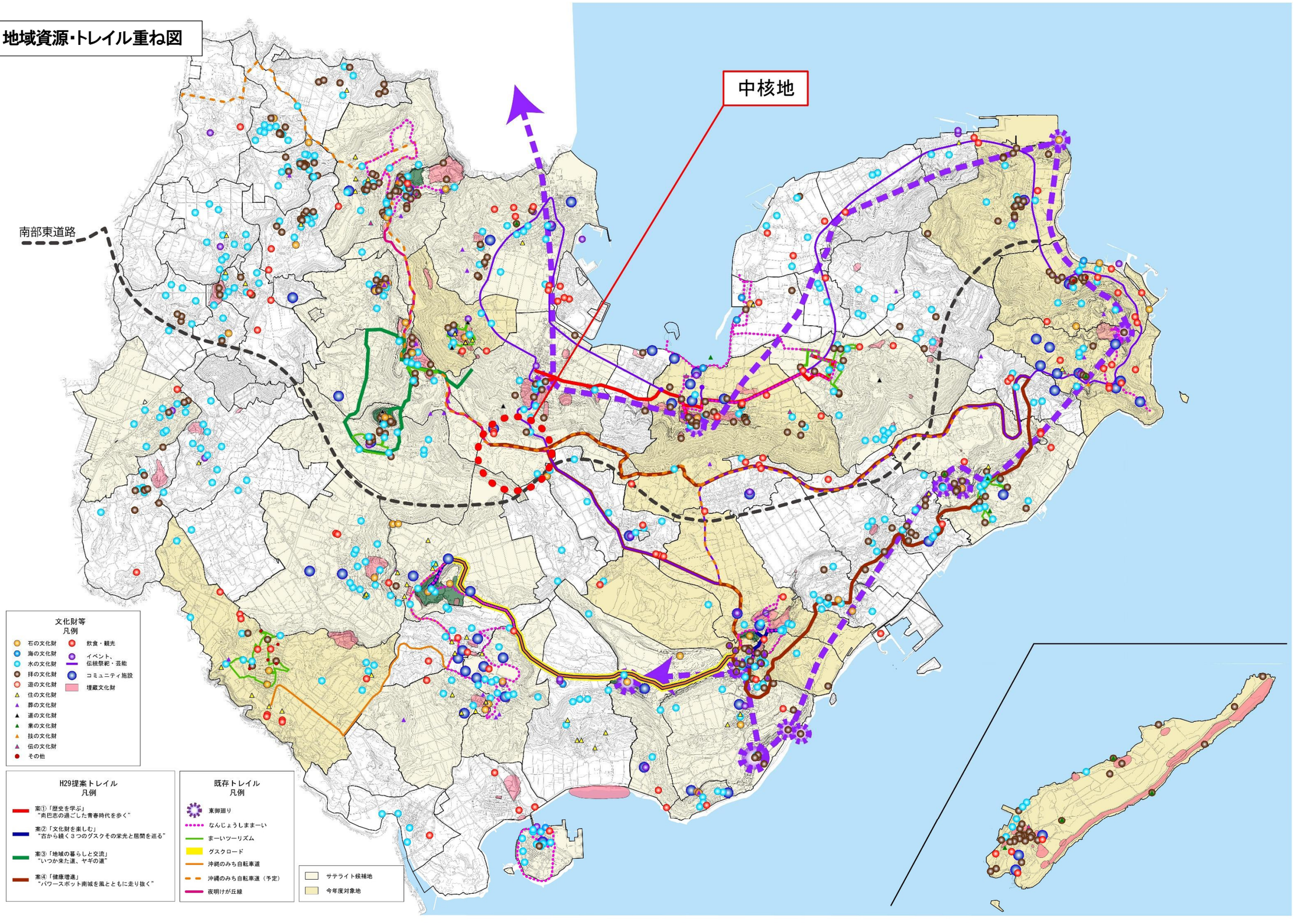
地域資源分布図


中核地
南部東道路
文化財等
凡例
石の文化財
海の文化財
水の文化財
拝の文化財
遊の文化財
住の文化財
葬の文化財
道の文化財
業の文化財
技の文化財
伝の文化財
その他
飲食・観光
イベント、
伝統祭祀・芸能
コミュニティ施設
埋蔵文化財
サテライト候補地
今年度対象地

トレイル分布図


中核地
南部東道路
H29提案トレイル
凡例
案①「歴史を学ぶ」
“尚巴志の過ごした青春時代を歩く”
案②「文化財を楽しむ」
“古から続く３つのグスクその栄光と居間を巡る”
案③「地域の暮らしと交流」
“いつか来た道、ヤギの道”
案④「健康増進」
“パワースポット南城を風とともに走り抜く”
既存トレイル
凡例
東御廻り
なんじょうしままーい
まーいツーリズム
グスクロード
沖縄のみち自転車道
沖縄のみち自転車道（予定）
夜明けが丘線
サテライト候補地
今年度対象地

地域資源・トレイル重ね図



第4章

ブランディングの検討

4－1．南城型エコミュージアムの呼び方

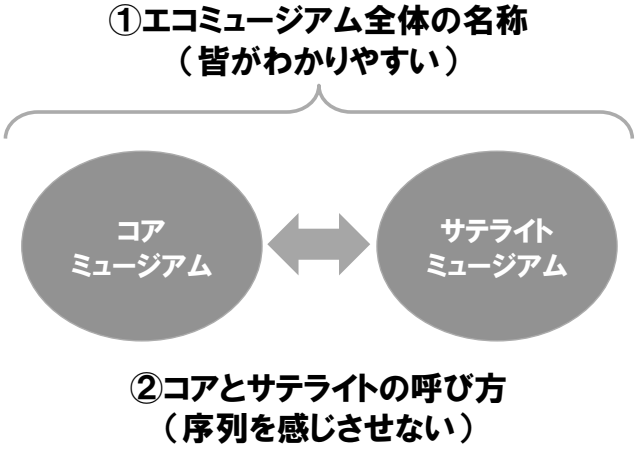
4－1－1．名称にかかる諸条件

（1）わかりやすい名称の必要性

南城型エコミュージアムとは、エコミュージアムの概念を用いて観光まちづくりを行うものである。市民の一人ひとりが学芸員として地域の魅力を学びながら大切に育んでいくとともに、様々な目的で南城市を訪れた人にその魅力を伝えることで、南城市を巡ってもらうことをめざしている。そのためには、南城型エコミュージアムを多くの人に知ってもらい、浸透させることが必要である。とくに市民に対しては、市の取組を理解し、活動に加わりたいと感じてもらうことが重要になる。

南城型エコミュージアムの発信や浸透を考えたときには、「エコミュージアム」という無機質な呼び方ではなく、覚えやすく、わかりやすい名称が必要だと考える。観光客に関心を持ってもらうためにも、プロモーションの視点が求められる。

もうひとつは、コアとサテライト等のエコミュージアムの各要素を示す名称である。総論において、「コア」と「サテライト」という名称は、コアが中心でサテライトが付随的立ち位置という誤解を与えてしまうおそれがあることが指摘されている。したがって、双方の序列を感じさせないような名称の検討が必要となる。



（2）ネーミングのポイント

ネーミングを考案するにあたって、参考までに次に5つのポイントをまとめる。

①キーワードを組み合わせる

- サービスに関連するキーワード を組み合わせてネーミングを考える発想法。シーガイア（シー+ガイア）等。
- キーワード を類語を含め洗い出す。英語のワードも同時に洗い出す。
- あとは洗い出したものを組み合わせるだけ。シンプルな方法だからこそ言葉の選び方でイメージががらりと変わってしまう。
- ポイントは、文字数の短めなキーワード、語感の強いキーワードを選ぶこと。

②文字の一部を変えてみる

- キーワード を部分的に変えて使うという発想法。インパクトが薄いときや発音しにくいときに有効。
- 基本となる キーワード を選んだら、その一部を削除したり置き換える。
- ポイントは、イメージをしっかり伝えられるキーワード を選ぶこと、見た目や発音したときの感じを考慮しながら変化させること、イメージを変えない程度に変化させること。

③接頭語、設備語を付加してみる

- 基本となるキーワードの前後に接頭語、接尾語を加える。清涼飲料水のシンビーノ「SIN(～がない)＋VINO(酒)=SINVINO」等。
- 基本のキーワード をはっきりと残しているので、親しみやすい、わかりやすい、コンセプトを的確に伝えるネーミングをつくることが可能。

④逆から読んでみる

- キーワードを単純に逆から読むというとても簡単な発想法。海洋深層水使用のミネラル飲料「MIU(ミウ)」、大分県を中心に展開するスーパー「atio(アテオ)」等。
- 逆にするだけで新鮮な響きが生まれる。

⑤語呂合わせをしてみる

- コンセプト を表すキーワード を語呂合わせする発想法。「アスクル(明日来る)」、24時間風呂「湯名人(湯(の)名人)」等。
- 親しみやすくしっかりとコンセプトを伝えるネーミングだが、少し軽い印象になってしまう可能性もある。

ポイントをふまえたネーミング例

①	くらし工房/まちぐるみーグルグル/スロー風土/あ・ま・く・ま 南城/オープンハート/ウヌママ博物館
②	Haberu/3年B組なんじょ暮ラス/見ル聞ク知ル/巡(めぐるん)/ね!(根)/語ログ(カタログ)/hibi南城/原展
③	ラ・苦楽/Mr.NANJO/ザ・知域/お帰Re
⑤	なんじょうマーチ♪/N遺産/ククルーツ(心・根)/南城の日常/チムム(肝・百)/youがwho?(世果報)/ヒルズ・スクール(山学校)/チーム美らさ(肝美らさ)
他	ウフヤーニンジュ/庭庭庭(なーなーなー)/七〇煙イ/ンムチュクヤー/南城ゴールデン[と字ガーデン]

(3)名称の決定方法

南城型エコミュージアムの名称をどのように決定するかについても、検討を進めることが必要である。次の案は、本事業で提案した決定方法(案)であるが、この他にも、サテライトの住民に考案・投票してもらう方法が考えられる。また、審査員のセンスも重要となるが、一般公募して決定することで市民の事業への参加意識を

高めることが考えられる。なお、「①エコミュージアム全体の名称」と「②コアとサテライトの名称」はそれぞれ違う方法で決定することも考えられるため、さらなる議論が必要である。

【案1】プラットフォームで決定

- プラットフォームで、案出しから名称決定までを行う。

【案2】プラットフォームで候補を選定、区長による投票で決定

- プラットフォームで候補を複数案にしぼり、最終的にサテライト候補地の区長による投票で決定する。
  - ▸ 市民全員を対象とした総選挙方式／米国大統領選方式もアリか。

【案3】神籤方式（話題づくり）

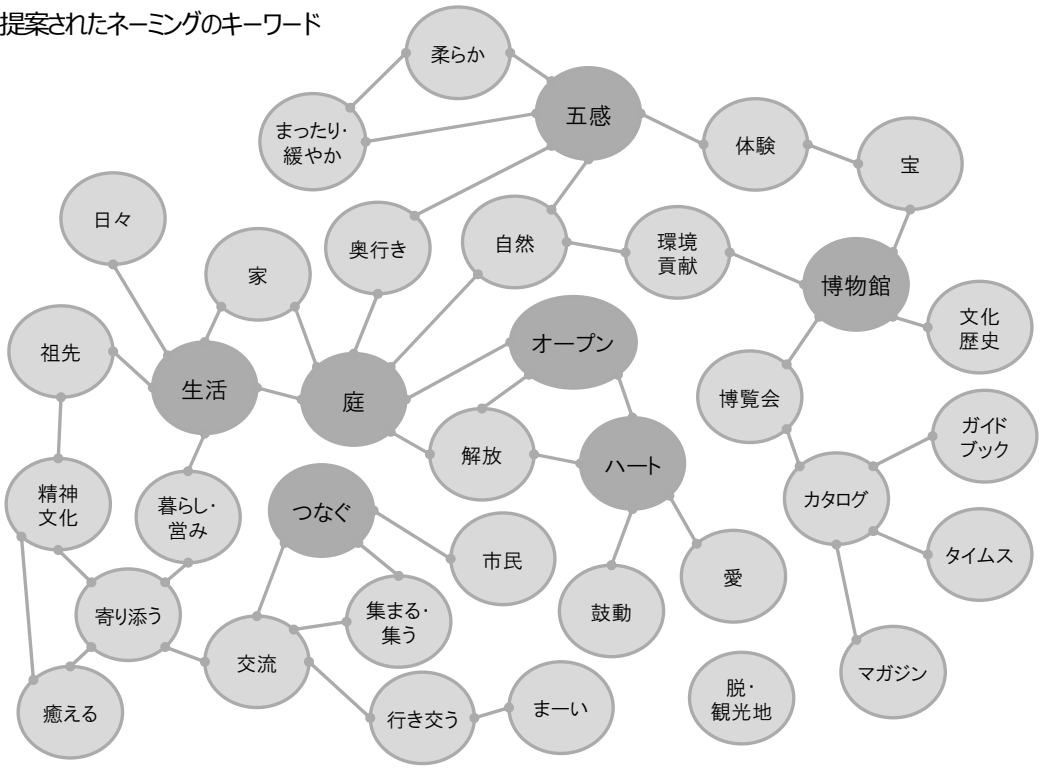
- 案1、案2で検討した名称をバーキに入れ、振って3回落ちた名称に決定する等、神様に決めてもらう。一連の名付けの儀式・流れを大々的にPR。
  - ▸ 祭祀だけでなくかつての人生儀礼もアレンジして現代にいかす。
  - ▸ 斎場御嶽や久高島等の聖地で実施する方法も。

4－1－2. 南城型エコミュージアムの呼び方（案）

（1）キーワード

今年度に開催した座談会において、委員より提案されたネーミングのキーワードは次のとおりである。

委員より提案されたネーミングのキーワード

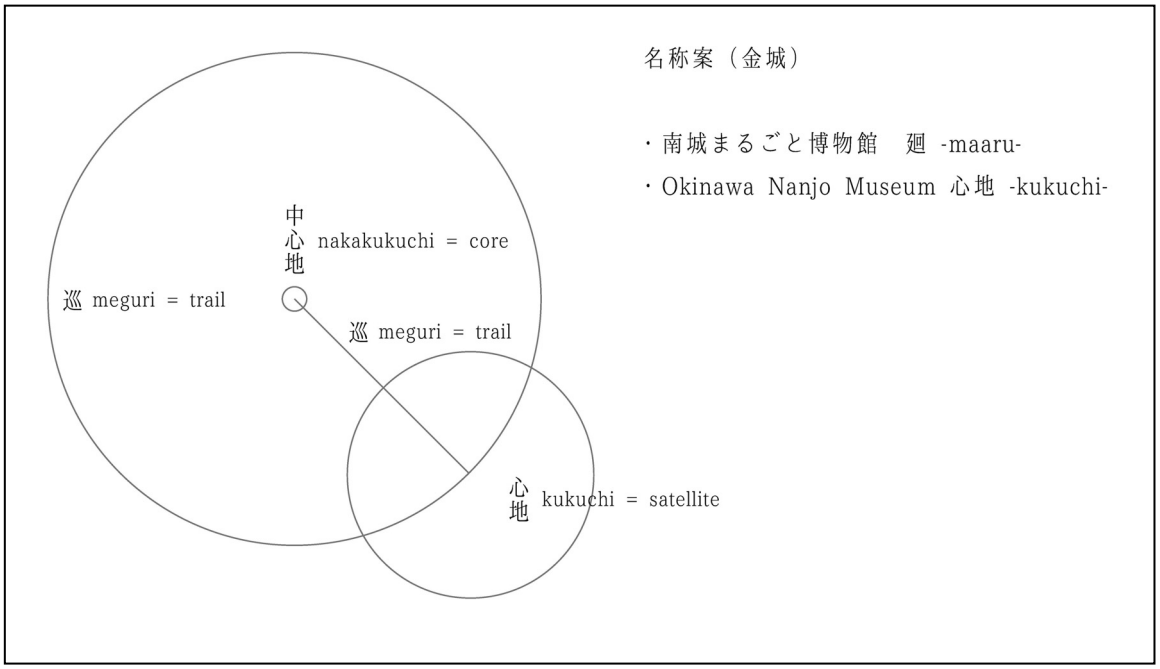


（２）平成29年度に提案されたネーミング

今年度の座談会のなかで、委員より「①エコミュージアム全体の名称」「②コアとサテライトの呼び方」について提案があった。提案内容について、下記に整理する。

- エコミュージアム全体の名称として「廻 −maaru−」と「心地 −kukuchi−」の2案を提示。
- サテライトを「心地 -kukuchi-」とし、コアは「心地」の中継地点として「中心地 -nakakukuchi-」とする。
- ディスカバリートレイルは、巡り会いのイメージで「巡 -meguri-」とする。

委員より提案された名称案



◆空気感
・気取らないけどちょっと上質な料亭の雰囲気
・意志をもった大将が営む
・若干の仏教観

◆名称
Ａ案　廻 -maaru-
Ｂ案　心地 -kukuchi-

◆サテライト
心地（ククチ）
・暮らす人の心を知る場所
・先人の心を知る場所
・自分の心と会話する場所

◆コア
中心地（ナカククチ）
・心地の中継地点となる場所

◆ディスカバリートレイル
巡（メグリ）
・心地をめぐる時間
・記憶を巡らせる時間
・巡り会いを感じさせる時間

ディスカバリートレイルを「時間」と捉え直すこともありか。
その土地の空気感をゆっくり座して感じるという時間が、意外に観光商品の中で少ないと感じている。
トレイルやサテライトの随所に南城市の作家がつくったベンチを置くことで、南城型エコミュージアムのアイコンになるかと思う。

4－2. 行うべき事業の検討

4－2－1. サテライトで必要な取組

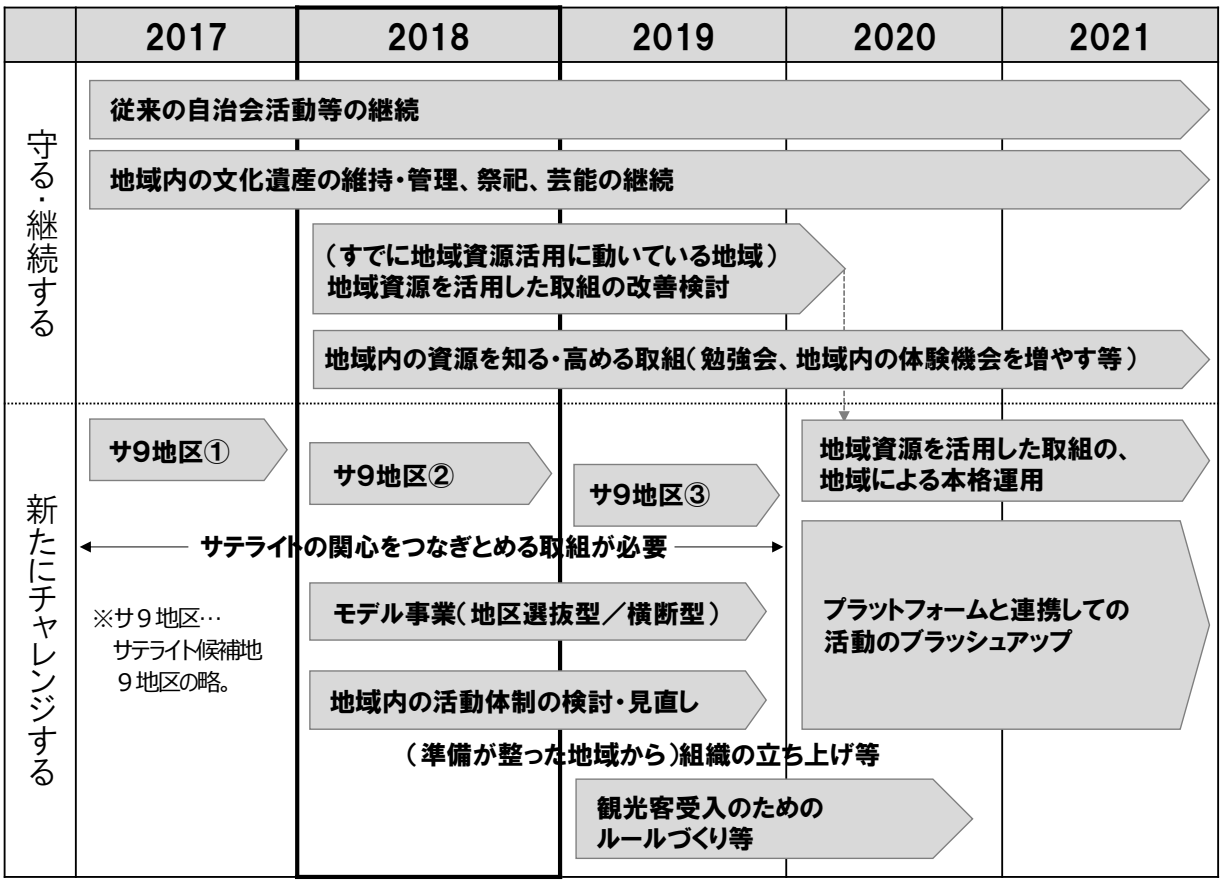
（1）サテライト候補地における取組

南城型エコミュージアムのマイルストーンを考えたとき、尚巴志の三山統一600周年にあたる2029年がひとつの節目となる。長いスパンでの取組であるため、焦らずにゆっくりと進めて行くことが重要である。サテライトにおける取組についても同様に、地域で議論が深まり、「これがしたい」と声をあげる取組を応援していく。

総論では、サテライトの活動を「ウムイ（想い）」という言葉を用いて表現している。「ウムイをめぐらす」そして「ウムイをよせる」段階を経て、結果として観光という「ウムイをこめる」、「ウムイをとどける」段階へ至ることを想定しており、サテライトの住民一人ひとりが地域に関心と愛着を持つことを基盤に据えて、皆で観光まちづくりに取り組むものである。

そのため、サテライトが現在行っている年中祭祀や芸能、文化遺産に関わる取組等、従来の自治会活動を継続していくことを基本とする。しかし、サテライトである自治会・地域は様々な問題を抱えており、現在の活動を継続することも簡単ではない地域も存在すると考えられる。まずはこのような問題を解決するための話合いや取組を行う準備期間があり、準備が整った地域から、新たにチャレンジする活動に取り組むイメージである。

サテライトにおける取組イメージ



サテライトでの事業展開（総論より再掲）

ウムイをめぐらす

子どもからお年寄りまで住民一人ひとりが、自分が暮らす地域にどんな資源があるのか、あるいは昔どんな出来事が起こったのか、過去から現在に至るまで地域に想いを巡らせます。みんなで資源の調査を行ったり、話し合いを重ねたりするなかで、地域の特徴や魅力を見つけ出します。

ウムイをよせる

みんなで想いをめぐらせて発見した地域の魅力の一つひとつに想いをよせて、花や作物を大事に育てるように地域資源の管理を日常的に行い、資源の継承や復活にむけた活動を展開します。資源に想いを寄せる人々のなかから、活動のサポーターを育成します。

ウムイをこめる

これまで想いを寄せて育ててきた資源に、地域を愛するたくさんの想いを込めて、新たな付加価値を加えます。サテライトの日常風景や人々の生活に眠る価値を再編集し、地域発の観光プログラムの創出や産業振興につなげていきます。

ウムイをとどける

地域の資源にぎっしりつまったみんなの想いを、より多くの住民や市民、観光客に届けます。多様なメディアを活用して、南城型エコミュージアムの理念が社会に浸透するように、広く地域内外に情報発信を行います。

（２）行政区の枠を超えた取組

南城型エコミュージアムでは、地域活動の基本となる単位であることから、サテライトを自治会単位で表現している。しかし、実際の活動にあたっては、複数のサテライトが連携・協働して取組を行うことも有効である。課題が共通している地域や小学校区、旧4町村等の範囲で人材を確保したり、活動を盛り上げるサポートをしたりといった連携を行うことも考えられる。

４－２－２. プラットフォームの動かし方

（１）運営プラットフォーム(※)について

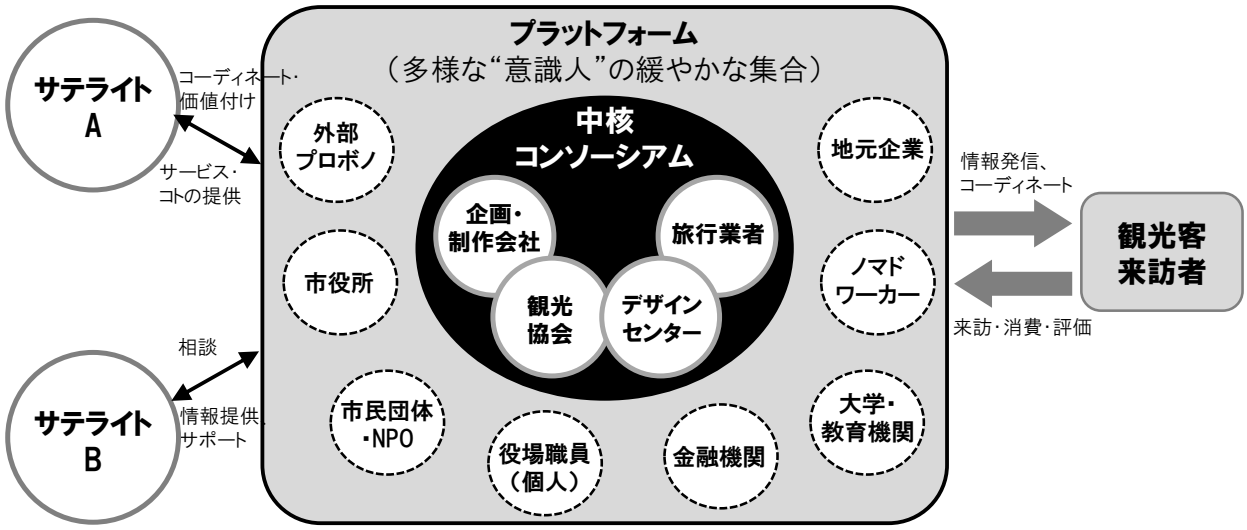
総論では、エコミュージアム運営プラットフォームの役割について、エコミュージアム全体のマネジメント・プロデュースと、サテライトのエリアマネジメントの支援の2つの役割を位置づけた。この2つの役割を果たすためには、プラットフォームの中核メンバーに加えて、様々な専門知識や技術、情報等を有する多様な主体の参画

を促すことが重要になる。そのためプラットフォームの運営については、次の事項に留意した運営をこころがけたい。

【様々な主体の参画を促すために】

- プラットフォームに参加し、交流することが、楽しい・おもしろいと感じる運営。“ワルノリ”も歓迎。
- 参加者の仕事や収入に結びつく、そのことが地域にも還元される仕組みがある。
- プラットフォームに参加することで、気付きやネットワークを得たり、社会貢献で自己実現したりと、参加者にとっても得るものがある。
- ビジネスとしての参加もOK、楽しそうだからという参加もOKのオープンな場とする。また、プロジェクト単位等、気軽に参加できる。

プラットフォームに集まる人々は、産官学民金が参画することが望まれる。常にプラットフォームに関わり続けるのではなく、サテライトから寄せられた相談や、エコミュージアム全体の運営・情報発信のステージに応じて、プロジェクト単位での参加もできる、現在進行形の集まりをイメージする。



※プラットフォームとは…人が行き来をする場所を指す言葉で、ここでは住民や行政が対等な関係でまちづくりを考える場や仕組みのこと。

（２）プラットフォームの始動（プレ・プラットフォーム）

プラットフォームを本格稼動させる前に、関わる人たちの目標共有が必要である。まず「小さなプロジェクト実施によるエコミュージアム概念の体験的理解」をめざして、スモールスタートから始めることが考えられる。プレ・プラットフォームとして取組を動かしてみることで、PDCAサイクルを回し、少しずつ活動を広げていくことを想定する。

動かし方その1

課題ソリューション短期講座

- サテライトからの相談に対応し、講師（複数）はプラットフォームメンバーのプロボノ(※)参加で、事務局が

人選・マッチングする。3回程度の講座とし、講師のレクチャーを挟みながら協働で解決策を考える。

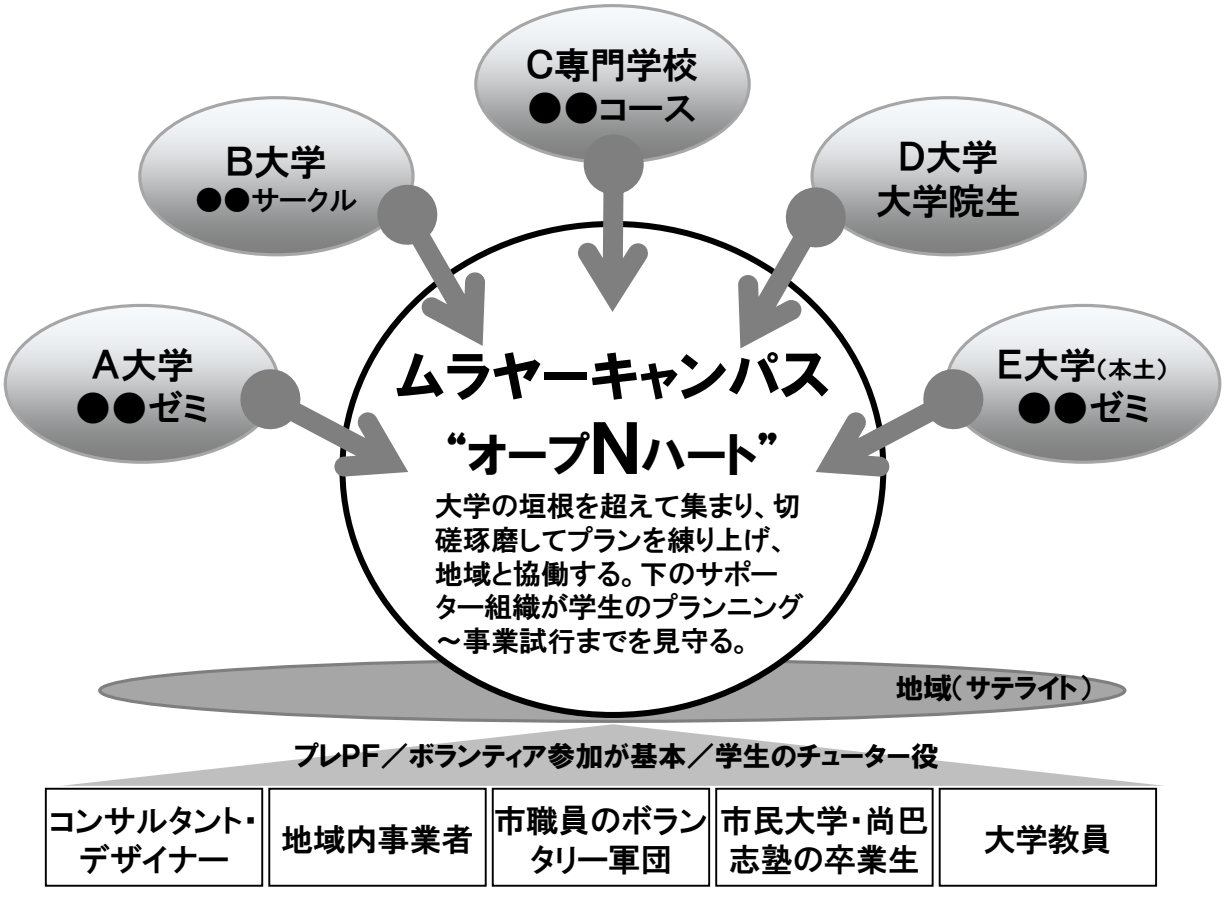
- サテライト内部の課題解決／共通する課題の横断的解決のどちらにも対応可。サテライトだけでなく、コンペ参加の学生や地域の事業者からの相談も受け付ける。
- 裏目的には「市民のプロボノ参加を拡大する」があり、定期的にカルチャースクール的な講座を開き、地域の課題と参加者のスキルが出会える機会をつくる。

※プロボノとは…各分野の専門家が、職業上持っている知識・スキルや経験を活かして社会貢献するボランティア活動全般を指す。

動かし方その2

大学生が地域に深入りする仕組み

- 大学の垣根を超えて大学生が集まり、エコミュージアムに関わる場を構築する。切磋琢磨してプランを練り上げ地域と協働する学生を、サポーター組織が見守り支援する仕組みを構築する。
- 学生の参加率を高めるため、金銭的な見返りも検討していく必要があるだろう。ツアーオペレーション、商品販売、不動産転貸等のビジネス試行で得た資金を学生に配分する等、「報酬を自分で稼ぐ」というマインドを育てることも必要である。



動かし方その3

市をあげての取組

- プラットフォームの立ち上げ時期には、市がリーダーシップを発揮することが必要であり、その第一段階として、市職員がエコミュージアム活動を行うことを支援する制度を創設してはどうか。
- 南城市では、市民大学や上がり太陽プラン等、地域活性化のための取組をすでに行っているが、市職員に対しても同様に、まちづくりに一歩踏み出す尚巴志スピリットを持った職員を育成するための支援・サポートが必要と考えられる。

4－3. プロモーションのあり方の検討

4－3－1. プロモーションの考え方

（1）プロモーションの目的

南城型エコミュージアムは、エコミュージアムの概念を観光まちづくりに活かしていくものである。観光まちづくりをめざすにあたっては、地域ならではの取組をこれまでどおり継続していくことを基盤に据えるとともに、このような地域活動を発展させて観光につなげていくことが重要になる。そのため、観光客等にむけた外向きのプロモーションに加え、市民にエコミュージアムに参画してもらうための地域に対する内向きのプロモーションの視点が必要となる。ここでは、内向けと外向けの2つの視点から、プロモーションのあり方について検討したい。

なお、実際にプロモーションを行う段階では、エコミュージアムの概念や伝え方について、関係者内である程度の共有認識を持つことが重要となる。

（2）ターゲット

内向けのプロモーションのターゲットについては、南城型エコミュージアムではサテライトを集落単位で設定していることから、市民、つまり子どもからお年寄りまで含めた集落の住民が対象となる。南城型エコミュージアムの取組は、市民活動そのものをエコミュージアムという言葉で包括するものであり、地域コミュニティの基本単位である自治会や、青年会・婦人会等の各種組織、地域資源を活用した取組を行っている法人や任意団体等にむけて、アプローチを行っていくことが重要となる。

外向けのプロモーションのターゲットについて、総論では、各サテライトが市民の日常の場であることをふまえ、地域に配慮ができる成熟した観光客を呼び込むことを想定している。具体的には、沖縄県へのリピーター、首都圏のキャリアウーマン、クリエイティブクラス、ナチュラリストを挙げている。外国人観光客については、香港、台湾、韓国、ASEAN加盟国、欧米の個人旅行者に焦点をあてている。

エコミュージアムは、各サテライトの自然や文化を体験してもらう活動であり、「地域の人」や「ストーリー」に関心のある層をターゲットとすることが望ましい。観光客の目的と地域の魅力をマッチングさせてターゲットを絞るという考え方もある。

また、近年は市内においてもAirbnb等の民泊が広がってきており、民泊利用者の市内での長期滞在が期待される。民泊利用者は地域散策等の体験プログラムを利用する可能性が高く、ターゲットに含めることで、よりエコミュージアムに関心のある層へとアプローチすることができると考える。

4－3－2. アプローチ方法

（1）内向けのプロモーション

市民を対象としたプロモーションを行うことで、エコミュージアムへの市民参画を促すことを狙いとする。

南城市らしい生活様式や伝統等を次世代へと継承していくためには、現在地域が行っている取組やかつての生活文化の復活にむけた取組を盛り上げていくことが重要であるが、年中行事にしても本来の意味どおりに行っている地域は少なく、継続していくことは簡単なことではない。そのため、市民に対してアプローチするときには、地域にとって負担とならないような方法や、地域資源とのつながりを強めることを目的にモチベーションを高めるような手法をとることが望ましい。

役場主導で進めるのではなく、自主的な取組としてもらうためにも、地域と対話を重ねて地域が本当にやりたいことを引き出したり、何かしらの利益を得ることができる仕組みを構築したりすることが大切である。

具体的な方法としては、プラットフォームや外部のプロデューサーが、地域の取組をおもしろくする仕組みづくりやサポートを行うことが考えられる。地域が現在取り組んでいる活動に対しては、発表する機会の設定や収益化への助言・サポートを行うことが考えられる。地域から新しい取組のアイディアが挙がってきた際には、しっかり話を聞いてサポートしたり、助成金による支援等が考えられる。地域資源の価値が共有されていない地域に対しては、最初の段階として住民等が自分たちの住む地域のことを知る必要があり、尚巴志塾等の関連事業と連携しつつ、地域の宝探しをするといった活動を行うことも有効だと考える。

【説明例】

エコミュージアムという言葉自体が聞きなれない言葉であり、すんなりと理解できない人がいることが懸念される。そのため、コンセプトや内容をわかりやすく、シンプルに伝える表現のあり方を検討する必要がある。

住民に対して、本事業を南城市で行う意義や目的を伝えること、そしてエコミュージアムの活動を促すために共感してもらうことが求められる。何か新しい取組を始めるのではなく、地域の土地に根付く活動を継続すること、日常生活の延長線であるということを認識してもらうことが重要となる。

次の文章は、内向けの説明例としてまとめたものであるが、今後も地域への事業の説明を重ねるなかで、修正・加筆することが望ましい。また、市との上下関係を感じさせるような表現や、住民の生活が見せ物と感じるような表現を避けること等が留意点として挙げられる。

内向けの説明例

この取組は、南城市全体をひとつの「博物館」に見立て、地域の生活や文化をあるがままを伝えることによって、私たちの暮らしの価値への理解と誇りを深めていくことをめざしています。

何か難しいことをやろうというものではありません。祭りの継承や清掃活動、地域のゆんたく等、市民の皆さんがこの地で先祖代々続けてきたことを、これからも受け継いでもらえればいいんです。そうした生き方を喜んでくれる目の肥えた人に訪れてもらえるように、市と市民が協働して全体をコーディネートしていきます。

市民の皆さんは、自分が住む地域の価値を磨くための活動にもぜひチャレンジしてみてください。それぞれの地域が市民にも観光客にも心地よい場所になるように、楽しみの要素を加えながら、「人生を豊かにするための活動」として発展させていきましょう！

（２）外向けのプロモーション

観光客に対するプロモーションは、市外に広く南城型エコミュージアムを認知してもらい、実際の訪問へとつなげることを狙いとする。そのためには、思わず誰かに話したくなるような話題性のあるもの、コンテンツをとおして南城市のファンになるような効果的なプロモーションが求められる。

総論では、主に外向けのプロモーションとして、短編小説化やクロスメディア戦略、キャンペーンやユーザー参加型企画、ショートムービーの製作等の手法を提案している。どの手法を用いたとしても、エコミュージアムのコンセプトや楽しみ方がわかりやすく伝わるようなプロモーションが求められる。

一方で、南城型エコミュージアムにおける資源は文化や自然であり、各サテライトの地域に観光客が足を運ぶこととなるため、観光客による地域へのネガティブな影響が懸念される。そのため、入域の際のマナー等についても、プロモーションとして伝えることが重要である。

各サテライトにおけるエコミュージアムの取組が進み、市全体の方向性が固まった段階で、改めて効果的なプロモーションのあり方を検討する必要がある。

（参考）総論で提案されたプロモーション例

プロモーション	概要
短編小説化	短編小説をとおして、南城市の多様な魅力や70あるサテライトのストーリーの具体化を行う。実際に足を運びたくなるようなフィクションの小説を公募する。
チャネル設計	観光客が出発する国内外の地点（発地）から、南城市内の各サテライトへとたどり着くまでのあらゆる接点にチャネルを置いてPRを行う。
クロスメディア戦略	メディアに応じて最も効果的な方法や内容で情報を発信する。YouTube、雑誌、SNS、多言語化したコンテンツ、インフルエンサー(※)とのタイアップ等。
キャンペーンやユーザー参加型企画	SNSのハッシュタグ活用、ポータルサイトのクチコミ投稿、フォトコンテスト、観光客や住民撮影による作品制作、語り合う場の提供、懸賞企画やモニターツアー等。
ショートムービーの製作	短編小説化させた各サテライトのストーリー等を脚本として、ショートムービーを制作する。動画に地域の人々を登場させる。

※インフルエンサーとは…YouTuberやインスタグラマー等、世間に大きな影響力をもつ人や事物を表す。

【説明例】

南城市として、質の高い観光行動と消費行動をとる観光客を呼び込むためには、外向けの表現方法に工夫が必要となる。エコミュージアムの概念をわかりやすく説明することはもちろんのこと、南城市を訪れてみたくなるような表現に加え、地域の暮らしや文化に関心を持つ人に響くような表現が求められる。南城市の人やストーリーに焦点をあてるのもひとつの方法として考えられる。次の文章は、外向けの説明例であるが、内向けの説明例と同様に、事業の進捗にあわせて修正・加筆することが望まれる。

外向けの説明例

エコミュージアム（仮称）は、南城市民が先祖代々紡ぎあげてきた「日常」をこれからも受け継ぎ、「楽しみ」を加えて発展させていこうとする地域価値の再発見運動です。エコミュージアムでは、「ふだんの暮らしに楽しみをみつけること」をテーマに、市民がそれぞれの地域（集落）を舞台にして、自分たちの人生を豊かにするための活動に取り組んでいます。

ところで、観光客の皆さんは毎日楽しく、幸せに暮らしていますか？　もしそうならエコミュージアムは素通りしても構いません。でも、もしそうでなかったら、何かがもの足りなかったら、南城市の暮らしにぜひふれてみてください。市民が大事にしている場所の佇まい、ライフスタイルや人との付き合い方をみて、何かを感じてもらえると思います。そして、宿泊してみてください。あなたの中の時間の流れ方が変わるかもしれません。体験してみてください。生活の本質や他人との心地よい距離がみえてくるかもしれません。

（３）今年度のプロモーションの取組

今年度、D&DEPARTMENT OKINAWAが発行する新聞「d news OKINAWA」の南城市特集において、南城市のイメージ向上を目的とした広告を掲載した。D&DEPARTMENTは、全国に拠点をつくりながら、物販・飲食・出版・観光等をとおして地域の個性やその土地らしいデザインを紹介している。「d news」という媒体を通じて、地域のモノやコトに関心がある層にアプローチすることを狙い、試験的に広告を掲載した。「NANJO HEART CITY　形だけじゃない、ハートのまち」というメッセージを市の自然や海の写真とともに載せている。

「d news OKINAWA No.3」2017年12月（広告は新聞の下部）

4－4. モデル事業の検討

（1）モデル事業について

次年度以降、サテライト候補地における活動を支援する目的で、モデル事業を実施する。南城型エコミュージアム実施計画の事業は各論として継続し、違うサテライト候補地にもアプローチしていくことになるが、今年度対象となったサテライトについても、引き続き目配りをしていく。モデル事業は、次年度にサテライトである地域と対話しながら事業を検討するが、その際、取組の主体となる範囲には様々なパターンが考えられる。ひとつの集落（自治会）による取組に限定せず、地域横断的な活動や、自治会活動とは別の任意団体等の活動についても、南城型エコミュージアムの促進にかかる活動であればモデル事業の対象とする。

取組主体の例

主体	概要
サテライト発案の取組	サテライトが新たに取り組みたいと考えている活動や、現在行われている行事・活動の改善にむけた取組等。
地域横断的な取組	共通の課題を有するサテライト同士が地域横断的に行う解決にむけた取組や、小学校区等で連携して実施する取組等。
部外者発案でサテライトを巻き込んだ取組	地域外の人が発案して地域に持ち込み、地域と一緒になって行う取組等。
地域内の任意団体の取組	サテライトの単位である自治会の活動とは別に、有志で結成された団体が行うエコミュージアムに関する取組等。

（2）モデル事業のコンセプト

モデル事業を実施するにあたっては、次のようなコンセプトを持ちたい。①だけを追求したり、②だけにこだわったりせず、両者をうまくバランスさせながら取組むことが望ましい。

コンセプト① どこまで遊べるかという視点を持つ

サテライト等の地域が主体となってエコミュージアムに関わる活動を行う場合、主体となる人々が楽しんでいることが重要である。楽しい・おもしろいという気持ちは活動のモチベーションにもつながる。また、多くの人に参画してもらうためにも楽しい・おもしろいと感じてもらうことは重要である。若者が好きそうな要素を加えたり、これまで関わりが薄かった層の関心を高めたりする工夫が必要になる。地域資源を活用した取組では、例えば「伝統芸能でエクササイズ　知名・胡蝶の舞」がある。これはヌーバレーで行われる胡蝶の舞を、その踊りのユニークさに着目してエクササイズとして捉え直したものである。

お酒の席や、一見「ワルノリ」に見える話から、新たな活動の芽が出ることもある。地域資源を活用することをおそれず、「どこまで遊べるか」という視点を持って活動に取組むことが大切である。

コンセプト② 文化遺産の本質的な価値を担保する

コンセプト①で整理したとおり、地域活動に人々の参画を促したり主催者が積極的に取組んだりするためには、「楽しさ」が鍵となる。しかし、文化遺産をはじめとする地域資源を活用した取組は「楽しければ全てよし」とはいかず、文化遺産の本質的価値を発信することが不可欠である。ときには歴史に思いを馳せ、想像を膨らませることも必要であるが、そうした味付けによって本来の意味や価値が失われてしまっては本末転倒である。また、外部からのそうした間違っているという指摘は、盛り上がっている地域活動に水をさすことになりかねない。地域資源の価値を保ちながら、活動を展開することが大切である。

ただし、楽しんで取組内容を考える人と、文化遺産の本質的な価値を語る人が同一人物である必要はないと考える。学術的な部分は市教育委員会等がサポートするといった方法を検討する。また、運営プラットフォームも、地域等が進める取組等について相談を受けつつ、アドバイスを行うことを想定する。

南城型エコミュージアム
実施計画（各論１）報告書

発行　南城市　企画部　観光商工課
〒901-0695　沖縄県南城市玉城字富里143番地
ＴＥＬ：０９８－９４６－８８１７（代表）
ＦＡＸ：０９８－８５２－６００４
編集　　株式会社国建　地域計画部